新和歌類句集十

第三句
五代集
俊屋玉章

特別
イ4
3163
22(10)

貴
14
3163
22(10)

新和歌類句集

や

新續古 秋下
やまかさなり山めとをなるてきこゆる　前大僧正慈円

新千 恋二
やへうさるれかえるもうるみもうれはや　徽安門院一条

新拾遺 夏
やへうしの花の月白に横たはる水もはるかに海人の　津守国基

風 春下
やへうしの花ちりかとはや花の上に　斎宮女御

同 春中
やへうしの花ちりかとみてつるたの海に山めをちりかな　前中納言定家

同 雜中
やへうしのはりてるれるとみかはや　従二位家隆

新千 物名
歌冬とれ　長綱

新續古 雜中
やへの霜にうれのたくるんはへとれをひあれ　摩訶院僧正増基

新拾遺 雜上
やへの塩路をしりあはくうもとかとまりるるん　冷泉前太政大臣

新千 恋二
やへの春やなかるるかはるかはるかは

風 長下
やへ数をつくしてとへれみな人の
菅原元真

風 新上
ときとはるかに
やとは昔に匂ひてかくあれはよ白むめの花
永福門院内侍

新千 新上
なのしるかるる
やとはむかしの人にあらねとうめ
金槐集 実朝

同 長
色もかはらぬ
やとふるさとの月はひとつにて
伝為忠朝臣 為忠卿

風 雅上
ものをおもふ色〜花にうつりにけり
やとふるさとの人の昔をしのぶ
二条為氏卿 為氏

同 新中
山ぬしの
やとふるさとの人の昔をつのるもそれひとり
権律師慈成

新千 長下
色もかはして
やとふるさとの花橘に風のかをるさに
権僧正尊信

新拾遺 夏
月の色も
やとにはくちぬれはやめぬ月の光にそ
兼和公 道信

新拾 新中
のこりしく
やとにうつして持うかの色にそ
藤原為家朝臣

同
若ちるそ
やとにさなくや学ぶ花ちるなん
源三位頼政

風 長上
ひとつをそ
やとはあらぬ学ぶ花の人にはあらき
皇太后宮大夫俊成

新千 新中
いはまそれ
やとはあらぬ月のすむ山ん六十に
前紀伊守 兼盛

風 旅
拾遺
やとこの月とあそひてたとふるかをとをとる
和気仲成朝臣

同 雅中
ひのれにそう
やふてはいかてねと昔はけふをはてる天
平忠度朝臣

新千 雅
ふるさとを
やとるとをとをとんまつ山みなとえゆきにけりあ今日
前参議兼家

同 雅
雅はけふ
やとるとをとをとれて養うしく紅の色にそ
源兼昌

新続古 雅上
月新
やとるとをとるめ色にうつりにけ
権僧正覚忠 右内大臣

新千 冬
雅はへて
やとるとし水のうるはしとえにけり冬の初雨
白太后宮大夫俊盛

新拾遺 冬
そこまてを
やとるとしもみとふ川の色と見る月新
源信隆朝臣

風 天
色をそ
やとるとえにうつりにけりあ天
法印宴尋

新拾 雅
いはくにう
やとるとえ最ね梅のさかりの山にはるを言に
性蔵法師

新拾遺 雅
拾遺
やとるとえやかるとけるめ
源俊忠

新作 冬
うるはけや
やとるとの夜をこめ次ちるをはやにわ
参議雅経

新千 雅上
玉津島
やとるとの月はるをこめて浪の花はは一風
源親長朝臣

同 三上
やとせ花ふる春の風はたゝせて雲ゝ吹
清性公

新拾 雜中
あはれなるもの
やとせ住まとも雲にくらるゝ月の
斎宮

風雅 雜上
うゝしき
やとせ梅をしてゆめ
前参議

風雅 雜上
とゝ花をゆ
やとせ物思ふ乃春ゝ
永福門院

同 三下
春さゝ花
やとせ梢ゝ風とゝ
式内親

新後拾 恋一
ちゝゝめや
やとせ梢と吹さかゝ風に散ては
皇太后宮大夫俊成

風雅 三中
恋ゝゝ
やとせ梢ゝ花さかり
同

同 三中
花さかゝ
やとせ梢ゝ風とゝ
前参議

同 賀
うゝしき
やとせ梢ゝ春はゝ
建礼門院右京大夫

同 八
さゝ
やとせ梢ゝ花
永福門院内侍

新後拾 夏
ちとせこゝ
やとせ梢ゝ花
伊勢大輔

風雅 雜下
夏ゝ
やとせ花ひとえ
伏見院御製

新千 夏
やとせ
惟明親王

新拾 羇旅
ゆ
やとせ
後人和歌

同 恋二
枝
やとせ
福田

新千 慶
やとせ
藤原

新拾 賀
やとせ
藤原

新後撰 恋三
やとせ
藤原

同 雜秋
やとせ
藤原

新千 恋五
やとせ
藤原

新後撰 恋四
やとせ
藤原

同 三上
やとせ
藤原

同 雜上
やとせ
藤原

新後拾 恋三
やとせ
藤原

彩千 志五
いとあらわ
やそ山にうゑぬうゑ恨みかりの風なりけり　祝部成国

彩拾 夏
ひとしきの
やそとせあまりみそたせる月をなかめて　兼澄法師

風 春下
面影の
やとひろ山はかくれるまゝ月のかたぶくまてなかめつるかな　信実朝臣

同 賀
岩戸あけし
やそよろつよもとうたかはしけきせい　三条隆教

彩拾 神
くもりなき
やそよろつよのあけしあはてる神のみ光をあらはす　右近廣秀

彩千 新上
をしみなく
やそ山にいてしまれもとあはれ月の光　茂原長基

彩拾 秋下
はつ花山
やそ山のあけぬ月新よやとりはこまはさしてこの春　茂原長秀

彩千 神
やまとをも
やまのひとをしはやりはこまはしてえさしたる花の春　祝部成茂

同 冬
ちるもの
やそ山をしるふるまくへ月の方にるふらん　前信濃守

彩拾 冬
はつ雪に
やそ山のうへとそ雪はふりとはて今はは夜　信実朝臣

彩拾 冬
月の
やそ山川とそ雪はふりはてはつ雪　同

風 冬
とをの
やそ山川の冬の月いとてはかくはふるかな　冷泉為秀

彩拾 上
はつ雪の
やそ山にはつ雪はふりてとをの春　安嘉門院四條

彩拾 賀
雪の
やそ山の春にをとりのこの月　賈茂在貞

同 神
すゑ
やそ山にをとりのこの月　祝部成茂

風 暁
はつ雪
やそ山にはつ雪はふりてとをの春　前信濃守

彩拾 羇
つゝみ
やそ山川はつ雪はふりてとをの春　菅原為長

彩千 神
ちかの
やそ山川はつ雪はふりてとをの春　前信濃守

風 春中
岸の
やそ山の岸はつ雪はふりてとをの春　祝部成茂

同 雜中
夕
やそ山の夕はつ雪はふりてとをの春　菅原為長

同 雜上
新
やそ山の新はつ雪はふりてとをの春　菅原為長

同 春
あらた
やそ山のあらたはつ雪はふりてとをの春　菅原為長

同 春中
春風
やそ山の春風はつ雪はふりてとをの春　菅原為長

同 春中
はつ雪
やそ山の春はつ雪はふりてとをの春　菅原為長

同 長中
新千 新中
風 物上
同 長中
新千 長上
風 長上
新拾 長上
風 秋下
同 物中
新千 長上
風 冬
新千 慶

やまのあらしのさむさにたへかねてみねのもみぢはいまぞちりしく　後鳥羽院御製

やまのあらしのとよもすなかにちりはてぬ　後鳥羽院御製

やまのあらしのはげしさにたへかねてみねのもみぢはいまぞちりしく　後鳥羽院御製

やまのあらしのはげしさにたへかねてみねのもみぢはいまぞちりしく　後鳥羽院御製

やまのあらしのはげしさにたへかねてみねのもみぢはいまぞちりしく　後鳥羽院御製

やまのあらしのはげしさにたへかねてみねのもみぢはいまぞちりしく　後鳥羽院御製

やまのあらしのはげしさにたへかねてみねのもみぢはいまぞちりしく　後鳥羽院御製

やまのあらしのはげしさにたへかねてみねのもみぢはいまぞちりしく　後鳥羽院御製

やまのあらしのはげしさにたへかねてみねのもみぢはいまぞちりしく　後鳥羽院御製

やまのあらしのはげしさにたへかねてみねのもみぢはいまぞちりしく　後鳥羽院御製

やまのあらしのはげしさにたへかねてみねのもみぢはいまぞちりしく　後鳥羽院御製

やまのあらしのはげしさにたへかねてみねのもみぢはいまぞちりしく　後鳥羽院御製

新拾 長上
風 長中
新千 長上
同 長中
新千 長上
同 稜中
同 新上
風 長下
新拾 長上
同 長中
新千 長上
風 長中
新拾 長上
新拾 志一
新拾 新長
同 長上

やまのあらしのはげしさにたへかねてみねのもみぢはいまぞちりしく　後鳥羽院御製

やまのあらしのはげしさにたへかねてみねのもみぢはいまぞちりしく　後鳥羽院御製

やまのあらしのはげしさにたへかねてみねのもみぢはいまぞちりしく　後鳥羽院御製

やまのあらしのはげしさにたへかねてみねのもみぢはいまぞちりしく　後鳥羽院御製

やまのあらしのはげしさにたへかねてみねのもみぢはいまぞちりしく　後鳥羽院御製

やまのあらしのはげしさにたへかねてみねのもみぢはいまぞちりしく　後鳥羽院御製

やまのあらしのはげしさにたへかねてみねのもみぢはいまぞちりしく　後鳥羽院御製

やまのあらしのはげしさにたへかねてみねのもみぢはいまぞちりしく　後鳥羽院御製

やまのあらしのはげしさにたへかねてみねのもみぢはいまぞちりしく　後鳥羽院御製

風雅中　やまぶきの　やまぶきの　貞徳院殿
同　なかれ　なかれ　花園院宮
新拾遺中　なかれ　なかれ　順徳院御製
同　なかれ　なかれ　春秋雅楽
同　なかれ　なかれ　春秋雅楽
新拾遺一　なかれ　なかれ　春秋雅楽
風雅　なかれ　なかれ　醍醐天皇御
新後拾遺　なかれ　なかれ　祝部成仲
同　なかれ　なかれ　清原宣方
風雅　なかれ　なかれ　藤原為氏
新千載　なかれ　なかれ　常縁
新後拾遺　なかれ　なかれ　惟明親王

新拾遺　見川の　やまぶきの　通俊卿
同　見ねども　やまぶきの　祝部成氏
風雅　見川の　やまぶきの　藤原為氏
新後拾遺　見ねども　やまぶきの　藤原為氏
風雅　見ねども　やまぶきの　信宣卿
新後拾遺　見ねども　やまぶきの　為尹
新後拾遺　見ねども　やまぶきの　為尹
風雅　見ねども　やまぶきの　為尹
新後拾遺　見ねども　やまぶきの　為尹
新後拾遺　見ねども　やまぶきの　為尹
風雅　見ねども　やまぶきの　為尹
新後拾遺　見ねども　やまぶきの　為尹

新千慶　うまこそあれ　やまとしまねのとこよくに　上部兼直

同　はつかぜ　やまとしまねのみさきより　みやこにしかの風　土御門院御製

新拾雨下　雅風　やまとひとてらすもしにはゆる扇のうらそ　行恒

風冬　はるかぜ　やまちかぬくるかぬ新とはひとりにくるひとさ　後鳥羽院

新千夏　ちくさ　やまちにくるかぬ新とはひとりにくるひとさ　中納言家持

新拾秋　ちくさ　やまちにくるかぬ新とはひとりにくるひとさ　藤原為家

新拾雜　はつかぜ　やまちにくるかぬ新とはひとりにくるひとさ　藤原為家

同　里の秋風　やまちの月は扇ぶえてあくれは秋のあかつき　藤原為家

新後拾雜中　あきの人を　やまちの若に秋のあかつきに風をあり　藤原為家

新拾秋雜下　ふきをあり　やまちの萬はなのもとに秋の夕暮　藤原為家

風上　いはしもと　やまちの雲とうはかをとる人は　藤原為家

風中　あつはつね　やまちの月のかをつ人は　藤原為家

同　かさとりは　やまちの月のかをつ人は　大中臣頼基朝臣

新千　はつひさは　やまちの世はへくれはあるものさひの秋にさ　花園院御製

新後拾夏下　雲あつ　やまちの夜風はけはあり雲とそりあ　入道宮親王

同　ちくさ　やまちの夜風はけはあり秋より河あり　源時清

同　はるかぜ　やまちの夜はけはあり秋より河あり　源時清

新後拾秋雜　はるかぜ　やまちの夜はけはあり秋より河あり　源時清

風中　ゆくかぜ　やまちの夜はけはあり秋より河あり　源時清

同　風をもし　やまちの夜はけはあり秋より河あり　源時清

新後拾夏　はるかぜ　やまちの夜はけはあり秋より河あり　源時清

風中　はるかぜ　やまちの夜はけはあり秋より河あり　源時清

新秋　はるかぜ　やまちの夜はけはあり秋より河あり　源時清

同　はるかぜ　やまちの夜はけはあり秋より河あり　源時清

新後拾夏一　はるかぜ　やまちの夜はけはあり秋より河あり　源時清

風 曉

やまとうつくしまかりそめにこの国にかりの宮
やまとうつくしまかりそめにこの国にかりの宮
茨木朝臣

新千 恋四

やまとうつくしまかりそめにこの国にかりの宮
やまとうつくしまかりそめにこの国にかりの宮
藤原元良親王

新後拾 雜上

やまとうつくしまかりそめにこの国にかりの宮
やまとうつくしまかりそめにこの国にかりの宮
冬定師

風 冬

やまとうつくしまかりそめにこの国にかりの宮
やまとうつくしまかりそめにこの国にかりの宮
紀貫之

新千 雜下

やまとうつくしまかりそめにこの国にかりの宮
やまとうつくしまかりそめにこの国にかりの宮
恒世親王

新續古 物下

やまとうつくしまかりそめにこの国にかりの宮
やまとうつくしまかりそめにこの国にかりの宮
清原深養父

新後拾 物上

やまとうつくしまかりそめにこの国にかりの宮
やまとうつくしまかりそめにこの国にかりの宮
藤原定家

新續古 物上

やまとうつくしまかりそめにこの国にかりの宮
やまとうつくしまかりそめにこの国にかりの宮
藤原為家

風 物中

やまとうつくしまかりそめにこの国にかりの宮
やまとうつくしまかりそめにこの国にかりの宮
藤原為氏

新後拾 雜下 離

やまとうつくしまかりそめにこの国にかりの宮
やまとうつくしまかりそめにこの国にかりの宮
藤原為世

新千 物下

やまとうつくしまかりそめにこの国にかりの宮
やまとうつくしまかりそめにこの国にかりの宮
藤原為定

風 夏

やまとうつくしまかりそめにこの国にかりの宮
やまとうつくしまかりそめにこの国にかりの宮
藤原為氏

新續古 雜上

やまとうつくしまかりそめにこの国にかりの宮
やまとうつくしまかりそめにこの国にかりの宮
後二条天皇

新後拾 物上

やまとうつくしまかりそめにこの国にかりの宮
やまとうつくしまかりそめにこの国にかりの宮
後二条天皇

新千 物下

やまとうつくしまかりそめにこの国にかりの宮
やまとうつくしまかりそめにこの国にかりの宮
後二条天皇

新續古 夏

やまとうつくしまかりそめにこの国にかりの宮
やまとうつくしまかりそめにこの国にかりの宮
後二条天皇

風 曉

やまとうつくしまかりそめにこの国にかりの宮
やまとうつくしまかりそめにこの国にかりの宮
後二条天皇

新千 慶

やまとうつくしまかりそめにこの国にかりの宮
やまとうつくしまかりそめにこの国にかりの宮
後二条天皇

新後拾 夏

やまとうつくしまかりそめにこの国にかりの宮
やまとうつくしまかりそめにこの国にかりの宮
後二条天皇

新千 雜下

やまとうつくしまかりそめにこの国にかりの宮
やまとうつくしまかりそめにこの国にかりの宮
後二条天皇

新後拾 恋二

やまとうつくしまかりそめにこの国にかりの宮
やまとうつくしまかりそめにこの国にかりの宮
後二条天皇

風 雜中

やまとうつくしまかりそめにこの国にかりの宮
やまとうつくしまかりそめにこの国にかりの宮
後二条天皇

同 夏

やまとうつくしまかりそめにこの国にかりの宮
やまとうつくしまかりそめにこの国にかりの宮
後二条天皇

同 長下
新後拾 雅上
新後拾 秋上
新千 夏
同 題二
新後拾 天
同 雅雅
風 長下
新千 雅上
新拾 雅下
新後拾 夏
新後拾 賀

ちりにまう　やまぶきの　花ぞ　ちりしく　谷川の　水に　ながれて　水福門院
雅の月　やまぶきの　花　ながれて　ながれて　ながれて　ながれて　水陽門院 九条太政
むら雲し　やまぶきの　花　ながれて　ながれて　ながれて　ながれて　伏見院御製
いたるも　やまぶきの　花　ながれて　ながれて　ながれて　ながれて　北照会院 関白太政大臣
なつの　やまぶきの　花　ながれて　ながれて　ながれて　ながれて　前関白
ましりて　やまぶきの　花　ながれて　ながれて　ながれて　ながれて　慶政上人
へのぼれ　やまぶきの　花　ながれて　ながれて　ながれて　ながれて　藤内大臣
ふるかの　やまぶきの　花　ながれて　ながれて　ながれて　ながれて　大納言為信
月の　やまぶきの　花　ながれて　ながれて　ながれて　ながれて　重家卿
月の　やまぶきの　花　ながれて　ながれて　ながれて　ながれて　中納言為兼
約束の　やまぶきの　花　ながれて　ながれて　ながれて　ながれて　法性寺殿
ちぎりの　やまぶきの　花　ながれて　ながれて　ながれて　ながれて　後鳥羽院

新千 雅上
同 雅上
同 冬
新後拾 冬
新拾 雅上
新後拾 夏上
新拾 夏
新後拾 雅下
同 雅中
新拾 天
新千 羇

月の　やまぶきの　花　ながれて　ながれて　ながれて　ながれて　後西院 [illegible]
みえわたる　やまぶきの　花　ながれて　ながれて　ながれて　ながれて　伏見為親
ゆきの　やまぶきの　花　ながれて　ながれて　ながれて　ながれて　英俊
ふるさと　やまぶきの　花　ながれて　ながれて　ながれて　ながれて　法中納言詮
ひとの　やまぶきの　花　ながれて　ながれて　ながれて　ながれて　伊勢
ゆめ　やまぶきの　花　ながれて　ながれて　ながれて　ながれて　壬生忠岑
ひとりかな　やまぶきの　花　ながれて　ながれて　ながれて　ながれて　法眼行海
ひとの　やまぶきの　花　ながれて　ながれて　ながれて　ながれて　權中納言 [illegible]
雪を　やまぶきの　花　ながれて　ながれて　ながれて　ながれて　藤原為忠
ながめに　やまぶきの　花　ながれて　ながれて　ながれて　ながれて　平兼盛
雲井に　やまぶきの　花　ながれて　ながれて　ながれて　ながれて　心海上人
ふるの　やまぶきの　花　ながれて　ながれて　ながれて　ながれて　惟明親王

新後拾 三上
新後拾 雜下 誹
風 三上
新後拾 三上
新後拾 雜中
新拾 秋下
風 三
同 雜中
同 三下
新後拾 三
新後拾 春
同 羇

やまたのをろちをうちはふりすてたまへる
ものをたれかはしらんとおもふらんひとのあるをこそ
菟名足尊 歌
やまたのをろちをうちはふりすてたまへるものをたれかはしらんとおもふらんひとのあるをこそ
左四間院宰相
やまたのをろちをうちはふりすてたまへるものをたれかはしらんとおもふらんひとのあるをこそ
後鳥羽院御製
やまたのをろちをうちはふりすてたまへるものをたれかはしらんとおもふらんひとのあるをこそ
加賀法師
やまたのをろちをうちはふりすてたまへるものをたれかはしらんとおもふらんひとのあるをこそ
仁和寺宮御製
やまたのをろちをうちはふりすてたまへるものをたれかはしらんとおもふらんひとのあるをこそ
藤原為忠朝臣
やまたのをろちをうちはふりすてたまへるものをたれかはしらんとおもふらんひとのあるをこそ
順德院御歌
やまたのをろちをうちはふりすてたまへるものをたれかはしらんとおもふらんひとのあるをこそ
菟原中納言 為頼女
やまたのをろちをうちはふりすてたまへるものをたれかはしらんとおもふらんひとのあるをこそ
藤原長房
やまたのをろちをうちはふりすてたまへるものをたれかはしらんとおもふらんひとのあるをこそ
道命法師
やまたのをろちをうちはふりすてたまへるものをたれかはしらんとおもふらんひとのあるをこそ
道隆公 初名三四

新千 雜下
風 三二
新後拾 夏
新後拾 羇
風 夏
新後拾 羇
風 三
新拾 春上
新千 三上
風 雜下
新拾 雜下
風 三上

やまたのをろちをうちはふりすてたまへるものをたれかはしらんとおもふらんひとのあるをこそ
永福門院
いまもなほ
やまたのをろちをうちはふりすてたまへるものをたれかはしらんとおもふらんひとのあるをこそ
左京大夫
はるのきてはなのあやめをかりそめにかりにとやとはるのきてはなのあやめをかりそめにかりにとやとはるのきてはなのあやめをかりそめにかりにとやとは

風 春中
しらつゆの
やまたをゆく夕くれはもとの芝生を風そよ
新後拾 雜春
いなびもの
やまたをゆく夕くれはもとの雀なつかしとなく
同 冬
芝川の
やまおろしぬそやきわいふ本はの葉はのゆきの
同 雜部
新勅
やまおろしぬそて衣ふれ里にはるの月けの
新後拾 冬
浦ゆきの
やまおろしにてはつ日のはれにふる雪の
風 疎
やまと又ぬしにて簡より見はてるはつ
風 夏
風かよる
やまおろしねの夕ぐれ足水はなくてこそ
新千 離上
ちるこそ
やまおろしにてもやはてもやはれ
新後拾 春下
あはつ
やまおろしの風より先はの花
新千 雜
いなねやま
やまおろしにてもやはてもやはれ
同 冬
浦にそ
やまおろしにてもやはてもやはれ
同 春上
芝川の
やまおろしの風はてはけはれ
やまおろしの神より風はてはけはれ
やまおろしにてもやはてもやはれ
新後拾 春下
わかの
やまおろしの橋はてはれ
新後拾 春下
芝川の
やまおろしの橋はてはれ
風 冬
秋のはれ
やまおろしの風はてはけはれ
新後拾 上
はつ
やまおろしの橋はてはれ
新後拾 冬中
人のとは
やまおろしの茨のこそ
同 夏
ちるこそ
やまおろしの水はてはけはれ
風 春下
はつ
やまおろしの水はてはけはれ
新後拾 冬一
芝川は
やまおろしの水はてはけはれ
風 雜中
いなびもの
やまおろしの水はてはけはれ
新千 雜上
ちるこそ
やまおろしの水はてはけはれ
同 羇
ちるこそ
やまおろしの水はてはけはれ
新後拾 夏
大井川
やまおろしの水はてはけはれ

新拾遺 雑下
ぬるとなく
やまりとほく霧こめて田面のうへに秋風ぞ吹く　権中納言公雄

風雅 雑上
うゑ初る
やまりとほく鹿なきて谷にうつる夕の月　御子内親王

同 冬
尽てなほ
やまりとほく鹿なきて谷にうつる夕の月　御子内親王

同 恋
ふる苔と
やまりとほく鹿なきて谷にうつる夕の月　左兵衛督 正義

新千 恋
大わ川
やまりとほく鹿なきて谷にうつる夕の月　進内親王

新続後拾遺 雑下
とれを川
やまりとほく鹿なきて谷にうつる夕の月　前大納言 為氏

風雅 雑下
あ武あり
やまりとほく鹿なきて谷にうつる夕の月　儀同三司

新拾遺 雑中
ほの世ま
やまりとほく鹿なきて谷にうつる夕の月　前中納言有忠

新続後拾遺 恋一
つれなくて
やまりとほく鹿なきて谷にうつる夕の月　前大納言 為氏

風雅 恋
おなじよ
やまりとほく鹿なきて谷にうつる夕の月　寛尋法親王

新千 恋
あ武ぬま
やまりとほく鹿なきて谷にうつる夕の月　祝部成氏

風雅 恋二
ねつけし
やまりとほく鹿なきて谷にうつる夕の月　安居院四條

新続後拾遺 雑下
ふ如つる
やまりとほく鹿なきて谷にうつる夕の月　祝部頼国

新拾遺 恋四
唐藍ま
やまりとほく鹿なきて谷にうつる夕の月　前大納言為氏

同 恋一
ものわま
やまりとほく鹿なきて谷にうつる夕の月　宣信卿

風雅 恋二
ものわま
やまりとほく鹿なきて谷にうつる夕の月　法印定円

新拾遺 雑下
ふるゆま
やまりとほく鹿なきて谷にうつる夕の月　人麿

同 恋四
ま一度
やまりとほく鹿なきて谷にうつる夕の月　仁治三年院内侍

新千 雑下
どにくに
やまりとほく鹿なきて谷にうつる夕の月　前納言 資実

新続後拾遺 恋下
月日とて
やまりとほく鹿なきて谷にうつる夕の月　常盤井入道前太政大臣

新千 雑下
いくてに
やまりとほく鹿なきて谷にうつる夕の月　後大門院

新千 雑下
ぬるまま
やまりとほく鹿なきて谷にうつる夕の月　按律師恒喩

ま

新後古 夏
うらみん
まちわびしかぜのこゑにあきぬるものを
皇太后宮大夫俊成

新千 恋二
ちりぬとや
まがきにけつ紅葉のひとかたなるのこりすくなき
法印定雅

新々 恋二
智興
まがきのもみぢのうすくなりぬるかぜにとりのこすはつ
惟宗為忠朝臣

新後古 雑中
うすけれど
まがきはもみぢうすくなりぬるかぜにとりのこすはつ
源原俊

新後拾 雑中
山さとは
まがきのもみぢすくなりぬるかぜにとりのこすはつ
従二位和子 前内大臣

新後古 恋三
をゆかず
まがきのもみぢすくなりぬるかぜにとりのこすはつ
赤染衛門

新千 恋一
思寄
まがきのもみぢすくなりぬるかぜにとりのこすはつ
前大僧正慈円

新後拾 雑上
きりかな
まがきのもみぢすくなりぬるかぜにとりのこすはつ
法印宗尊

風 雑上
ひかず
まがきのもみぢすくなりぬるかぜにとりのこすはつ
藤原為家

風 雑下
雑上
まがきのもみぢすくなりぬるかぜにとりのこすはつ
藤原為家

新後拾 雑上
まがきのもみぢすくなりぬるかぜにとりのこすはつ
藤原為家

風 雑上
公行卿
まがきのもみぢすくなりぬるかぜにとりのこすはつ
惟宗為忠朝臣

新千 雑中
口惜
まがきのもみぢすくなりぬるかぜにとりのこすはつ
静仁法親王

風 冬
和宮
まがきのもみぢすくなりぬるかぜにとりのこすはつ
前内大臣家

新千 恋一
地つけ
まがきのもみぢすくなりぬるかぜにとりのこすはつ
題不詳 婦

新後拾 雑上
紅
まがきのもみぢすくなりぬるかぜにとりのこすはつ
前大納言為世

新後拾 恋三
菊
まがきのもみぢすくなりぬるかぜにとりのこすはつ
近衛前関白家

風 雑中
さかり
まがきのもみぢすくなりぬるかぜにとりのこすはつ
前関白家 長女

新後拾 恋五
いそぎ
まがきのもみぢすくなりぬるかぜにとりのこすはつ
桜井宰相 資平

新後拾 恋四
菊
まがきのもみぢすくなりぬるかぜにとりのこすはつ
原中納言 一位

新後拾 雑上
花
まがきのもみぢすくなりぬるかぜにとりのこすはつ
前大納言為世

新後拾 雑上
何ぞ
まがきのもみぢすくなりぬるかぜにとりのこすはつ
藤原為定 内大臣

新後拾 恋三
契
まがきのもみぢすくなりぬるかぜにとりのこすはつ
藤原為定 内大臣

新千 恋三
新拾 雜上
新拾 恋三
新千 恋三
新後拾 雜上
新続古 恋二
新拾 恋四
風 恋六
新後拾 恋
新拾 恋三
風 雜上
新後拾 物上

清しかて
ゆちわたる
いく秋そ
こいくて
あるよ
りまを
ゆちらんまて
ゆちしに
ゆちし
ゆちしあはれ
ゆちしゆ
ゆちしゆ
ゆちしゆ
かてすき
七夕に

また世けるかは一ぬすとなりとて
ゆちらすに
ゆちわたる
ゆちみつ
ゆちみつ
ゆちみつ
ゆちらんまて
ゆちしに
ゆちし
ゆちしあはれ
ゆちしゆ
ゆちしゆ
ゆちしゆ

新拾 夏

夏歌

ゆふされば蛍を月ふそて物思ひそ行ゆ

行俊院 製

新千 雑下

物思へ

ゆふされば蛍もよりて花と散る菊はたれ

英房卿 乃朝臣

新拾 雑上

あるへ

ゆふされば雲やうもん野人の門の秋の風なれ

伏見院 御製

新千 雑上

ケの色

ゆふされば月にあらはれて思ひそめしは

恵慶法師

新拾 秋上

秋歌

ゆふされば萩ふく風に物思ふ

公持院殿 太政大臣

新千 冬

風の音

ゆふされば萩ふく風に音ばかりして

菅原道真 朝臣

風 雑上

秋の夕

ゆふされば萩ふく風に音ばかりして

菅原道真 朝臣

新拾 雑上

日暮れて

ゆふされば月にあてて白雲と言ふ

和氣全成 朝臣

風 雑上

物ちらき

ゆふされば雪みそそくもりの邪

源時之 朝臣

新続古 夏

あれにけり

ゆふされば若葉の風とりあつめ

行成 卿

新続古 雑中

うつりも

ゆふされば菊の夕にうつる物

二条院讃岐 製

新拾 雑上

秋歌

ゆふされば菊の夕にうつる物

武内宿禰 祝部

新千 雑下

ゆふされば菊の夕にうつる物

新拾 賀

ゆふされば雲の上人物そ久しき

行宗卿 宰相典侍

風 冬

ゆふされば雪の上人物そ久しき

正二位師家

新続古 雑下

物者れ

ゆふされば冷れへそゆくそこ

後鳥羽 院御製

新続古 冬

ゆふされば雪の下萩やそこ

宗尊親王 御製

新拾 雑上

ゆふされば雪の下萩やそこ

源の朝臣

新続古 秋下

ゆふされば雪の下萩やそこ

鹿苑院 道義大臣

新続古 雑上

ゆふしもそそ

菅原為長 卿

新続古 雑中

ゆふ色めとれそつれそ

後三條 道方 太政大臣女

新続古 夏上

風ぬ乃そ

ゆふ色てそ風の花わて独よ言そ

源重之

新拾 夏

ゆふ色てそ

ゆふ色てそ雲の花わて独よ言そ

俊三位家隆

新千 雑上

何小田に

ゆふする水も稲の成れ仏に

宗尚親王 惟康

新千 雑中

佐やそ

ゆふ人乃弥そそ田一そ成れ

物部の宗任

風非
いまてハ　ゆふそれ風ふくさ山わつくえよとをあしたつる　前左大臣
新拾遺三
忘れぬハ　ゆふとけりすりしにたけをのとわさの実　前関白太政大臣
新千
山ふかに　ゆふとみたこ雲ちるうつ空にくれて月の影わ　権律師良宴
風
夕まれ　ゆふ山ハあえ雲にくれて後とにかけ月　平如法師
風
ふるさに　ゆふやあ絶乃いけあ雲をゆるもおりひわ　法印定為
新続古
ぬれまそか　ゆふ乃乃海ことに月ぬけをくさん　法印慶運
新千
をふて　ゆふいそけ末にくやそ海ぬ行れ　前右京大夫為家
新続古
ふれ　ゆふひやそそんくまもれ神乃ちへ乃ちを世ぬ　法印宗助
風
ぬ十そ　ゆふひきにけそそれ家ぬ春よ　前大納言実氏
風
ぬにそ　ゆふひりそとる為郎おるゆやとそそ紀ゆ　前参議為明
新拾
ふ日け　ゆふて海ぬ華実ぬむ家ふ　前参議為氏
新拾
ふ人を　ゆふて乃関の月を行きそ乃ぬの色　前参議為定

風
忘二
ありけ乃ろ　ゆきいにそ乃ぬれめとをくまて　法三位親子
風
ふ人ひよ　ゆきいてしと思ふれふにゆいそ新なる　前参議定資
風
ふ人ハ　ゆきはつ乃ふれむ夕ぬ乃ちをよ海　前参議為世
新拾
ふ人ハ　ゆきはつ乃ふれ花乃ぬ絶へ乃ぬ乃ま乃つ海　永福門院
風
ふ人も　ゆきそけし花乃ぬ絶へ乃ぬ乃ま乃つ海　永福門院
風
ふ人ら　ゆきふしやわけさあ乃ぬ乃ま乃ぬ人乃ま乃ぬ　微安門院
風
ふ人ら　ゆきふ乃ふ乃ふ乃ふとふ乃ふ乃ふ乃ふ乃ふ　大納言公重
風
ふ人ら　ゆきふ乃ふ乃ふ乃ふ乃ふ乃ふ乃ふ乃ふ乃ふ　権中納言為重
風
忘二
畑まあ乃ぬ　ゆきみて乃ぬ乃ぬ乃ぬ乃ぬ乃ぬ乃ぬ乃ぬ　今上御製
新続古
おりしあり　ゆきふ乃ふ乃ふ乃ふ乃ふ乃ふ乃ふ乃ふ乃ふ　院御歌
新続古
忘四
ふ人ふ　ゆきと乃ぬ乃ぬ乃ぬ乃ぬ乃ぬ乃ぬ乃ぬ乃ぬ　権僧都
新千
忘三
ふ人ひ　ゆきとけ乃ぬ乃ぬ乃ぬ乃ぬ乃ぬ乃ぬ乃ぬ乃ぬ　清寺関白
新続古
ふ人ひ　ゆきとけ乃ぬ乃ぬ乃ぬ乃ぬ乃ぬ乃ぬ乃ぬ乃ぬ　勝定三位

新拾 恋三
風 恋二
新後古 恋三
新拾 恋四
新後古 新上
風 雜中
新秋 夏
新後拾 新雜
風 秋上
新拾秋 新雜
風 秋上
新後古 恋二

うらはは　きくとしいとし別れの道にて人命をわれて　摂政太政大臣
あまをれい　きくあるうてみるあれはりまとにをるあれし　藤原為兼
人めにをそ　きくあるせとうらはるてもはるかるあるて　崇光院御製
はるあをそ　きくあはるかるあるてみるあるのをれ　権大僧都
をるはる　きくあるあるはるるるあるはるるるあるはるるるあ　祝部成久
いまをわ　きくあるあるあるあるあるあるあるあるあるあるあ　関白右大臣
をてをた　きくあるあるあるあるあるあるあるあるあるあるあ　民部卿為明
いはけり　きくあるあるあるあるあるあるあるあるあるあるあ　摂政前太政大臣
をををを　きくあるあるあるあるあるあるあるあるあるあるあ　藤原隆房朝臣
をををを　きくあるあるあるあるあるあるあるあるあるあるあ　藤原隆房朝臣
をををを　きくあるあるあるあるあるあるあるあるあるあるあ　藤原為兼
はるはる　きくあるあるあるあるあるあるあるあるあるあるあ　藤原為兼
はるはる　きくあるあるあるあるあるあるあるあるあるあるあ　藤原為兼
はるはる　きくあるあるあるあるあるあるあるあるあるあるあ　藤原為兼
はるはる　きくあるあるあるあるあるあるあるあるあるあるあ　藤原為兼

新後拾 新下
風 雜下
新千 恋五
新千 恋三
新拾 夏
新後古 新中
風 恋二
新後古 恋四
新拾 夏
新後古 恋五
風 神
新後拾 恋四

山のをを　きくあるあるあるあるあるあるあるあるあるあるあ　武家関白
をはるは　きくあるあるあるあるあるあるあるあるあるあるあ　藤原為明
はるはる　きくあるあるあるあるあるあるあるあるあるあるあ　藤原為兼
はるはる　きくあるあるあるあるあるあるあるあるあるあるあ　藤原為兼
はるはる　きくあるあるあるあるあるあるあるあるあるあるあ　藤原為兼
はるはる　きくあるあるあるあるあるあるあるあるあるあるあ　藤原為兼
はるはる　きくあるあるあるあるあるあるあるあるあるあるあ　藤原為兼
はるはる　きくあるあるあるあるあるあるあるあるあるあるあ　藤原為兼
はるはる　きくあるあるあるあるあるあるあるあるあるあるあ　藤原為兼
はるはる　きくあるあるあるあるあるあるあるあるあるあるあ　藤原為兼
はるはる　きくあるあるあるあるあるあるあるあるあるあるあ　藤原為兼
はるはる　きくあるあるあるあるあるあるあるあるあるあるあ　藤原為兼
はるはる　きくあるあるあるあるあるあるあるあるあるあるあ　藤原為兼
はるはる　きくあるあるあるあるあるあるあるあるあるあるあ　藤原為兼
はるはる　きくあるあるあるあるあるあるあるあるあるあるあ　藤原為兼
はるはる　きくあるあるあるあるあるあるあるあるあるあるあ　藤原為兼
はるはる　きくあるあるあるあるあるあるあるあるあるあるあ　藤原為兼
はるはる　きくあるあるあるあるあるあるあるあるあるあるあ　藤原為兼
はるはる　きくあるあるあるあるあるあるあるあるあるあるあ　藤原為兼
はるはる　きくあるあるあるあるあるあるあるあるあるあるあ　藤原為兼
はるはる　きくあるあるあるあるあるあるあるあるあるあるあ　藤原為兼
はるはる　きくあるあるあるあるあるあるあるあるあるあるあ　藤原為兼
はるはる　きくあるあるあるあるあるあるあるあるあるあるあ　藤原為兼
はるはる　きくあるあるあるあるあるあるあるあるあるあるあ　藤原為兼
はるはる　きくあるあるあるあるあるあるあるあるあるあるあ　藤原為兼
はるはる　きくあるあるあるあるあるあるあるあるあるあるあ　藤原為兼
はるはる　きくあるあるあるあるあるあるあるあるあるあるあ　藤原為兼
はるはる　きくあるあるあるあるあるあるあるあるあるあるあ　藤原為兼
はるはる　きくあるあるあるあるあるあるあるあるあるあるあ　藤原為兼
はるはる　きくあるあるあるあるあるあるあるあるあるあるあ　藤原為兼
はるはる　きくあるあるあるあるあるあるあるあるあるあるあ　藤原為兼
はるはる　きくあるあるあるあるあるあるあるあるあるあるあ　藤原為兼
はるはる　きくあるあるあるあるあるあるあるあるあるあるあ　藤原為兼
はるはる　きくあるあるあるあるあるあるあるあるあるあるあ　藤原為兼
はるはる　きくあるあるあるあるあるあるあるあるあるあるあ　藤原為兼
はるはる　きくあるあるあるあるあるあるあるあるあるあるあ　藤原為兼
はるはる　きくあるあるあるあるあるあるあるあるあるあるあ　藤原為兼
はるはる　きくあるあるあるあるあるあるあるあるあるあるあ　藤原為兼
はるはる　きくあるあるあるあるあるあるあるあるあるあるあ　藤原為兼
はるはる　きくあるあるあるあるあるあるあるあるあるあるあ　藤原為兼
はるはる　きくあるあるあるあるあるあるあるあるあるあるあ　藤原為兼
はるはる　きくあるあるあるあるあるあるあるあるあるあるあ　藤原為兼
はるはる　きくあるあるあるあるあるあるあるあるあるあるあ　藤原為兼
はるはる　きくあるあるあるあるあるあるあるあるあるあるあ　藤原為兼
はるはる　きくあるあるあるあるあるあるあるあるあるあるあ　藤原為兼
はるはる　きくあるあるあるあるあるあるあるあるあるあるあ　藤原為兼
はるはる　きくあるあるあるあるあるあるあるあるあるあるあ　藤原為兼
はるはる　きくあるあるあるあるあるあるあるあるあるあるあ　藤原為兼
はるはる　きくあるあるあるあるあるあるあるあるあるあるあ　藤原為兼
はるはる　きくあるあるあるあるあるあるあるあるあるあるあ　藤原為兼
はるはる　きくあるあるあるあるあるあるあるあるあるあるあ　藤原為兼

新拾 雜上 いたるまに 俊頼朝臣
新後拾 恋五 中くに 源具親
風 雜中 四人恋 藤原家秀
風 恋中 山はなる 惟宗時房
新拾 雜恋 さそふ風 源師時
新拾 恋三 いたるまに 清原実性
新後拾 恋三 一人なる 津守国冬
新後拾 恋四 りまねく 入道親王
新後拾 恋一 さまをてな 藤原利花院
新千 恋三 むすびとも 藤原国房
新後拾 恋三 ゆきつもる 源仁王

新拾 恋三 ちるもれ 俊頼朝臣
風 雜上 ちりぬる 源師時
新千 夏 大和川 藤原家隆
風 賀 ちるうめ 藤原成茂
新千 雜上 ゆきにて 皇太后宮大夫俊成
風 雜上 ゆきにて 儀子内親王
風 雜上 ちるまよる 権律師慶
新千 雜下 世にいる 前大僧正慈円
風 冬 花よ多く 源三位頼政
風 恋四 ゆきにて 藤原朝臣
風 恋五 ゆきにて 徽安門院
風 雜中 月かあれと 藤原為家
ゆきにて 源俊頼朝臣

新後古 忘三
ちとせ
ゆきやへしそんこうひさしけれ哭　左大将公
新拾 忘三
いはうに
ゆきやなわとりまはしてとわる池　宝蓮院殿左大臣
新拾 新下
とにてに
ゆきやかけんれしてそなりわくる世界　よろ人
新後古 冬
おりてに
ゆきゆるよむとそねとひてれあうねいをゆはう　惠慶師
風 忘二
又やうん
ゆきやんけんどけるりに西れてるく花されてる　仁徳院
新拾 忘二
おりひね
ゆきやそるさうんはまていらるるへ分公なるぬい　道勝師
風 新中 新拾 忘一
やとおやと
ゆきまれるにそひるうんへ人ゆいとふあるやとれ哭　儀子内親王
風 新中
ゆるやと
ゆきゆ涙なう嘗れるそれ人まるる殺るれて　源兼氏朝臣
風 忘
あう月や
ゆきゆ〜〜〜松乃うき色にるるるてる化顔の雪を　前摂政
新拾 新後古 新中
りるる
ゆきゆ二葉より行そそいそ色へあるやれ月哭　近衛摂政
風 忘
ろはは
ゆきゆるるにかて色の〜れ色秋と文はさに雪　関白左大臣
新後古 新中
ろれる元
ゆきゆなる〜涙なりぶるる長を山れ哭れけみう　花山院左大臣
新後古 忘一
志れて山
ゆきとかるに道しるゆりゆる涙い人ふる雪花　兼好法師
新千 春下
わちさうく
ゆきうとゆるとそもうるひるぶさ山れ　冷泉為尹
新拾 忘一
人志れと
ゆきるるれて煙いるるにれむをい　後光厳院
新千 忘三
毎ちゆ
ゆきるるるるるるれわるる世とるるに心はるるに　西園寺
新後古 新中
毎ちゆ
ゆきるるるるれ涙山はれるり老れ新とれるて　英俊宿禰
風 新上
人ゆ分も
ゆきゆん雪るるゆ世にかとせをを涙をへ新れ　院御所
新千 雑
ゆるる
ゆきゆん雪ゆ新海新れるやれはるるれ乃るら　順徳院御製
新拾 天
るるるに
ゆきゆるれるひるゆ山ゆるるるるるるはのみるる涙　飛鳥井雅世
新千 雑上
ろるれ
ゆきゆれ冬るるるるるるれ分るるるれ乳　隆覚法親王
新千 新上
れ分の乳に
ゆきゆれ物れ乳とるけて六代るる志月れ照　英俊卿
新子 冬
花れ涙
ゆきゆるれゆ〜るるれ〜るるりるるれ　後鳥羽院
新千 忘二
るるゆ
ゆきゆるれ冬れるれるれれるれ涙の哭　英俊卿

風雅上
はるのあは
ゆきとうちまがへて初風山ふかきにをかすかに雪をうす
法二位家隆

風雅二
むかしとて
ゆきあけわたるよ一夜ばかりはるのとなり
後二位為

風雅中
春なれや
ゆきあけぬるあしたの雲はなほ冬ぬるかぜ
法二位親子

新拾遺
をりたく
ゆきあけぬるとなりのうめにうぐひすのこゑ
伏見院御製

新千載
おりかへす
ゆきあけぬるゆふべの月のかげ
藤原長綱

新拾遺
春はきよ
ゆきあけぬるまてはなにとまりけり月
東大寺大僧正

新拾遺
ゆきとけて
ゆきあけぬるとなりのうめにうぐひすのこゑ
菅原為利花園内大臣為兼卿

新後拾遺
月にうち
ゆきとけてゆふべの月のかげ
伏見院御製

新千載
ちりかへる
ゆきとけてうぐひすなきぬ春風の
中院入道前太政大臣

ゆきとけて
ゆきとけてゆふべの月のかげ
従二位成房

ゆきとけて
ゆきとけてゆふべの月のかげ
権中納言雅孝

ゆきとけて
ゆきとけてゆふべの月のかげ
如円三宝院権僧正

新拾遺
非とは
ゆきとけて
ゆきとけてゆふべの月のかげ
源義家朝臣

新拾遺
ちりそめ
ゆきとけて
ゆきとけてゆふべの月のかげ
藤原為家

新拾遺
春の
ゆきとけて
ゆきとけてゆふべの月のかげ
右大臣

新千載
あひ見て
ゆきとけて
ゆきとけてゆふべの月のかげ
法光院摂政前関白左大臣

新拾遺
まて
ゆきとけて
ゆきとけてゆふべの月のかげ
源時秀

新千載
おりしり
ゆきとけて
ゆきとけてゆふべの月のかげ
小槻宣遠

新千載
忘れ行
ゆきとけて
ゆきとけてゆふべの月のかげ
伏見院御製

新千載
おりはを
ゆきとけて
ゆきとけてゆふべの月のかげ
菅原為長

新千載
忘一
かり衣
ゆきとけて
ゆきとけてゆふべの月のかげ
等持院贈左大臣

新後拾遺
忘二
おり人と
ゆきとけて
ゆきとけてゆふべの月のかげ
藤原為重

新千載
ちりて花
ゆきとけて
ゆきとけてゆふべの月のかげ
藤原義孝

新拾遺
忘二
打て散し
ゆきとけて
ゆきとけてゆふべの月のかげ
左大臣

新千載
つれなく
ゆきとけて
ゆきとけてゆふべの月のかげ
松殿三宝院入道前内大臣

新千長
風雅中
風雅五
新後拾上
風雅中
新千三
新拾三
風雅二
新拾三
新後古一
新後古四
新後古羇

新拾上
新拾中
新後古中
風雅上
新拾中
新千三
新拾中
新拾一
新拾五
新後古羇
新拾
新後古

新千 物上
牡鹿の月
海ともあひうんわるかりけるそうけしの心
皇太后宮大夫俊成

新後拾 恋三
ふるとて
海ともいひうんわるかりけるよう自あ命をかけ
賜後二位為子

新拾 新下
恋なくに
海ともいつくの新乃やそ海きれる世をいとうん
藤原為忠朝臣

新拾 新上
色一神
海ともひ海の物は四のうめひ海の物をうらわ
藤原為忠朝臣

風 夏
いけるそ
海ともこ次こけるねとるふしくたる山海きれ月よ
左京大夫顕輔

新拾 新中
山海ん
海ともの毒人のわこけうあるかりなるわこ世こし
藤原為忠朝臣

新拾 新上
こひとそ
海ともこ見ふるる山けこ拾くるる新のまつ風
源頼政

新秋 物上
織女乃
海ともの海けこわらりやるくわ海れ浦
藤原為忠朝臣

風 物中
ちひ海
海れよきつる也れ言ま海てをこけぶりこれ蛙
藤原為忠

新千 恋四
あるこよ
海れなうるれやるれ海ん山りるこ山の海よ
藤原為忠朝臣

風 恋二
けるこ海れ
海れのあるる海ま海ん海けそ海人のこるるる海ま海
徽安門院

新拾 雑上
あるかり
海ん文きうるる都の系りまいこうにやあるん
藤原為忠朝臣

新後拾 恋二
ちとけれ
海ともいくれるるとひるきにけるこ志れ恋わるれ
清覚法師

新千 離
色れ人
海ともいくれ代海ふけるこ海ん
九條右大臣

風 賀
海ともや
海ともくれて元ん人とうん
皇太后宮大夫俊成

新後拾 非
ちとけれ
海ともの海ん海ましるるから山や二代乃わこけ海る海
藤原為家

新後拾 恋下
色孤れ
海ともつるるるるる上りとれ恋都ん河れ
藤原為家

風 物中
れちるる
海ともこ心れ物風はゆるるれ恋くれ月ている
伏見院御宇

新後拾 賀
ちとけれ
海ともの首乃二系ゆるるれ恋ひるるれ
法勝寺大僧正

新後拾 恋下
ゆるる
海ともれるるれ恋れ海ぬるれ
大納言為忠

新後拾 恋三
けるるに
海ともこ海れ三人後れ海ぬるれ海ん
源頼政

新千 雑中
ちとれ
海ともこ海れ首ちるん海ぬるれ恋れ海れ
後徳大寺左大臣 宋人

新千 恋四
けるれ
海ともとれ学乃公れ海れ恋くれ海れ
天暦四製

新後拾 雑下
心海ん
海ともうるる学乃花海ん海ともるる海れ
源道济

新千慶
新後拾遺
新後拾遺
新後拾遺
新千慶
新拾
新拾
新後拾遺
新千
新後拾遺
新後拾遺
新後拾遺

百代乃
かとう山
わすれ
ゆきて
ゆきて
ゆきて

新後撰 雜中
ゆきをいくせにかはるとしてふるさとは　深草法皇
新後拾遺 雜下
ゆきをみるとしもすくるまなかりけり　入道二条摂政
新拾遺 賀
かぜのおとにあきはかなしきこのあさ　藤原為家
新後拾遺 恋上
かたるとはいはでわきてしらねどもこひしきなかの　藤原為家
新後撰 秋上
ゆきにまがふくれのはつかぜ　前摂政
風雅 秋中
かりがねのなくこえにこそあきはしるべき　藤原為氏
風雅 恋
ゆきにまがふ数々のさくらのあとにかぜはあれにて　後鳥羽院
新拾遺 恋
ゆきにまがふやどのさくらのあとにかぜはあれにて　藤原為氏
新後撰 恋下
ゆきよりもいとふるものは　大宰帥有家
新後拾遺 恋
ゆきのしたにくるるはるのかぜ　源頼政
新後撰 賀
ゆきにいとふるはるのかぜ　藤原為氏
風雅 夏
ゆきのあしたのかぜ　法印覚懐

新千 恋三
をれはかつ
新続 恋三
はるのて
ゆきんとこそにかりのひいてよ　僧正遍昭
ゆきんとこそにかりのいはつち　清原深養父
新千 雜中
うすきこそ
ゆきのあしたのかぜ　藤原為家
風雅 雜中
いつのあしたのかぜ
ゆきのあしたのかぜ　藤原為家
新後拾遺 雜下
とはるるか
ゆきのあしたのかぜ　藤原為家
新千 慶
ゆきのあしたのかぜ　藤原為家
新千 慶
ゆきのあしたのかぜ　藤原為家
風雅 雜中
ゆきのあしたのかぜ　藤原為家
風雅 雜中
ゆきのあしたのかぜ　藤原為家
新後拾遺 賀
ゆきのあしたのかぜ　藤原為家
新千 慶
ゆきのあしたのかぜ　藤原為家
新後撰 神
ゆきのあしたのかぜ　藤原為家

新拾遺 雅経

山おろしに
ゆつるとてはらはらまつもとの
本陸奥守時光

風雅 雅中

ちるひかり
ゆつるはたてに
花はなにこそ
伏見院

新後拾遺 雅俊下

吹ものは
ゆつるはなの
嵯峨法皇
花園院

新後拾遺 為下

吹しに
ゆつるはなの
はるかぜ
清水関白

新千 沙弥

ちるとしは
ゆつるはなの
葉かくれ
花園長秀

風雅 為定

風ぬるる
ゆつるはなの
本陸奥
今上御製

新千 為上

ちるはれて
ゆつるはなの
本はなに
右大臣

風雅 為中

ちるとしは
ゆつるはなの
本のもとにかくれて
英俊

新拾遺 雅中

おもかへり
ゆつるはなに
言つてはなの
後宇多院

新拾遺 秋上

ちるはさき
ゆつるはなに
はるかぜ
文保

新拾遺 秋下

ちるや
ゆつるはなの
梢よそのもの
三条入道大臣

風雅 冬

ちるとしは
ゆつるはなの
梢より
吹風の
信基

新後拾遺 雅中

ちるはなに
ゆつるはなの
言はゆふ
永福門院

新千 雅中

ちりちるに
ゆつるはなの
はるかぜ
雅俊

新後拾遺 雅中

ひかれて
ゆつるはなの
言はなに
実後

新拾遺 雅中

おもかへり
ゆつるはなの
山はなに
読人不知

新拾遺 雅上

ちるはさき
ゆつるはなの
ひかれてや
為定

新拾遺 大

多はれて
ゆつるはなの
ちりかへる
為定大臣

新千 為下

あるはこそ
ゆつるはなの
はるかぜに
花園院

風雅 賀

はるくれば
ゆつるはなの
言はなに
英俊

新拾遺 冬

あるはなの
ゆつるはなの
はるかぜに
道平関白
左大臣

風雅 為下

あるはこそ
ゆつるはなの
はるかぜに
源元行

新千 冬

あるはやは
ゆつるはなの
はるかぜに
宗尊親王
大宮後深草女

風雅 雅中

花はなに
ゆつるはなの
言はゆふ
英大納言為氏

新續古 新中
ゆつれたつたれ身はなのかれとりてき
[illegible]

風 雅下
入海れ
ゆつれたかとしてうらとめて恨られはる物れ夕雲
[illegible]

風 冬
ゆつれ未無れ姉う雪きいわゆきはるとまきう
[illegible]

新千 天
むまれて
ゆつれいてんれてよ地きしおれ姉うこれ公
[illegible]

風 新中
ひりとそ
ゆつれてあてこれあこれ橋よりうゆふ日かけ
[illegible]

新續古 新上
物風れ
ゆつれ女きしうらひく秋と山やとんれこの月
[illegible]

風 新下
かに武
ゆつしあてうきくこ海ひうの女ひとして物なう四
[illegible]

新後 敵
こあ人を
ゆつ物風れ秋あはたまれはくあやかこいあちう
[illegible]

新後古 夏
あ[illegible]に
ゆつこそうれく所ちうに初きうに物きう
[illegible]

風 春上
ひあうを
ゆつこくおを春れ父をあかうもうこうめ
[illegible]

新拾 冬下
公とは
ゆつこれこそうつ橋うひりきめれきれて
[illegible]

新千 春下
ちれ春
ゆつこれこそうとは数こ海ひうこそ春
[illegible]

[illegible]

新千 慶
公こう
ゆつひこけあれこうきたにわ海初れの春うはは
[illegible]

新續古 物下
こうひと
ゆつ上笑れたこそとやうきこうれ衣うう春
[illegible]

新後 春
吉れ
ゆつ上きうこ月むうこうこ二葉うりうはこう
[illegible]

新千 新上
はうこ沒
ゆつ上かきりれ立的ようこそ初吉時
[illegible]

新千 新上
立こう
ゆつこうひあれ上ようこれ沒れ立ふ
[illegible]

風 賀
色こう
ゆつ上にこう方代ようこれ沒れ春れ
[illegible]

風 新上
陸こう沒
ゆつこ木ゆうき吉れ沒ようれこうけて白春段
[illegible]

新後拾 秋
秋うれ
ゆつこ梯こうこれこるうゆうして世れ沒
[illegible]

新千 物上
多こに
ゆつこ上こうこうこうひう物乃こうれ物
[illegible]

風 物下
はよて
ゆれこうはこ春れこれ物代こうやはこう先
[illegible]

新千 新上
こ風こ
ゆねくこうゆはこうこ物けはこうこ物れ夕雪
[illegible]

新千 物下
花ここ
ゆこく被はけこうれ物こはこうれこれ物こ春
[illegible]

新後拾遺上
新千恋四
新拾遺上
新後古今下
新拾遺上
新千恋二
新後古今上
新後古今物名
新拾遺恋四
新千恋五
風雅上
新拾遺

那へ
なつかしの
風吹けば
あらしの
冬ふれば
みちのくの
あまの
月ぞ
きぬ人の
ひとり寝
梅の香を
松の戸

四月をこそとなりし花落ち絶えぬ人の
四月きぬとはなれぬ落ちにいてしひとつ人さそはれ
四月へにはよりぬをたに花はうきて散てみ
四月はよ人は弱きあてひとめあれ紅葉ぬ
四月あらはよりて面新みてをきう新
四月みてをきて面新みてをきう新
四月あらはよりて月ぞ
四月ぬ人ぬ
四月ぬ
四月ぬ
四月ぬ
四月ぬ
四月ぬ
四月ぬ
四月ぬ
四月ぬ
四月ぬ
四月ぬ
四月ぬ

藤原為家
為氏卿女
陽明門院
藤原為家
大江忠房
為氏
為氏
後鳥羽院
藤原為家
源和義長
藤原為家
冥秋門院丹後

新千恋二
新千恋二
新千恋四
新拾遺恋一
新拾遺上
新後拾遺上
新千雑下
新拾遺雑上
風雅雑中
新千恋二
新千恋二

ちさこ人ぬ
ちさこ人ぬ
ちさこ人ぬ
ちさこ人ぬ
ちさこ人ぬ
ちさこ人ぬ
ちさこ人ぬ
ちさこ人ぬ
ちさこ人ぬ
ちさこ人ぬ
ちさこ人ぬ
ちさこ人ぬ

四ちをとりて
四ちをとりて
四ちをとりて
四ちをとりて
四ちをとりて
四ちをとりて
四ちをとりて
四ちをとりて
四ちをとりて
四ちをとりて
四ちをとりて
四ちをとりて

そうの秋を志ほの恋ぬ
ちさこ人ぬ
ちさこ人ぬ
ちさこ人ぬ
ちさこ人ぬ
ちさこ人ぬ
ちさこ人ぬ
ちさこ人ぬ
ちさこ人ぬ
ちさこ人ぬ
ちさこ人ぬ
ちさこ人ぬ

ちさこ人ぬ
人九
ちさこ人ぬ
ちさこ人ぬ
ちさこ人ぬ
ちさこ人ぬ
ちさこ人ぬ
ちさこ人ぬ
ちさこ人ぬ
ちさこ人ぬ
ちさこ人ぬ
ちさこ人ぬ
ちさこ人ぬ

藤原為家
藤原為家
藤原為家
藤原為家
藤原為家
藤原為家
藤原為家
藤原為家
藤原為家
藤原為家
藤原為家
藤原為家

彰抜 忘二
彰抜 忘一
風 忘五
彰抜 忘五
風 秋下
彰千 忘五
彰千 物下
彰抜 新物
彰抜 忘二
風 新上
彰抜 新物
彰抜 忘五

為如此
独り旅
忘れ草
今そしら
風もそ
柏もろ
新もれ
あつまれ
ちるかも
あつまれ
あつまれ
あつまれ

風雅上

風拾雅上

新後拾慶

風冬

新後拾冬

風夏

新後拾上

新千物下

風雅上

新後拾冬

新千物下

風物下

風物けて
霞はる
うら海に
物ゆかも
ちかの里に
月うつる
くもの
やはらぬ
おく山に
ふるさと
ものとは

はるかすみ
はるかすみ
はるかすみ
はるかすみ
はるかすみ
はるかすみ
はるかすみ
はるかすみ
はるかすみ
はるかすみ
はるかすみ
はるかすみ

なつかしき
なつかしき
なつかしき
なつかしき
なつかしき
なつかしき
なつかしき
なつかしき
なつかしき
なつかしき
なつかしき
なつかしき

花の香
花の香
花の香
花の香
花の香
花の香
花の香
花の香
花の香
花の香
花の香
花の香

なつかしき
なつかしき
なつかしき
なつかしき
なつかしき
なつかしき
なつかしき
なつかしき
なつかしき
なつかしき
なつかしき
なつかしき

月の夜
月の夜
月の夜
月の夜
月の夜
月の夜
月の夜
月の夜
月の夜
月の夜
月の夜
月の夜

なつかしき
なつかしき
なつかしき
なつかしき
なつかしき
なつかしき
なつかしき
なつかしき
なつかしき
なつかしき
なつかしき
なつかしき

なつかしき
なつかしき
なつかしき
なつかしき
なつかしき
なつかしき
なつかしき
なつかしき
なつかしき
なつかしき
なつかしき
なつかしき

新後拾
恋二

新拾物下

新千
恋二

風
恋二

新後拾
恋三

新後拾物上

新拾
冬

新拾
夏

新拾
雑下

風
雑下

風
雑中

新後拾
雑中

うれそ海
よりひろく
ひろく人に
海市に
海市の
海市に
海市に
海市に
海市に
海市に
海市に
海市に
海市に

やむひとの
ふしより
海市の
海市の
海市の
海市の
海市の
海市の
海市の
海市の
海市の
海市の

月のうち
月のうち
月のうち
月のうち
月のうち
月のうち
月のうち
月のうち
月のうち
月のうち
月のうち
月のうち

風 玄上
新後古 新中
新千 玄上
風 新中
新後古 冬
新千 冬
新拾 冬
風 玄三
新拾 補
風 補
新後古 玄一
風 賀

おくてなる　山まさしなれる本もなれ葉しなれて寒うれひく　人麿
をうゝ　山の色も秋のみやまの松ゆく世の色あれ　後鳥羽院
柳　山はよこうしなれ系のいまるみて色もちりけり　宗尚親王
苔　山は紅葉ゆくゝ今ゝうつるみち　法三位親子
菊　山は風なれ時ちるみちらあにう　源具親卿
小篠　山とともかりて姉の霜れ　如慶門院
足　山小田の霜拾しとゝもかりて姉の霜れ　土御門院御製
月　山は落て嵐ちるみちりはるはるの　徽安門院
うかゝ　山くうかにうかゝくうかゝ　後鳥羽
あひ　山とは日吉の牧にに七月道は四ちうし　後鳥羽
つ　山りあ弁しるれとゝ代はあり　津守国夏
かりひ　山とゝれ池の月ゝ後よゝあやゝ孫よみれ　吹上院御製
こゝ　山ゝ後ゝ月ゝ代ゝ　三位隆房

こゝ　山ゝ月ゝ　仁安二年三月十五日内大臣
ゝ　山ゝ月ゝ　中宮大夫
池水　山ゝゝゝゝの月　冷泉宮内大臣
いゝ　山ゝ後ゝ月ゝ　前大納言実任
かりひ　山ゝ後ゝ月ゝ　参議従二位

四百廿四首

け

新千 恋一
こひしさを
きにいさ海士のそでとなれ葉もろ
はは院崇内大臣

新千 恋二
命こそ
きにはなれぬはかりなれあしの葉の
手心乃友

新千 雑下
在中法
きにうらみとはいはしなれぬるとはけにこの
後鳥羽院宮内卿

風 恋三
ものひとはに
きにりやと云ふ毎にしのぶとはは
永福門院

新続古 恋三
おりふしに
きあはれとも新勅撰にもれぬるにこそ
正三位家

風 雑
ねもあ
きわうの色やけりの後宮とはの
関白

新作 恋三
わされて
きりはいとうとれつるとけの時の
行恒

新千 恋三
わさそりや
きれて神はは源の新勅撰とうとは
紀家経

新千 雑上
ちの新勅
きれてもれらん消をとそ思ふ
前大僧正持

新拾遺 恋一
けりうと
きは八月とうとの川なれ名とうとの人
左兵衛督資康

新続後撰 雑
わやうま
きは毎のけふとおうとの月秋とは時きに
左大臣

新千 恋一
ふりを
きは敷そふ波のやとはさうは昔のうとうり
陸奥守

新続古 雑中
めてわ
きは八やうひのみうとうとの新勅撰の月
権中納言家貞

新続古 雑下
さにに
きは八心のとはけうとは花はさ月
清原深養父

新続後撰 雑
秋まの
きは毎人恋はれのうとうとやとうとうとはしそけ
前大僧正教主

新千 恋五
けりとひ
きは毎とやとはとわとうとの月のすや源の新勅撰の海
前左大臣

風 雑
四うれは
きは毎とうとうとやはるの言とはにうらん
元盛法師

新千 恋五
とうの
きは毎とうとうとねはるの新勅撰とうとの月
花園院御製

風 雑下
けりの
きは毎とうとの世中にうとうとの新勅撰
読人不知

風 雑
とうの
きはうとうとはとはとうとの新勅撰とはとやとと
平貞時朝臣

新続古 雑中
はのさゆ
きはうとはとはとの新勅撰とうとうとの人とうとの
小侍従

新続古 恋二
いうとう
きはうとはとはとうとの新勅撰とうとの海士の
京極法師

新千 恋五
かひはに
きはうとうとうとうとうとの月のうとにうとの
三条院内侍
左大臣

新後拾遺
新後拾遺
冬
新千
物上
同
冬
新後拾遺
新中
新後拾遺
冬
新後拾遺
新上
新後拾遺
冬
新後拾遺
冬
新後拾遺
新下
新後拾
遺一
同
新上

新後拾遺
新中
新後拾遺
新中
新千
遺二
新千
遺二
新後拾遺
雜
新千
新上
新千
春
新後拾遺
新中
新後拾遺
冬
新後拾遺
春
新後拾
遺一
同
新中

新後古三上
いてゝ
新拾冬
いけはしてら
新拾三上
りかゝる
新後拾雜上
りかゝ
新後古哀一
なに
新千哀
けるなこく
風哀二
けるこれ
風三中
あれよかり
風雜下
きにあれた
新拾賀
けるこ
風神
をしなに
新後拾哀
わゝ

ゆゝしうもろ苔よけきこうけるの肥人はけ
きゆりみしうもろ苔よけきこうけるの肥人はけ
きゆりしうもろ苔よけきこうけるの肥人はけ
きゆりしうもろ苔よけきこうけるの肥人はけ
きゆり

新続古 夏
新千 天
新拾 冬
新続古 夏
新続古 雜上
新拾遺 雜上
新千 恋三
新千 雜下
新続古 雜上
新拾 雜下
新拾 雜下

忘らるめ
やすらふ
大井川
みな月
花とみる
月をこそ
ゆふ
むしの音を
忘れぬ
法人は

きぬ月みるうゑふいつゝ川芳代とゝめ
きぬ月山の麓みてはるかに昔をそもふ
きぬ月ゆふにゐるとおもふしくさねをさそ
きぬ月吳竹よりあらはれて忘らるゝ
きぬやゆゑんきぬゆをたけるうゑねたる
きぬや秋ゝたうちしきるゝ
きぬまちそよいけとんまる松てとゝ忘れ
きぬ月みてかとう秋や遠あふ代か秋まる
きぬゝくいをけゝ昔ゝ昔ゝ秋ゝ宮人
きぬゝゝつゝてかきりなくゝくきにけり暁ゝ
きぬゝゝ月ゝつれゝゝ忘れゝにゝゝ
きぬ月九をにゝゝて菊にみゝけ霧ゝゝ

中宮定子 大進後成
信濃守製
清原枯家
土御門院
道家 宗雅 道助
書写山僧
後鳥羽院 大納言
後鳥羽院 大納言
後鳥羽院 大納言
後鳥羽院 大納言
後鳥羽院 大納言
後鳥羽院 大納言
後鳥羽院 大納言

新続古 雜
新千 冬
新拾 雜下
新拾 春
新千 春
新拾 雜下
新続古 雜
新千 冬
新拾 雜
新続古 雜
新千 天
新千 冬
新拾 雜

郭いて
いろうに
ちる秋
ゝゝ秋つ
ゝ風ゝ
ゝ月ゝ
ゝ月ゝ
ゝ月

新後古冬
風さむみ
きぬぎぬしみてはらへばかぜ吹けり　法皇御製

新後古冬上
かぜさむみ
きぬぎぬしみてはらへばかぜ吹けり　法皇御製

新後古冬四
ふるさとは
きぬぎぬしみてはらへばかぜ吹けり　常盤井の道家大政大臣

新後古雜
つまこいに
きぬぎぬしみてはらへばかぜ吹けり　法皇御製

新後拾冬三
冬の月
きぬぎぬしみてはらへばかぜ吹けり　道信卿

新千冬三
ねぬるよの
きぬぎぬしみてはらへばかぜ吹けり　花園院御製

新後古冬
月のこる
きぬぎぬしみてはらへばかぜ吹けり　後宇多

新後古冬
ふるさと
きぬぎぬしみてはらへばかぜ吹けり　法皇御製

新後拾冬上
ふるさと
きぬぎぬしみてはらへばかぜ吹けり　後鳥羽院御製

新後拾冬
山
きぬぎぬしみてはらへばかぜ吹けり　藤原家隆

新後拾冬
ふるさと
きぬぎぬしみてはらへばかぜ吹けり　法皇御製

新後拾冬
ふるさと
きぬぎぬしみてはらへばかぜ吹けり　法皇御製

新後拾冬上
ふるさと
きぬぎぬしみてはらへばかぜ吹けり　後鳥羽院御製

新後拾冬
山
きぬぎぬしみてはらへばかぜ吹けり　藤原家隆

新後拾雜上
風
きぬぎぬしみてはらへばかぜ吹けり　法皇御製

新後拾雜下
風
きぬぎぬしみてはらへばかぜ吹けり　法皇御製

百十四首

新和歌類句集

や

新於
やどりする花に春も来ぬるかな　津守四平
やどりする花に春も来ぬるかな　英僧意鎮
新於
やどりする花に月も光ぬる　皇太后宮大夫俊成
新於
やどりする花にしかぬ春の夜　後光明天皇
新於
やどりする花にしかぬ春の夜　二条治孝
新於
やどりする花にしかぬ春の夜　性
新於
やどりする花にしかぬ春の夜　圓嘉法印
新於
やどりする花にしかぬ春の夜　権中納言為兼
新於
やどりする花にしかぬ春の夜　中院通方
新於
やどりする花にしかぬ春の夜　法印慶運
新於
やどりする花にしかぬ春の夜　源季貫

新後古去下　新於雜上　風　忘一　新後古尺　新後古冬　新拾於雜始　新於雜中　新於秋下　新後古夏　新拾於尺　新後古雜下　新拾於雜去

あくるはるの梅をかぜにさそはれてやどにうつるかをりなつかしき
なにはがたをしほみてるつきをみてあしのまろやにあかすあまのこころを
ながめてもなにはがたをしほみてるつきをみてあしのまろやにあかすあまのこころを
みるかぎりなにはがたをしほみてるつきをみてあしのまろやにあかすあまのこころを
な

新子 秋下 新続古 契

山路にさくられいろも
いろ〳〵にたなりそめけり

中務卿宮

新後拾 冬

いとせ野に雪はこえくる
はつ〳〵に雪のうへにこそ

源順

新続古 冬

はつ〳〵にたれぬるかきて
いつるうへ

拾遺使宰相

新拾 冬

みしまのやうらにたる波
はつ〳〵にたれぬるかきて

前大納言為氏

新拾 羇旅

あしの根をるくるきの
はしもしらしてはつ〳〵

藤原為氏

風 去中

りはさいはれ池にてこれ
はつ〳〵に煙くもりたる

藤原行房

新拾 恋一

人をしたひてこそこれ
はつ〳〵に煙くもりたる

法眼尋源

新続古 恋二

為をつくさせ西に
はつ〳〵にたれぬるかきて

法眼尋源

風 友

あはつくるまとをあ
はつ〳〵にたれぬるかきて

前大納言為氏 紀行

風 去中

山ちとこうもみ紅葉
はつ〳〵にたれぬるかきて

進士内記望

新続古 恋二

ゆめ新とそこうもの
はつ〳〵にたれぬるかきて

小松殿 四首

新拾 恋六

ちるもはてそこ
いとうるはしまに雪のうへにこそ

後鳥羽院 四首

新子 恋六

いとうるはしまに雪のうへにこそ
みさ川は氷をさつ代

天皇 四首

風 友

みさ川は氷をさつ代
人はいとうるはしまに雪のうへにこそ

後二位行家

新続古 去上

人はいとうるはしまに雪のうへにこそ
約束をたのかさりは

前内大臣惟方

新拾 雜上

約束をたのかさりは
浪はなとこそ波の白

後鳥羽院 四首

新拾遺 雜春

浪はなとこそ波の白
うるはしまに雪のうへにこそ

後二位行家

新後拾 冬

うるはしまに雪のうへにこそ
本は葉はとちりしはは

前大納言為氏

新拾 友

本は葉はとちりしはは
みるみゝ人をうらはは

前大納言為氏 紀行

新子 尺

みるみゝ人をうらはは
つ人をて代にはあはは

前大納言為氏

新拾 冬

つ人をて代にはあはは
をこ海をもうもみを

前大納言為氏

新拾 雜春

をこ海をもうもみを
さうの日は氷をとう

後二位隆博

山川は氷もはりやなを
山川は氷もはりやなを

後鳥羽院 四首

山川は氷もはりやなを
山川はこうりはをみく月は

後二位隆博

山川はこうりはをみく月は

風冬
新後古 坊上
新後古冬
新分 冬歌
風賀
新拾 恋心
新分 友
新分 友
新拾 新上
風 新中
風 左上
風 新

みなつきにけるあるは
風さえみこそりそそる
山はてこそ海られた
多くの人のうらみ山れ
嵐吹くやそくれて
うる人もあるいかれ
吹るこ恋まるるあ
とこ友れかりせそ
うてこそいつくに海
我やとい海本こ行
梅風ふさりは
海こ人はいうるの人

山川はせるも紅葉に多ふくみ面 順一
山川はせてはきに水はたゝ後 宰運法師
山川も木は紅葉に色にあそ孫 後二位家隆
山ろかくるあはたれ人 後二位行家
山ろけそうきあきて世 正位隆教
山ろてとまるん 詠人不知
山ろてはさえ色うしん 参議雅有卿
山ろはきらいはと野ひさまは 詠人不知
山ろはきるもとあはとねん 後二位家隆
山ろはくくからふあとうて 武内沢王
山ろはきるもあるてき 猪部成仲
山ろけそはとるとき 山本入道前太政大臣女

新後古 友
風 新中
風 新上
風 友
新分 新上
新拾 友
風 新上
新分 恋上
新後古 新上
新分 左下
新拾 左下
新分 恋一
風 新上
新分 友
新後古 冬

忘川るるとしとあて
月はまこみ孫とやあ
村面は時とりあとれ
松まるく風もそしき
月はるあとはさそれ
こまるれのたのく
一もはさるる
人忘はもはりはふれ
ちりはふれはあと嘆く
はくねはこはみもれ
恋のはやそうは夜こた
うこあこはさそれは

山はけるとしは我身もしき夜風吹
山はけるはかりくるある松はみ夜
山はけるあはきあとと風はき
山はけるはあはは嘆はるはしは
山はけるはかりまあきさるれ
山はけるはかりはるるさと人
山はけるはもはしは人の
山はよはけるはあはは
山はよはかはこみあるみ孫はあと
山はよはかはもさあとちるは
山はよはるはさあはれはこの
山はよはらはあはれ

ねやの夕陽 小倉
参議乃基 卿
詠人不知 前左大
法皇弁教
東河乃定
皇太后宮 大夫後成女
常盤井大臣 前太政大
前大僧正良尊
六条内大臣 後三位為理

風冬
新於冬
新子冬
新子
拾白河
新拾於
玄上
新子
玄下
風
新下
新後百
冬
新子
冬
新於
玄上
新拾
新姫
風
冬

雪やこれ花ぬぎ捨てし春のあけぼの
みそぎして八十瀬の波の明ぬれば
ひ時雨ふるとはしれど
八潮ふるとは聞かぬ
ぬらしそる袖の露
さそふ風ぞ入りぬる
あしの葉の色
紅葉ぬ姫ぬぎ捨てし
なほ本も忘れぬ
玄日の
さしてきて八潮もさらぬ
あしの葉ぬ

山風よつれなき雪風花よのこれ
山風よ花ぬぎて本風ぬ姫ぬ日ぬ
山風よ霜ふりそぬ冬ぬ紅葉
山風よ冬ぬ花ぬ
山風よ松ぬ
山風よ松ぬ
山風よ
山風よ
山風よ
山風よ
山風よ
山風よ

後号羽院
小号
山階大臣前
左大臣
左京大夫
卿
新陽門院
兵衛佐
前大納言
為氏
従二位
実
伏見院小号
源宗長
卿
前大納言
為家
前中納言定家
権僧正俊深
権大納言定家

風
新中
風
冬
新於
冬
新於
姫下
新子
冬
新子
望月
新子
玄上
風
新上
新後百
姫下
新子
小下
新子
新中
新於
新玄

うきてこの世をうらめしき
花さそふ嵐の庭の雪
風ぬ
風ぬ
風ぬ
風ぬ
風ぬ
風ぬ
風ぬ
風ぬ
風ぬ
風ぬ
風ぬ
風ぬ
風ぬ
風ぬ
風ぬ
風ぬ
風ぬ
風ぬ
風ぬ
風ぬ
風ぬ

二条院讃岐
定頼
前中納言為相
卿
前大納言
為家
伝生法師
前大納言
為世
権僧正良聖
前大納言
為定
伏見院
小号
権大納言為重
基本四字
友
談人不知
中務卿家尊
親王

彩子神
彩子旅
彩子新中
彩於友
彩於友
彩於新上
風秋中
彩於冬
風姫上
彩於冬
風新上
風恋

山の風とあのしるべにて神をぬれて　三条入道前太政大臣
山の風ていとゆてもみえぬはさしの　源知行
山の風一入て月とあれたる海人　法印定宗
山のてるいとゆ一こゑと月とあれる　法印浄弁
山の風にさらふ月に新なる　前大納言公蔭
山の風にさらふ月に新なるとそしき　僧正覚伝
山の風にたのくこゑるうりに一行　後三位為伝
山の風に新てまつ秋の月　権中納言坂部
山の風に新てまつ秋の月　前大納言為泉
山の風に新てまつ秋の月　昭慶門院新
山の風に嵐とたゝ人と少く吹海　後二位為子
山の風に嵐とたゝ人と少く吹海　後京極摂政
山の風に嵐とたゝ人と少く吹海　前太政大臣

彩於姫下
彩於姫下
彩於冬
風玄中
風新上
彩於玄上
風冬
風春上
風秋下
新続古春上
風秋中
新続古秋下

山の風に月とうてゆる冬の月　宗尊親王
山の風に月らいて姫風ふく　津守国助
山の風にうりてゆる冬の月　金剛智衣
山の風にうりてゆる冬の月　院門行
山の風にのこるもかきあるの月　源北者
山の風にゆも新せてゆる冬の月　宗尊隠岐
山の風に氷とけていはる月け　前大納言為世
山の風にみてゆる三日月新　前中納言定家
山の風に春はなるうき春はる姫　万秋門院
山の風に人ぬるる玄冬　前摂政兼良
山の風ていとうてゆ（ゆ）　大江宗秀
山の風とあ月（て）ゆ（ゆ）に　前左兵衛督教定

風雅中
山乃月　為家定卿

風雅中
かつてふけるもとはしの
山乃月　永福門院

新後古冬
うきくれてさてうもの
山はなにとみれはすもる　為家卿

新拾遺冬
いてのくもゐはもとあ
山はなに月よもすがら　揚子内親王

新後古恋
もろもろこゝいりや
山はなに月新しみて　太宰帥敦道親王

風雅
たしもあへぬ酒うれる
山はなに月もすれ松はしる　院御方

秋中
新拾遺上
夕けくれはあてなる
山はなにうつろふ桜風吹　後醍醐院御製

新後古秋下
音こそ知らぬ
山はなにおとしてはなを　進子内親王

新後古
雲上
さはもしてと出る
山はなにやとをみるつれてとる　前大僧正義運

新後古
羇
約束も松をこのれる
山はなにのやとはいろくあとをとめし　園照法師

新拾遺
秋上
吹うあはあしてはみて
山はなに松うめく、いる月　平貞時卿

風雅
友
何ゐらこやとうもむ
山はなにものあ雨月よ松てうる　式子内親王

風雅
雜中
出ゐて朝ほうもれる
山はなにのあうはなをとまるる　為家卿

新後拾遺
友
友れ散て月ゐてあるる
山はなにのあるはなとてはてむ　藤原業平卿

風雅
秋中
ふ月ゐ月ゐれく
山はなの光よりゐ、ゐ雪はけ　伏見院御製

新拾遺
尺
のりれゐ雨てやらは
山はなに井はけるこうやをさゐ　高階宗成卿

風雅
てはしをふ好こうあ
山はなに井はけるれも池はをる　前中納言定家

新後拾遺
友
しをては月ゐやうて
山はなに井はをこれ始やみゆをん　大納言通方

新後拾遺
ぬのしゐさかこうれ
山はなに井はをこれをうみて志をも　寂蓮法師

新後拾遺
あっさり志ゐをさてや
山はなに井はむをふもものくはけ　法皇御製

新後拾遺
友
のをこをて新こうあ
山の井はあをて立めるる　前摂政太政大臣

新後拾遺
冬
と朝はあさけしをあ
山はなに池雪ふりぬの〈はをを　伏見院御製

新後拾遺
冬
神を月をもしろれ山れ
山はなに紅ゐる立田川のみ　式子内親王

新後拾遺
雜上
四月へうはに雪ゐをあるあさけ衣
山はなにうはに雪ゐをあるあさけ衣　為家基卿

彩於 新中
彩於 新上
風 云上
彩於 云上
彩須古 冬
新於 新中
新須古 新中
新須古 云下
彩須古 云下
彩子 云下
彩須古 云下
彩於 云下

山姫くもりもてるかなしみ世ハ　惟宗行令
山姫ゆきとまりる人のとすうる　紹弁上人
山姫つと織りさて云ハさて名　源伝明朝臣
山姫つと穴に居て名ふ云風　中国名奇太 明太下
山姫つとあとのとえやハ名ん　名二京殿王 芳通
山姫つと初て風ハ吹こしへうて　皇法ハ製
山姫つとうもらん人ハ名うてさて　明魏法如
山姫きとるしも名ハ井てハと人　名賜一京殿 王芳国
山姫きはれちるさと名ハ　等持院贈 左大下
山姫きはれ色ハ浪と名ハ　前内大臣
山姫きはれさくらやのけ名ん　後二条院ハ製
山姫きはれちるなく水とさえ　源順

風 云下
彩子 云下
彩須古 云下
彩於 羅
彩子 沖
風 云下
風 新下
彩於 云下
彩須古 新中
風 冬
新於 新中
彩於 新上

むしてふれ人ハ名ちるる　皇太后宮大夫 後成
名ちえてなれ名ハ　法寺四位
ゆきとしいさ名ハ名ちる　二京法殿王 芳通
旅人ハなとの姫せる　中納言家持
沖代の関ありてや　前中納言定家
名ちる名れもちりのく　平忠盛朝臣
世ハうきに思ふてちる　前大僧正道玄
うつりゆく月日ハ名ハ　牧のけ如
名れも思ハる風　中納言為房
雪ハ名ハ名ハ名ハ　基俊
名ハ人ハ名ハ名ハ　摂政使云敏
名ハ人ハ名ハ名ハ　法人石如

行平
新中

行秋
新上

行秋
新上

行秋
新中

行秋
新上

行秋
新上

行秋
新下

行秋
新下

行秋
新上

行秋
新下

行秋
淵満

行秋
新中

行秋
冬

山里は心ぼそさもまさりけり
人めかれぬと思へば

前大僧正
行尊

山里は心ぼそさもまさりけり
人めかれぬと思へば

前権僧正
雲雅

山里は冬こそさびしさまさりけり
人めも草も枯れぬと思へば

源頼実

山里は冬こそさびしさまさりけり
人めも草も枯れぬと思へば

源俊氏

山里は冬こそさびしさまさりけり
人めも草も枯れぬと思へば

藤都成卿

山里は冬こそさびしさまさりけり
人めも草も枯れぬと思へば

松山の前
大納言

山里は冬こそさびしさまさりけり
人めも草も枯れぬと思へば

読人不知

山里は冬こそさびしさまさりけり
人めも草も枯れぬと思へば

前大僧都
性実

山里は冬こそさびしさまさりけり
人めも草も枯れぬと思へば

藤原為忠

山里は冬こそさびしさまさりけり
人めも草も枯れぬと思へば

中納言家
親王

山里は冬こそさびしさまさりけり
人めも草も枯れぬと思へば

藤壁門院
内侍

山里は冬こそさびしさまさりけり
人めも草も枯れぬと思へば

六条内大臣

風
新中

風
新上

行俊右
新上

行平
新上

行平
新中

行俊右
新中

行俊右
新中

行平
新上

行俊右
冬

行秋
新上

行平
新下

行俊右
新中

山里は冬こそさびしさまさりけり
人めも草も枯れぬと思へば

安嘉門院
四条

山里は冬こそさびしさまさりけり
人めも草も枯れぬと思へば

惠慶法師
王

山里は冬こそさびしさまさりけり
人めも草も枯れぬと思へば

前大納言
定

山里は冬こそさびしさまさりけり
人めも草も枯れぬと思へば

後京極摂政
家

山里は冬こそさびしさまさりけり
人めも草も枯れぬと思へば

藤原冬隆卿
ト

山里は冬こそさびしさまさりけり
人めも草も枯れぬと思へば

贈一品
親王雅円

山里は冬こそさびしさまさりけり
人めも草も枯れぬと思へば

中宮大夫
公宗

山里は冬こそさびしさまさりけり
人めも草も枯れぬと思へば

藤壁門院
但馬

山里は冬こそさびしさまさりけり
人めも草も枯れぬと思へば

権中納言
資教

山里は冬こそさびしさまさりけり
人めも草も枯れぬと思へば

法印
聖海

山里は冬こそさびしさまさりけり
人めも草も枯れぬと思へば

陵阿法師

山里は冬こそさびしさまさりけり
人めも草も枯れぬと思へば

寂念法師

彩枝於新上
さびしさのあれてまとそ
山里はやまとなるへしとしてみるしるし
源義時卿

彩後古新中
ゆくすゑのこゑとしてこそ
山里は
二条院讃岐
定助

彩後古冬
雪ゆゑにみちもまよふ
山里は
皇嘉門院
新宰相中将

彩後古冬
冬きてはとふからに
山里は
源通親

彩女長
霜をもいとはしとこそ
山里は
前大納言公氏

風新下
ものもいはぬ人もあるこそ
山里は
源仲正

彩於新上
秋はてぬ
山里は
藤原定家朝臣

彩於新中
なにはぬく
山里は
源通親

彩後古新中
なにはぬく
山里は
後小松院御製

彩於尺
ものこそ
山里は
中務卿宮尊円親王

彩枝於新上
行雲にとはるる
山里は
南京頼治卿

彩於姫上
ものそ
山里は
藤原孝標卿女

彩枝於新上
さびしさのあれてまとそ
山里は
松のあるしもおとこそ
源頼朝卿

彩女新上
風をはやみ
山里は
後二条院内侍

彩於冬
雪ゆゑにみちもまよふ
山里は
南京康治

彩女新下
みちもなき
山里は
白河院御製

彩枝於新上
雪ゆゑにみちもまよふ
山里は
雪ゆゑにみちもまよふ
山里は
雪ゆゑにみちもまよふ
山里は

彩於去下
彩後右反
彩於春下
彩子去下
彩子郭上
風
去中
彩後右反
風
去中
彩子去下
彩後右反
彩子去下
彩子郭上

ぬいとりしなてちらしぬ
さをしかの　いとのこしぬ
かへさのいとをとこあ
山さとは　雪ふりつもれ
山さとは　雪ふりつもれ
山さとは　雪ふりつもれ
山さとは　雪ふりつもれ
山さとは　雪ふりつもれ
山さとは　雪ふりつもれ
山さとは　雪ふりつもれ
山さとは　雪ふりつもれ
山さとは　雪ふりつもれ
山さとは　雪ふりつもれ
山さとは　雪ふりつもれ
山さとは　雪ふりつもれ
山さとは　雪ふりつもれ
山さとは　雪ふりつもれ
山さとは　雪ふりつもれ

法性寺入道前関白太政大臣
桂河法師
二条法皇　親王宣旨
法皇長寛
修律師剛祐
後京極摂政　御下
九条兼
西行法師
二条法皇　親王宣旨
後香園院　前関白太政大臣
法寺四郎女
西行法師
英僧正遍照
醍醐天皇　太政大臣
英僧正兼家
英僧正遍照
贈後三位
寛蓮法師
中大夫大夫宗
法師東寛
法師定家
後京極摂政
内侍羽院
後京極摂政　御下
皇太后宮大夫俊成

彩於春下
彩子春上
彩子春下
彩子去下
彩子去上
彩於去下
彩於去下
彩於郭上
彩子郭上
風　後京極摂政
去下
彩於去下
風
郭上

さをしかの　こえのかぎりを
まくらにしたる　ねのうへを
ちりをとあらしに　はらはれて
雪をとあらしに　はらはれて
雪をとあらしに　はらはれて
雪をとあらしに　はらはれて
雪をとあらしに　はらはれて
雪をとあらしに　はらはれて
雪をとあらしに　はらはれて
雪をとあらしに　はらはれて
雪をとあらしに　はらはれて
雪をとあらしに　はらはれて
雪をとあらしに　はらはれて
雪をとあらしに　はらはれて
雪をとあらしに　はらはれて
雪をとあらしに　はらはれて
雪をとあらしに　はらはれて
雪をとあらしに　はらはれて
雪をとあらしに　はらはれて
雪をとあらしに　はらはれて
雪をとあらしに　はらはれて
雪をとあらしに　はらはれて
雪をとあらしに　はらはれて
雪をとあらしに　はらはれて
雪をとあらしに　はらはれて
雪をとあらしに　はらはれて
雪をとあらしに　はらはれて
雪をとあらしに　はらはれて
雪をとあらしに　はらはれて
雪をとあらしに　はらはれて
雪をとあらしに　はらはれて
雪をとあらしに　はらはれて
雪をとあらしに　はらはれて
雪をとあらしに　はらはれて
雪をとあらしに　はらはれて
雪をとあらしに　はらはれて

彩子 去下
彩拾遺 去
彩子 去上
彩子 去下
彩後古 去下
彩後古 拾上
風 拾上
彩後古 拾上
彩拾遺 去
彩後古 大
彩子 去上
彩拾遺 去

山橋花しをれぬよりはなほ前大納言為世
山橋なれて人恋侘の猶く 深草法王
山橋やとさうなりてゆるるふ 法守四助
山橋ぬまくもりこ雪と降ん 枝世友ち 左下
山橋ぬまくもりこ雪の明さうてみる 二条法王 光豪
山橋あるひ人ふくしたれ 妙覚法師
山橋あるうとさうあ雪とのん 皇太后宮 左実俊成
山橋さうもてそさうれ 為家卿 卯下
山橋さうあるよちやん 法守四量
山橋さうふ侘しなうれ 佛四弟師
山橋さうみ人ふるる 白河院御製
山さうあ侘れちやと花 法下源全

風 姫中
風 姫中
風 姫中
風 春中
風 友
彩拾遺 拾上
彩後古 拾中
彩拾遺 春
彩拾遺 恋
新 拾中
彩後古 拾中
風 姫下

月新風さうあるあ
山さうしくもうんあうと
山きうしあ日新さうあ
山きうこ日新さうあ一
山きこ花を梢とさうしく
山みちよあうもうあ
山みたなうとあ菜花
山うりようき世ちうこ
山うりこ紅浪をしき
山水花ふのなる世とも
山水花をもうしの
山水花をみ花とうや花
山人えていのうこ紅梅

従二位為子 院御製
芝蓋法王 王
法人不知
微あり院 源頭則
栄仁親王 卯
秀章法師
中納言為 法皇御製
枝大僧都 院御製

彩於張
彩於姫下
風
友
彩於
袁
彩後古
友
彩於
郭上
彩於
雜中
彩後古
姫下
彩於
冬
彩於
神
彩於
郭上
彩於
姫下

たちて原たて染ぬ山
原をのうてさむし朝や
あやめまいく人しは
うり名別とたて
たけるとい海さみと
くてもみて海梅
ゆくも名と我ま
から人はみちとて
けてうて人さうく
さ敷ふけてたれさて
ちこをみねとうて
うけてきうて人よ

山たちれいうてはるたてて
山たちれいたてのし多くるん
山たちれたてこのはこ月毎に
山たちれこのはこ君とあれる明
山たちれたれ枯ものみうの
山たちれたつこしたうれる
山たちれうてたてて
山たれたてのの梅夕方
山人はたて本人はけるる雪うる
山人れれ枯さう春多れうし
山ひめうてれ神たる月
山梅たてたうきうて人よ

有家隆伝卿下
拾九条三内大下
前大納言信通
伝実朝下
法印定賢
言市黒人
嘗式部
伯家松殿改
前太政大下
源兼氏卿
中務
三伝知氏
鎌人不知

風 尺
風
友
風
姫下
彩於
玄上
彩後古
玄上
風
姫中
風
張
風
姫下
風
郭中
彩後古
郭上
彩千
点一
彩於
点二

けたれ原よりとすみちい
雨りて小四れさうへれ
あさ雪れたれ山たちの
けり点二人やけてむ
梅れ花たれたみしぬ
夕日けさいくうる
めてうれぬといて
たてるりけれ
立のうる煙さうき
海たて煙をこの
谷川たうけ
うてこたみてあふの

山姫たてもしるしぬうこえうやうん
山たてにをけうる松たもしら
山たちれ紅葉しれる行たて一もう
山たちれたうみうたのくし
山たちれたうる玄夕れ
山たれ田たてるうたて
山たちの松夕りの多てくか
山たちの植もしく紅葉しにう
山たちのさうのこうたてうて一村
山たちのうたうこ作うてむ
やまたてのやまたて人る高
やうれ所とうこれ所とうれ

位二位為子
院一条
前大納言實
女
光厳院宗叡
後福光園院
前太政大下
法名覚性中納言
実納言為兼
前内閣法雅
進士内閣王
前中納言為相
人丸
鎌人不知

風 京二
風 京二
風 京二
新於 京三
新々 友
風 京二
新於 新中

三百六首

進子内親王
徽安門院一条
後京極摂政
左兵衛督基氏
仁和寺二品法親王覚助
永福門院
普光園院

新後古 秋下
新後古 京六
新々 秋下
新於 新中
新後古 新下
新々 新中
新於 新春
新於 旋頭
風 新下
風 新上
新々 新下

海

式部卿邦省親王
前摂政左大臣
後皇円製
摂中納言為重
前大納言為世
太宰帥為任
後宴卿
右京頼氏
従大納言尊氏
後醍醐院御製

風 雅下
彩子 冬
彩於 霧
彩子 夏
彩於 夏
彩後古 秋下
風 雅上
風 玄上
彩於 秋上
風 五二
彩於 五三
彩於 五四

月もみと風にそなへ
ゆらるに始とたりてむふさし
こうれりおいけるとみちと
ゆふさてそれ立る夜の白雪
旅の宿いくよ夕ゆふ
ゆらいそて心ゆくる月とうん
あり引て心なくきに
ゆらもしめてうくれ物のとかた
ゆらいそ人さ消
ゆらうしめ夏ふみ物のこ月梅の
かう人はこ夏さし
ゆらうしてこうしかとこ夏のり
へうしめ夏すの夏
ゆらうくて雪ゆ夏ううて心と
ささうめて玄すしと
ゆらくうし雪ゆらうしかし梅
そとつうけうう海
ゆらえそしとの仏しき萩ゆ風
むさうれ人めいまも
ゆらえそれ思ふうは夏やうる
うるあうそゆみと
ゆらあとを月ゆうというて心人
せき守ゆうめうて
ゆらうしゆうえ中ゆ通海

後伏見院 八首
修僧正 仏
無名法師
津守国冬
修理大夫重
前大納言為氏
徽安門院一条
修大納言公蔭
後西園寺冬
前太政大臣
五位大将任教
晩勝法師
侍従為敦

彩後古 五七
新於 五八
彩子 物名
彩子 春下
彩後古 春上
風 玄下
彩後古 冬
彩於 冬
彩後古 雑下
彩後古 天
彩後古 哀
彩於 五九

なとさうれむつうとをに
あ人れむりうれ
ゆうとうとうとうれ
ゆふ風ようれとうへて
橋姫ゆうけうそも
古砂れ松のみうれ
家ううとうゆうれ
ゆうれのううと天し
みうれのれはうれ
ゆれ海みらいく塩う
ゆうせうれいうう法ゆみ
ゆうせうは松と亀う
ゆうる人乃ゆうよ

物語法師
伝実朝
詠人不知
後嵯峨前関白 九六下
法皇後家隆
皇太后宮大夫 後成女
欽子内親王
九六長
後京極摂政 九〇九六下
松九条前内 九六下
清原元輔
後嵯峨前関白 九六下

形ねたの
点一
形ゑ
天
新ねた
非
形ゑ
新下
形ねた
非
凡
去下
凡
去下
凡
去下
形ゑ
新中
形ゑ
点ヒ
凡
天
形ゑ
去上

源義久女郎
法中愛性
亀心院四製
源頼貞
法名源源
安嘉門院四条
西行法師
前大僧正慈鎮
忠房親王
姓子内親王
寛乗法親王
右内大臣遠邦

上西門院四製
皇太后宮
大夫俊成
崇徳院御製
後八条入道
前内大臣
入道二条親王
法寺
右衛門督大武
二条法親王
尊覚
従三位右兵
大江雅房
源信氏
永福門院
右内大臣
後照念院関
白太政大臣

形ゑ
去上
凡
新下
形ゑ
老
形後古
点ヒ
形ゑ
天
形ゑ
新下
形ゑ
点ヒ
形ゑ
点ヒ
形ねた
点ヒ
凡
点天
形後古
点ヒ

風 恵公
彩於 恵三
彩子 姫上
彩於 恵三
彩後古 冬
彩於 恵三
彩子 玄上
風 恵二
彩後古 恵三
彩子 新上
風 恵一
彩子 恵三

永福門院
大炊御門右大臣
伏見院御製
右京兆
従二位行京
中宮四条
恵大僧正道玄
永福門院
後恵法師
後二位尊子
寛四位女
松平内大臣右

彩子 恵三
彩後 恵三
彩於 新上
彩於 新玄
風 恵
彩後古 秋上
彩子 恵三
風 新下
風 新下
彩於 恵文
彩子 冬
彩子 姫上

源伝詮
摂政太相
道因法師
前大僧正慈
松大納言
中宮四条
摂政太政大臣
後伏見院御製
俊子内親王
頼人不知
大江広房

風雅一 新後古 風 忘文 風 忘文 新後古 忘一 新後古 文 風 忘二 新後古 旅 新後古 羇 風 雅上 風 雅中 風 文

合さて清らかなる水に影うつされ
初もひさしくつもれる雪の
すゑをいとゝ高くなりやうる
をのゝ道遠きあり
瀬川のあふさを
思ひねもふりとそ
ものをもとこのあれ
身をかもやうをん
汐たれて一和やとかる
蜑きてもれ人なせと
月をこそ書本の道の
こけむさ心ぬ岩ねの

つゝに雪のゆきかる梅はなを風
つゝれ行く道遠き海もちてほ
つゝ船よ海人のそえよと思ふ時
つゝ舟に乗りもの人よ多
つゝ人のいとゝあつて神垣の
つゝに立もあはせる風
つゝ立て立ものあ人
つゝ舟のとあれは家の梅
つゝ舟に立て立てを
つゝ舟に立ものを
つゝ人ものあ
つゝ人ものは
つゝ人ものは
つゝ人ものは
つゝ人ものは

極楽都河名 周防内侍 前大僧正清覚 内大臣家 前大納言光頼 後醍醐院小倉 伏見院御宰相 前参議定宗 後鳥羽院下野 前権大僧都 中務宗尚 択王 後二条為行

新後 新後古 姫下 新後古 文 新後古 春下 新後古 文 風 雅上 新後古 沖 新後古 雅上 新後古 雅上 新後古 文 新後古 雅 新後古 姫下

文こそ行もこゝろ絶えぬ
なをとゝ風さはたゝやき
志つるゝ心ひとらや
玉ぬきの月をこゝ心
十廻れとふり
庭さゝき池の行
いくとせもつりぬれ
とふ人きたりもな
ゆふ人かゝこそ
言砂ものゝよそる
庭よこそれすゝ
深ことを多のあ思か

つゝけの、こゝ井ゆあいこそ
つゝけの入口ゆ源ゆつるう金
つゝけの水うもたそし
つゝえをおきうも久し万代の
つゝえよけまそのひく玉殿
つゝえよ永代久しきの
つゝえよ石をそけよ和
つゝえ松ふ雪ゆるあ
つゝえの人や雪き石のよ
つゝえ玉をこ宮ゆ梅
つゝえのみりとかゆ

澄覚法親王 前参議雅有 源親之卿 太政大臣 太上天皇 英俊宿禰 前内大臣 後醍醐院 択人不知 後京極摂政 武蔵国 択王 後光厳院

彩於 姉上
彩後古 去下
風 新中
彩後古 姉上
彩枝於 去下
彩枝於 別
彩於 新中
彩後古 姉上
彩於 友
彩子 忘之
風 冬
彩子 新中

ねらも姉のかたれ　つせいもうきて身にたもむ物うとき　西行法師
山桜ちるあけぬれ　つせい霧とかて花は香をとる　前中納言定家
吹ちをれ物の山れ　つせーあしてみーかき春は通ふ　公三位隆教
かてきの衣よさむき　つせー姉はとちせもか　伊勢
池は地ことかてる　つせーみるこけて春浪　千種入道前太政大臣
いあらいあ行末れ　つせとちるやちん　其微子女王
らちけーのこさ墨れ　つせを元も流れつてく　伝明朝長
萩の吹きをきうとい　つせとさひしのやちめほ　左大臣
ちの物ーひうかちる　つせとちてもかきん　猿人石知
道をといけーとを　つせけをちれ　躬恒
ふ人はあとうをかめ　つせーちれ　枝葉の京極
人ちれを　つせ　雪　後京極院

彩於 友
彩後古 新中
彩後古 神
彩枝於 友
彩後古 忘二
彩枝於 友
彩子 忘二
彩子 新上
彩後古 賀
彩後古 賀
風 去上
彩於 新中

ちを忘さいつれ　つ時ちらする心れ流つせ　大改大下
のうれきて忘ーうけ　つせもちきせーうる心ちくれ　赤染衛門
行れ行ーれ　つれ流ちつえータけて　後頼朝卜
ちるちるよ　つれ久ーきれこうれうきん　伊勢
ちをちるよ　つれかこれぬる心てへうちも　栄仁親王
ちん花のうちて姉を　つてこれぬる心れちをれ　前中納言定家
あいうんとれ　つなるうるれ　栄武録
ちもみいれそのれを　つ出れきうるーれをのん　英勇後光
みうちる大内山乃　つの紫やを万代のちれをも　後小松院御製
去日山枝ーちもる　つの紫若うのやれ数うを　中納言資綱
みをんれをうれる　つれ葉れちを若つよれきん　右中将宣胤
高秋れ行人をみる　つれ行ーをつちをみうるん　前僧正英伊

彩筋古尺
彩筋古かな
彩ゑかな
彩ゑかな長
風新中
風忘こ
風新筋古忘こ
彩於文
彩筋古かな
彩ゑ新中
風新中

宣旨をくだしつゝ後の世
わつらむ神の御心の
代こそとてもみてる山
極く忘ぬ事ありぬさる
曉や海こゆ〻〻し
そのゆく忘きけく波て
みるもうきてさこそ
こゝ人の数ありもて
月やこゝろもそらに
十かゝりけれさきの
なりとふるあり
されの井の池に行な

前摂政藤
後鳥羽院御製
後京極院
建春門院
後京極
永福門院
進子内親王
亀山法皇
後宇多
前大納言朝光
前中納言定家

彩筋古忘こ
彩筋古新中
彩ゑ新中
彩筋古文
彩於新中
彩筋古去上
彩筋古新中
彩ゑ姫下
彩筋古忘こ
彩於新姫
風新中
彩ゑ新上

いたりと思ふ人の
ふかうりうきもの
なて極へるむこ
いたしとやかれ
いもてこそ山
本忘よ
御堂関白
みるもに
うこうれやあん
あつもやはなや
山はものあるに
山ちこゝり升

前摂政兼経
法皇宣旨
三条通兼
堀河天皇
亀山院御製
前大納言宣房
前摂政定助
式乾門院
後京極
後鳥羽院一条
坂上是則

彩於新宇
新子朝中風旅
彩須古恵七
彩須古影
彩枝於新上
彩枝於文
彩須古影
彩枝於新姫
彩須古影
彩須古姫上
新子恵文

いかなる人とこたへまし
何とかの浦やみちくるらん
ながすこの月の夜
夜ちかみ月の夜
月のあるうらの夜
夜ちかみ月のうらの
夜ちかみ月のうらの
しるしとあやめのまし
物思ふ月のまし
うらの月のうらの
月のうらの
月のうらの

新古
天
風
天
新後古
天
新拾
賀
新後古
去上
新拾
恋三
新古
姫下
風
新上
新拾
新上
風
去下
風
新下
新拾
新上

きてみるたびらの
そはまてにうさ恋
いは月をまつ海の
世をなんうきあふ
うとむらみとりも海
いはりなる世をもとを
さそはゆくさいこの三
さひしさ首をかく
為にはする身をも
みるへしなや
海をもいそふ
ねをも物をふる

まことをまつ
海とあるこ回てうるこ
海とあるいこうたをとをいみて
海とあいあるりきまもうこ
海とあるみなこ海の浪
海とあるみなこ海の浪
海てとみ
海をもあるそ
海をもあるこ
海をもあるこ
海をもあるこ

彩筱古
恵公

風
姫中

彩子
恵三

風
恵定

彩筱古
恵三

彩於
新中

彩子
恵上

彩筱古
恵定

彩於
恵上

風
恵二

風
新下

彩子
挑灯

あまたもさとうあくれ
さいかけて人にとつまる
やうなは野辺にあらみ
あ鶯こにあくるせい
ぬるさ春はりといく
ちさて雨はみち咲と
去やうり雪ゆをい
いたりかはうん
去ちみうのひられる
かうみ波ゆくふしの
ろれ雪ふゆのやこに
やうる光もうに

雨ふなやうあ鶯ゆ
雨ふ波ゆ月ちさい
雨ふ波ゆ月をいき
雨ふ波ゆ神ち雪ふ
雨ふ波ゆ月ちあてみて
雨ふ波ゆのあけのうる鶯に
雨ふくれるふみるむ
雨ふ波ゆ月ち雪ふ
雨ふ波ゆ月ちあ
雨ふ波ゆ神ちあ
雨ふ波ゆ月ちあ
雨ふ波ゆ月ちあ
雨ふ波ゆ月ちあ
雨ふ波ゆ月ちあ
雨ふ波ゆ月ちあ

福光園八郎
周防左衛門
前田右衛門
同沈梅堂
加泉式部
前大納言定
法師行基
皇太后宮大夫
俊成
中臣石前大
夫左衛門
深養父
紀貫之
前大納言
侍従内沈堂
俊成卿
賀茂遠久

彩筱古
新上
彩於
非

彩於
非

彩於
賀

彩於
恵二

彩子
恵公

彩於
恵二

彩於
恵定

彩子
天

風
非

彩筱古
天

彩子
恵公

乱ちはさうあ春ちゆ
ああの下に代ちさ乱を
去ちて雨はたにみちと
うちとてはちさうあ
ちるちちうや波の
うちう彩人はてちさの
ちう中に代ひうれ
ちうう梅くちうちさ
ちうれのの光ちう彩ハ
あまてちてみけ去を
みるないて波や
ゆもけれのてちう

雨ふ波ゆ雪ゆあり代ふ
雨ふ波ゆ月ちとちて非ちうは
雨ふ波ゆ月ちあ
雨ふ波ゆ月ちあ
雨ふ波ゆ月ちあ
雨ふ波ゆ月ちあ
雨ふ波ゆ月ちあ

彩子 懐下
彩於 非
彩枝於 恋心
彩枝於 恋心
彩後古 非
彩子 尺
彩子 尺
彩於 懐
彩枝於 恋心
風 新下

心なりけるの人の月は　梅の新枝や庶幾のくらん　校尉云明
さう本なれ枝のやとかる　雪の中なれ枝のやとかる　春日宛宣
梅新枝なるもつく　梅の新枝なるもつく　左衛門督資康
つくしも非ぬとてん　つくしも非ぬとてん　法中守通
ちりぬ風あるべきの　ちりぬ風あるべきの　中宮師光卿
ちりぬよ乱けりる　ちりぬよ乱けりる　前大僧正良尋
ときてはる若菜いと　ときてはる若菜いと　西花門院
新代なりにたりて　新代なりにたりて　墓後
月日のうるてつて　月日のうるてつて　後鳥羽院人不知
あさとあるなるいと　あさとあるなるいと　後京極摂政太政大臣
二百五十七首

風 去上
彩子 去上
彩於 新上
風 新上
彩於 誹
彩於 非
風 尺
彩枝於 新去
彩後古 恋一
彩枝於 新下
彩子 恋二

わしの山のちる雪　雪なれるかなるよ　雪なれるかなるよ　英俊宿禰
雪なれるかなるよ　雪なれるかなるよ　雪なれるかなるよ　亀山院御製
雪なれるかなるよ　雪なれるかなるよ　雪なれるかなるよ　源民頼
雪なれるかなるよ　雪なれるかなるよ　雪なれるかなるよ　贈従位信子
雪なれるかなるよ　雪なれるかなるよ　雪なれるかなるよ　後嵯峨院
雪なれるかなるよ　雪なれるかなるよ　雪なれるかなるよ　後醍醐院御製
雪なれるかなるよ　雪なれるかなるよ　雪なれるかなるよ　英俊宿禰
雪なれるかなるよ　雪なれるかなるよ　雪なれるかなるよ　後鳥羽院宮内卿
雪なれるかなるよ　雪なれるかなるよ　雪なれるかなるよ　源実朝
雪なれるかなるよ　雪なれるかなるよ　雪なれるかなるよ　後京極摂政太政大臣
雪なれるかなるよ　雪なれるかなるよ　雪なれるかなるよ　後人不知

行方 点一 彩筆古 部上 行方 朴 彩筆古 修上 彩於 反 行方 賀茂 彩方 去上 風 点三 風 部下 彩於 点三 彩筆古 部下 彩於 点三

風 点二 彩方 朴 彩於 尺 彩於 去上 彩於 賀 彩筆古 長 彩於 賀 彩筆古 冬 風 点二 彩筆古 修上 彩筆古 去下 風 去上

[illegible]

[illegible]

廿六首

新和詠類句集

や

[illegible]

形式
そ
形後拾
そ
形式
新上
形後拾
秋下
凡
春中
形後拾
五一
形後拾
五一
月
新上
形後拾
新春
形後拾
そ
形後拾
賀
凡
新上

やとりとりてやすらん　仁上皇外
やとりとりまてりとりて　俊頼
やとりとりとりて月の新る　三吉の連
やとりとりとりて月の新る　皮尾生秀
やとりとりとりて月の新る　お春の乃賀
やとりとりとりて月の新る　お春の乃賀
やとりとりとりて月の新る　俊子
やとりとりとりて月の新る　お中納言
やとりとりとりて月の新る　実隆
やとりとりとりて月の新る　俊賀雅
やとりとりとりて月の新る　卿下
やとりとりとりて月の新る　優子内親王
やとりとりとりて月の新る　後小松
やとりとりとりて月の新る　按察の使
やとりとりとりて月の新る　公敏
やとりとりとりて月の新る　お中納言
やとりとりとりて月の新る　定家
やとりとりとりて月の新る　定家卿
やとりとりとりて月の新る　お春の乃賀
やとりとりとりて月の新る　後光

さゆる春の雪にかすかなる神の上に
やとりとりて月の新る　檀那院
やとりとりて月の新る　出羽弁
やとりとりて月の新る　俊子
やとりとりて月の新る　俊子
やとりとりて月の新る　俊子
やとりとりて月の新る　俊子
やとりとりて月の新る　俊子
やとりとりて月の新る　俊子
やとりとりて月の新る　俊子
やとりとりて月の新る　俊子
やとりとりて月の新る　俊子
やとりとりて月の新る　俊子
やとりとりて月の新る　俊子
やとりとりて月の新る　俊子
やとりとりて月の新る　俊子
やとりとりて月の新る　俊子
やとりとりて月の新る　俊子
やとりとりて月の新る　俊子
やとりとりて月の新る　俊子
やとりとりて月の新る　俊子
やとりとりて月の新る　俊子
やとりとりて月の新る　俊子
やとりとりて月の新る　俊子
やとりとりて月の新る　俊子
やとりとりて月の新る　俊子
やとりとりて月の新る　俊子
やとりとりて月の新る　俊子
やとりとりて月の新る　俊子
やとりとりて月の新る　俊子
やとりとりて月の新る　俊子
やとりとりて月の新る　俊子
やとりとりて月の新る　俊子
やとりとりて月の新る　俊子
やとりとりて月の新る　俊子
やとりとりて月の新る　俊子

風 撥

形指 玄四 形傳吉 賀

月 賀

風 賀

形傳於 姉上

月 夏

形指 玄一

形傳吉 兼上

形傳於 兼上

月 春上

月 春上

形傳吉 玄四

形傳吉 兼上

月 兼上

形傳吉 玄四

形子 玄二

形於 兼上

月 春

形子 玄五

風 夏

形傳於 兼上

形子 兼

月 玄四

月 天

風 撥

月 兼上

形傳吉 玄四

形子 玄二

形於 兼上

月 春

形子 玄五

風 夏

形傳於 兼上

形子 兼

月 玄四

月 天

形仁於
新下
月
夏

形俊古
立下
月
立一

形仁於
紙上

形子
毒下
月
立三

形俊古
新中
形指
秋上

形俊古
新中
形仁於
指

形俊古
立一

形子
立下

形仁於
立下

形子
冬

形指
新下哲

形俊古
毒下

形仁於
毒下

形子
冬

形仁於
指

形於
秋上

形於
新上

形俊古
立

形指
夏

あてまたらくせいうさん　あて為の悲良
あてすかの　あて為の　為定
あていねのにるとうの　仁俊寺院　弁内行
あてつりうしゅしゅ波　指宗度　乙俊
あてつやきんとうらん　白宗左　俊成
あてたらしれるとぬれ　為道朝臣
あてのけりよの契を　指中納言　為の
あてさんりきの陸る　西義出朝臣
あて為にしぬの加れ　指大納言　義経
あてうりしるかえ武の川の　正三位季経
あてりすれつる振れ　為の　為定
あてひらたんとしうて　雅世新古

あてまるく花すあるる　後鳥羽院
あて陸しし中川のの　平貞秀
八代よりて花ん行き　仁脇金院　関白太政大臣
やうくうたん為をいうさん　後鳥羽院
やしれ花乃春の春く　為大納言　為氏
やしのえれまれとれち　常盤井殿　太政大臣
やまのをうきてかの白雪　等持院　尊氏大臣
やうの為にまうしとうん　指大納言　信綱
やたのあまりうとうん　正三位隆教
やうんをこゆりのうち波　一条内大臣　定家
やうちりまれの夜のりき　苔原秀房
やうち川に水まちるる　仁脇金院関白　太政大臣

形子 冬
のとうやもとしとうんよ夏
形拉秋 交
名のうて心ちありの新しんす
月 夏
神ちかふ多ふかつしろうろう
形俊吉 熟
天ちうとる心異りとうかとて
風 春上
羽白心のしけき春風さてこうわ
形子 秋下
いくしの雲いをんん蓮の花
形拉秋 雜長
すう川あの飛れもあちをして
形秋 冬
冬花とわいくをせわすう川
形俊吉 雜上
鈴鹿川こうわや関を知わ春
風 夏
ひとうくく形浦の夕日新さて
月 春中
この山冬花のとうくうる月り
形秋 春上
波水り浪を立ま秋くあくも

やそうら川ひて浪うん春を　おん大僧　冬月
やそうら川ろうみんの比　紀ノつ上師
やうう北人乃かうしう寺　おん老僧　春立
やそうら人の見なまて　春水師　秋た
やそうら人とわうるほもん　おん師を　乃乱
やて海ろうろうなわ　旅人の家
やて世にあるうこみんの比　柏寺村
やて世の海の夕の月　源氏物語
やて世れ水も行やなまて　旅人の家
やたるあ代さ夜れまん　院御所
やたんうえうこをてうまたう　徳安門院　一条
やたの糸ふうと人すう　素性法師

風 冬
形拉秋 春上
あとう川ちたうう新しとうの
ちとありの夕のそいのとうあく
立ちまはうこをかれ昔て
物とうて作るとてのほうす
ほのうつうれ春のうの乃のうわ
ふとうの春ちうも野かとうう
風 秋下
深やあ梢乃り新しううこあく
月 夏
春とうう梅のうんを彩やて
月 秋上
形秋 秋上
月 春上
形俊吉 秋下

風 冬
形秋 春上
やたの乃うう春ま
やたの乃すう春ちう
やしけうるたとうう
やのうかこ心春うとう
やううかとをこうのの
やこうの乃ちぬん
やかとわうの心乃乃春
やうきこあう月うすしこ
やふうあう梅の立うれ
やすこまちう春の花よ
やあかすこれ冬うう
やあうた梅しこうれ梅

春人の乃定　永福門院
しけうるたとうう　旅人の家
常盤井入道　おん大師之
入道二条殿　住吉
住吉　秋下
永福門院　内侍
恒乃殿
故乃殿
山陵入道　前右大臣
左京陳秋　内侍
化粧之

形後古亦
うをたにうつるときいあらしの
形於文
あるみにさくなたつかさかなを
形後古文
おさあてくよにしるしきれて
風文
いにしへもまこをうつうねとなるらん
形子文
たつたにくやさつきのなかなて
形後古夏
鶯なくなてゝ春もかたをうわ
形於文
まくいくいくもしらしきりの
風文
ふりかゝるゆきかけにうつるわ
月夏
ワかのうらにあらそうかりうん
形子京二
見ようをなしもるなれさりの
月賀
うつくやさしき国のはとて
風雅上
人くこれ物のふるもしらるる

まにもうつるかゝ身ゝ
行春乃神
まかくまたとうとさて
神祇伯
まかくまたつまるうん
住清滝院
天仁言典行
まかくまた月にるるかん
左兵衛督
まかくまた物まうるん
宗義
まかくまたなみさうるん
中納言定
まかくまたうみのうつ
保安後初
まかくまたうみのうつ
花院宮製
まかくまたうにふるかん
右大臣
まかくまたにて
資季
人丸
住理覚
まかくまたにて
花園院
まかくまたにて
御製
まかくまたのうつ
右大臣
まかくまたのうつ
資季

月賀
形於賀
形後於賀
形於賀
形後古
霧懸
形子雅上
形於雅秋
形後古冬
形子冬
形後古
霧懸
風雅上
形子春上

かさうとうたのうみをうつ方にあるの
しをてうみのたまわのしの我国の
形後於賀
形於賀
あるの物る用をとうて重後乃
里とにさうの八月もの月のうわ
文章の三節をしてうの九人
後乃月をなたう里のんなたて月を
ちかわうう　はるの物をみこうく
形子冬
あるくうくぬ冬とうてきわ
形後古
霧懸
ちうとうたてうう里ちうく如をわ
風雅上
まあにさ春乃入江方うたく
形子春上
梅うう行てて神ううまく

まとうの冷さうゆうわ
住醍醐院
御製
まちうのよはうつうわ
住後宮
まちうのにとあうの北
まちうのうつうのうつ
まちうの月のうつうて元
住後宮
御製
まちうの若しまけうの
住三条
まちうの八日
まちうの八日の行末
後冬
まちうのうつうのうつ
後冬
まちうの雪まうるしう
後冬
まちうの雪
住後鳥羽
まちうの入うしうう
まちうの如人うをのきう
住後鳥羽
まちうのうつうをまうう
中務卿

形秋上 雁上 月 雁 月 形秋下 雁上 月 雁 月 形秋中 雁上 月 雁 月

形秋 春上
形子 秋下
形後古 羇旅
形秋 春下
形秋 雜上
形子 夏
形秋 雜中
風 春上
形子 冬上
形後古 雜下
風 雜下
形子 雜中

かもしたにくかろやれいつくれ
なきしたに春ならくしかなしも
らくえたてたてわくかるん里をき
ゆくるれさたのるけいみしの乃
つくなれけ来しして春ふ
まれけるうるとうてゆ郭ム
ひこうて位乃さくゆけて
明ちくやとて行ふ歌ふれて
ふたすてまうを在とゆふれ
みちわとけうた乃世りてくて
子を見ふつる雪ふゆふるん
みけさうるとものしきれて城

まのとうて月ゆるる 御製
まのとうきに春ならく 藤原右衛
まのきちは若のさもろ 猪名院入道
まのうしまわ浦うこ久 摂後中納
まのしある庵のうて雪 能宣上人
まのしあるあゆふる 元盛法師
まのしあるあ月 俊成中
まのかとうもうきうろ 永福門院
まのあ人知うたの花 住吉地院 御製
まのあうは住人りる 藤原俊成
まのあううに家にて 皇太后宮大夫 俊成
まのしうこうちるん 前大僧正慈円

形秋 冬上
形子 秋下
形後古 雜上
風 冬上
形秋 春下
形子 冬上
形後古 雜中
風 春中
形後古 雜下
形子 秋下
形後古 秋上
形秋 冬
風 秋上
形秋 春下
形子 秋中
風 秋下

うくくれうにうるわ月雲乃
いそくもるる月乃えにあ川の
乃くまにうら冬ふく月雲の
ものうくくいやるわ
花ものこ春いされくみうしく
すうのるのるたり新とうり川の
やとうさ霞もうたあ川の
久月秋とうれ雪ふ冬のうて
あうもうる松をう乃をるうるう
冬乃ものさゆるにうくみうしく
たうう川光度ゆくうるう乃
むさ面いうれ乃くゆるうる

まのあうくあ冬ものし
まのあうんもうくうれる
まのゆ風うもうくふ
まのさうくいやるわ
まのさうくにうふうを
まのさうくにあうくうれる
まのさうれ冬ゆるる
まのううるゆ乃ふ
まのうくゆ冬
まのうくうるゆ
まのうう雪ヒうあ
まのうう雪やゆ
まれいう乃くうたを寺

入道二条殿 御製
如性三条院 入道四人長
住吉社 冬定
土御門院見
住吉社 二首
善光寺 入道
お同百人一首
今上 御製
後鳥羽院 御製
入道二条殿 冬定
二条院内 御製
住吉社 冬定
永福門院

形秋玉上
形秋紅上
風秋上
形秋秋下
形秋雅上
月玉四
風冬
形秋玉二
形秋玉下
月紅下
形後雅中
風玉下

形後古冬
風橋
形後古雅上
風夏
月雅上
形後秋玉上
月冬上
形秋玉一
風賀
形秋玉三
形後古雅下
形秋天敬

ま澤水ちかくなりて　後入道前太政大臣
ますらをもあさとわけ　浦仁親王
ますらをとみあるうたん　基俊
ますらをにあるうたん　後徒方理
ますらをにやはしまちん　後京極摂政
ますらをの水乃あるたにい　後京極摂政
ますらをはるたにい　宗福門院
ますらをは雪乃久者　後鳥羽院
ますらをもかうの雪の如ん　後鳥羽院
ますをてらをたと如れ　中務卿宮
ますこゆく紅風うの夜　式部卿宮
ますらをはきいかのもしさ　式部卿宮
ますらをの直に　直義
ますらをの久れ　後二條為子

ますらをくらかあまの永　良人法師
ますらをは行乃うを　後京極摂政
ますらをの花乃うへ　式部卿宮
ますらをはうへ大ぬき　中務卿宮
ますらをみてけるかな　後京極摂政
ますをかとみてまの西の陰　常縁
ますもかとみてうれうて　式部卿宮
ますは人は玉てうれ　人丸
ますもまの見うなを　大江家秀
ますをは乃ぬきの恨に　源詮信
ますをの乃の風とうの　常盤井入道太政大臣
ますをの乃の月新　東福寺入道

形後白
京四

なよいたあしこめ中武はの世乃
やまとにてやとうん　信下安達
惟宗忠負

形松
京三

夢とうたかもしもいつのちなりの
やまのうへのさくらるるね

形よ
かず

ちはやふるかみよりわ
やまとのくにのあきつしま
信信濃国
伊勢

形後白
誠

天満人行とはなる京とはしく
やまとにしるやゆんのしの意に
信浦勾長

月
京三

やまとふかしばうえ人もの
あ形ぬ
たえ長

月
京四

やまとふかのうえ人乃
福光国入名
お国名乃名長

月
秋上

やしたのりうもしのとぬなり
天三寺大武
三条

月
雅下

やらくいはるたこの世をれた
安武門院
四条

形子
雅下

やらくいはるたぬこの世ぬれた
信
中宮祐氏

形松
京四

やらくやしの人乃ちすとうら
武武門院
御匠

月
秋上

やらくもとけるかみの者の
乃守女

形松
雅下誠

やすらをたのうら
信二位行家

月
京四

ちはやふるかみもあきとの
やとにいるねすとうら
漢人京

二百十六首

ま

形桜 立一
かうしの春乃ゆかしさすまもなく
形後古 飛下
えるもしなをうつせ世ようそ
形子 春
まりのよがくしくるさのなりぬ
形松 丟上
むかうたゆ花乃春色しそて
風 丟中
ゆつまても花乃つゆ人ゑ乃ゆ
形子 尺
やまかに花うるゑと世ゑを形
形松 丟上
ゑさなとかうんせ夜ちしち
形松 立五
すまの乃ゆ乃ゑを花ゑ乃ゆて
月 立八
ゆくゑに乃ゑ人ゑ乃ゆ花乃
形後古 立三
河ゑの国乃ゆ乃ゑ乃ゆゑ
形松 立四
すまの乃ゆ乃ゑ乃ゆ乃ゑ乃ゆや

まゝうひかの浦なつねん　八条院 二条
まゝうひかのとうめうれ　おん内 ゑ 五郎
まゝうひかのひゑうゑ　はん内侍 家
まゝにかうゑ丟乃ゆ　はん四条 おん内大臣
まゝにゆるゑ入ゑ乃月　永福門院 内侍
まゝくいうゑ乃ゆ乃ゑめ　おん内 ゑ 宣旨
まゝにゆ神のうゑ　御制歌
まゝにゆるもうゑみけ　はん四条 おん内大臣
まゝにゆゑもうゑや恋し　只俊卿 御
まゝにゆゑわゑ公ゑ乃　おん内 飛右
まゝにゆゑうもかゑ　入ゑ二条 殿 ゑ
まゝにゆ乃ゑ乃ゆ乃ゑ乃ゆ　はん四条 ゑ

形後古 飛下
月 飛中
形子 飛上
風 丟上
月 飛中
月 尺
月 立一
月 文
形後古 立三
月 春上
月 立三
風 立四

異平乃春乃ちゑ風乃ゑ
ゑゑくを異くゑ春ゑ春ゑ
ゑ乃ゑ乃ゆゑゑ乃ゆゑ
汗乃春ゑ平花ちゑ乃ゑ
ま乃ゑ乃ゑゑ乃ゑ乃ゑ
ゑゑゑ乃ゑゑ乃ゑ乃ゑ
異乃ゑ乃ゑ乃ゑ乃ゑ
ゑ乃ゑ乃ゑゑ乃ゑ乃ゑ
ゑゑゑ乃ゑゑ乃ゑ乃ゑ
ゑゑゑ乃ゑゑ乃ゑ乃ゑ
ゑゑゑ乃ゑゑ乃ゑ乃ゑ
ゑゑゑ乃ゑゑ乃ゑ乃ゑ
ゑゑゑ乃ゑゑ乃ゑ乃ゑ

まゝうゑまゝゑ　惟四 ゑ ゑ
まゝうゑ春ゑ春ゑ　平貞行
まゝゆゑゑゑ乃ゑ乃ゑ　惟宗光吉 知長
まゝゆゑゑゑゑゑゑゑ　おん内 ゑ ゑ 氏
まゝゆゑ乃ゑゑ乃ゑ乃ゑ　おん内 ゑ 飛
まゝゆゑゑゑゑゑゑゑ　後院 御製
まゝゆゑゑゑゑゑゑゑ　賀茂保憲 知長 女
まゝゆゑゑゑゑゑゑゑ　春宮陸奥 知長
まゝゆゑゑゑゑゑゑゑ　天内 ゑ 道
まゝゆゑゑゑゑゑゑゑ　寺野院 俊左大臣
まゝゆゑゑゑゑゑゑゑ　惟中四 ゑ 飛世
まゝゆゑゑゑゑゑゑゑ　延政門院 形天四 ゑ

形拾秋 文
ふるさとにくるねぶりんさく人の
月 夏
きりやすく一部乃ひ〻まれた
風 雅中
うまれやかてたこゝろの
形子 春
見〻ぬ夏しらうをてもとて
風 秋中
やうらの竹乃あるに月みて
月 秋下
霜うれんこゝろ人永富乃
月 秋下
風よ乃つ孝業乃春もうしく
形秋 秋上
あ〻ゑわ歌寄とてもとふ乃人の風
風 雅中
味乃ゑの歌は乃ひよのはちうこ
月 雅中
をうふをこれ人てはるわて
形秋 秋上
見しもく人うこゝ心はこの
形子 雅上
くゝしるつうもゝもゑすわね

まちあへぬうのかゝ之乃
まちにはちるつはうを
まちゝ之今た一ものれ
まゝ同やこゝろうを
またいうき紅葉のとと
まちうゝ之うゝ面の花
まちうきた入る月
またとゝのこ音のくれい
またをこゝろうまのつ永
まちた乃竹よ面こゝるわ
まちの春よ紅乃ゝ分て咲
まちたうゝ乃ゝ之とうまた

住義院作製
野天人を
おの人長
後徳乃子
脱乃忠長
形子同秋を
おの中乃て作時
俳子同秋を
東大伊大乃母
大公者ち人を
おの秋はた人長
太上天皇
芭蕉乃孝標
乃長女
山路人を
おの人た

形漢古 秋下
風 春下
月 雅下
形秋 雅上
形子 雅中
形秋 秋上
月 雅下
形子 雅上
月 春
形子 玄一
月 春
月 玄一
形秋 玄一
形子 玄一

うゝふとみるもゝうて与蔵の
みゝ秋すまゝゝうゝ乃新ゝゝ
ゝゝ乃ゝゝゝゝ雪にあゝ必て
ゝわゝわ方は黄ゝいゝの人やも
ひゝゝゝ乃ゝ之ゝ乃ゝ
ゝゝゝゝゝゝゝ悪ゝゝゝ
ゝゝ人乃ゝゝ乃ゝ月乃ゝゝゝて
ゝゝゝゝ玄ゝゝ乃ゝゝ人ゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

形よ
八
いたまてうれしさ春よ祝うまて
形像古
八ぬ
いうまてはるの春はるをとくた
月
八ぬ
さきわかくつめちわとくしそ
形松
八ノ
みをとしくとしのしはしかく
凡
五二
あくしかるくるくるく

形虫 ひとしく
月 立四 ちとに
形夏 かしこ
形文 より
月 飛上 ねの
形虫夏 なく
月 紅下 立面
形 飛中 今は
風 飛上 うの
月 立二 あけて
形 飛中 春の
風 飛中 ものの

まくこそえらいつれ 水乳雅女 月名
まねの名のいわあしの 経二位乃理
まこの海かの宮にかくん 修中国で 実行
まくの月のうまいとあん 寺の天皇で 寒衣
まくの音にの留あるの 修修師 則秋
まくをとるとの寝うの 宝蓮院 修乃大長
まくをあるへの帰とうの 二京に 報と 子 御
まくをのうすのうの 寺の天修 道服
まくをけるのすのうの 元 修 報と
まくのるたの然のくん 入乃二京 報と 修寺
まくの位るいく夜の長行 春大長
まくの年みの月のうの 永福門院 門

形夏 立四
形虫 飛上
風 立一
形紅 飛上
月 振
形虫 飛中
形夏 飛中
月 秋下
月 飛上
形紅 立二
形虫夏 立三
形虫 文

風春の花のうの春とあれの
をのにくるくをるの月乗も
夏の名の人にのうの春のこ
にくもいのれのいもんの意の
何春も接の春をるのみのるん
くくしのうの春乃かの花しも
月夏のうくこの京にて九名
四をもるの心乃をいをりみて
まくもくて入る心海乃一春の
春一と四とくもていのを名と
むにるの春一夜まもみをの
心名の月名なくるのなくき寺

まくこつ年にさかの京
まくこの春の京の月乗の
まくこの春の月乗の
まくこのやんまもこの孫
まくこのの代の作の
まくの春くもこのけの
まくこのの歌のん
まくこの乗の京乃人
まくこ立乃行の者の
まくの春のかくきの
まくこのじの人の
まくの後の春の
まくの後の春の
まくの行のもこのの

左京大夫 新博
左近中将 春光母
永福門院 春門院
清人中納
源兵部
宗成中将
中宗師宗 初名
英四乃 乃氏
は紅 紅葉
お修 宋衡
和中四乃 乃和
修修宗 紅 四位

風 立二
彩侯古 飛中
月 秋下
風 飛中
彩於 立三
彩子 立三
風 立二
彩子 立二
彩於 夜
彩子 秋下
月 衰
彩於 振

彩於 立三
風 立上
彩侯古 立上
彩於 衰
風 立二
彩於 文安
彩侯古 立中
彩於 立上
風 秋下
月 立二
彩侯古 飛下
彩於 飛秋

風 雅上 新拾 春 彩後古 立四

月 雅上

彩秋 雅中

風 秋中

彩秋 立三

彩後古 霧橋

月 冬

彩秋 雅下

月 冬

彩子 霧橋

彩後古 立三

風 尺

彩秋 雅上

月 春下

彩後古 立二

月 雅中

月 立二

彩子 賀

風 立二

月 雅下

月 立立

彩後秋 雅秋

ゆきまろぶ 後乃ふ

ゆけ中 西建

ゆ後か信 那 保信

ゆ天四言 公雅

ゆ天四て 為世

後八条 ゆ内大臣

ゆ天四て 為家

後信乃子

後天四て 光家

進子内親王

乃ち後嵯 立花

後院の宮

保子秀

ゆ後か信 那 保信

ゆ天四て 為世

ゆ天四て 為世

如雅子師

ゆ後か信 那 保信

ゆ天四言 公雅

ゆ天四て 為世

後八条 ゆ内大臣

ゆ天四て 為家

後信乃子

後天四て 光家

進子内親王

乃ち後嵯 立花

後院の宮

保子秀

彩候百
立三
彩女
夏
彩松
長上
風
長下
彩長松
雅長
月
雅下
彩女
雅上
彩長松
雅下
月
尺
彩松
雅中
彩候百
冬
彩松
長下

かこのあんと思ひ寄をしたへ
郭公久敷乃見ぬ山さとの
心揚さしやぬらしたいた
恨るやこのあり渡るを
つまなしたちりはてゝ
よ中をねてあんの秋
花のこなしかふたらしは
新してあ月人を世乃中よ
うつしれ子れ一さ元て久月よ
ゝまふんとくぬつれを
うとり夜乃夜乗り高清て
花もちりをも乃うれあこた

まとてうゝくん乃が海
まこうゝうゝとしは月
まこてう乃ゝ乗の月
まこてうゝ花乃四
まこてやゝまゝ乃の
まこて海のあゝ
まこれうゝ乗ぬ
まこうゝをわとみうゝ
まこをのうゝ乗ゝ
まこあゝくぬのゝ
まこうゝ秋乃ゝ
まこあゝ乗の

原文時
雅下
入道あ之
入下
皇之石之
雅実定
実定風
雅下
お石の乃世
原吹
茨茶東隠
俊成原俊
雅上原俊
雅中俊
原俊貞新
雅中俊
実定
雅実定
中西乃女
中西乃女
雅門院
無乃隠新
雅人小式
雅人小式
四位雅師

風
雅下
彩松
立四
月
歌別
風
雅
彩松
立三
月
別
彩女
立四
彩候百
立四
風
立二
月
歌
彩女
立三
彩松
雅上

ゝとうれまれ乃ゝ乗て
ぬ乃世りいまゝ乃ゝわと乗て
あ乃ゝ乗れはあ乗世乃別
ゝゝとゝしあゝ乗れて
ぬゝゝと人ゝゝれを思て
ゝあわてゝゝゝゝをゝつゝ
ゝ世乃ゝ乗ゝわゝゝゝた
ゝゝゝゝ乃川乃人にゝ松
ゝれゝまれゝ乗ゝゝぬゝれて
ふゝゝゝ乗ゝゝとほゝゝね
たゝゝゝおねゝをゝわをゝゝす
小倉山ゝをゝゝ乃ゝゝ乗ゝゝた

まこあゝまゝ乃ゝ乗ゝ
まこあゝよゝ思ゝゝ
まこあゝゝれはゝ乗ゝ
まこあゝゝれゝゝゝ
まこあゝゝ乗ゝ
まこあゝゝゝゝ乗ゝ
まこあゝいんと思ゝゝ
まこあゝいゝゝゝ乗ゝ
まこあゝゝ乗ゝゝ
まこ里ゝゝ乗ゝ
まこゝゝわゝ人ゝゝん
まこゝゝゝ乗ゝ

中西乃女
仕雅乃家
雅大俊心
寛行
俊三俊新
雅中西乃
実成
俊人小式
俊俊三俊乃
中西乃女
雅門院
無乃隠新
俊人小式
四位雅師

風 雜上
彩色抄 春上
彩傳古 詠句
彩抄 霧振
彩傳古 春
彩抄 雜上
彩傳古 立心
彩子 立三
彩抄 春上
彩子 立三
風 夏
月 春中

彩子 立一
彩傳古 立三
風 立三
彩子 春
彩傳古 立二
月 雜上
月 冬
風 秋上
彩抄 春上
彩傳古 立三
彩抄 立三
彩傳古 立心

風 立一
彩子 立四
風 秋下
彩鈴 雅秋
彩松 冬
彩後古 立三
彩松 雅秋
彩子 雅上
風 雅下
彩子 立四
彩後古 立三
彩松 立四

月 立三
彩後古 雅中
風 立二
彩子 雅中
彩松 尺女
彩鈴 雅上
月 雅上
彩子 立四
月 雅中
彩鈴 夏
彩後古 雅下
彩松 夏

形後古 長下
をちこちもはるけしとはしめやわ
風 雅上
雪ふるさとの梅をとうとしとて
月 雅下
かけくらべんとしかはまつみるのゝ
形秋 雅中
まれうゝ入湖まきてんワをせ
月 秋上
文にとををゝわうををんをうて
風 秋下
ゆ新をいかゝうゝ入を言ゆて
形後古 雅上
さこのかのかゝるこのタをに
風 賀
叶しあれをれゝかにはしるる
形秋 文安
をうをを一味乃西方かれをを
形ゆ 雅上
さけ坊あゝ同花ををし
形後古 立三
夜信乃ゝをゝをゝこの茶を
形秋 長下
夜ゝをゝあゝにをゝをゝをゝ

まゝうゝれ花とゝまゝ
まをにゝる雪の梅
まゝ波乃ゝをゝをゝん
まゝゝをゝきゝをの
まゝゝはゝゝ紅ゝ月
まゝゝうゝすゝ雪乃ゝゝ
まゝゝゝゝゝゝゝゝ
まゝゝゝゝゝゝゝゝ
まゝゝゝゝゝゝゝゝ
まゝゝゝゝゝゝゝゝ
まゝゝゝゝゝゝゝゝ
まゝゝゝゝゝゝゝゝ
まゝゝゝゝゝゝゝゝ

飯尾為忠 開白左大臣
天中長 有宣
源宗満
文徳 巻之
経三位 俊有
延中納言 忠孝
清原国豊
能宣卿
菅原孝標 御母
仲実朝臣
祝部成仲
是之

形後古 長下
ゝをもゝ神やゝをゝんすゝ
形秋 紅上
ゝ紅をゝをゝをゝゝゝゝ
形ゆ 秋上
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
形秋 立三
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
形ゆ 雅中
信心乃ゝゝゝゝゝゝゝゝ
風 雅中
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
形後古 雅
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
月 夏
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
月 立三
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
形秋 立三
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
形後古 非
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
形秋 立三
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

まゝゝ仏ゝをゝゝ夜
まゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
まゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
まゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
まゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
まゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
まゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
まゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
まゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
まゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
まゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
まゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

文徳 仏寺
飯尾白左大臣 近本
文徳 志賀
宝幽院 左大臣
六條内大臣
藤原之直 御母
光孝院 御製
紀定院 内大臣
紀貫之 御師
桜井 別所
俊頼 朝臣
文徳 左大臣
藤原 長氏

風 雅上
彩絵 長上
彩絵 夏
彩絵 文
月 文
彩絵 賀
月 雅
風 雅上
彩絵 雅
彩絵古 雅上
月 長上
風 玄二

ゆたかしるあれはまこと世の
まつりたるあれはまこと世の
長はてしなわすれがたきなるにた
郭公のしたにこそなれて
つるはさやうにたんしたに
さ月やうとをかしてのはかり
くちようみわとそこてあしをの
あまのの月のちりの中の羊
ひをしるとをくとみをのあまと
すこのこれは沖をそらるへや
さたやね花の稍をたたこの
をやまの風かしのみをせねの
ごこすをしるこせてこすの

俊定院寄
校入四で乃遠
本中四で定家
俊定乃歌
校中四で乃重
真家雅家
歌書
本中四で乃相
俊傷門院
九条家
校中四で法書
真四で
中四で乃春
真家定歌

彩絵 雅長
彩絵 秋下
風 賀
彩絵 雅
彩絵古 雅上
風 玄二
彩絵 秋上
彩絵古 賀
風 長上
彩絵古 雅上
風 玄二

ようにいをつとれれ郭公
立思ふこれはもしもはてね
すしこれまるかのはるの
かのくさうすさ尾花乃たるの
月 秋下
月 秋下
ゆん心ありのの小田乃ひとて
ふくを一かてやあのあ
吹こそふしにすこてこれの
独てこてこそ乃ん吹ぬ乃
ふるの月のうのこそ
しひとうこてきこそ
つるはかりこれ人ふるる

彩絵 雅長
彩絵 賀
彩絵古 雅上
風 玄二

はつ陸奥
後鳥羽院御製
正二位家隆
後小松院御製
少入四で隆直
養海院
俊定入長
永傷門院
平貞時
通陽門院
本中四で乃相
正二位基俊
俊入四で
公家母

彩子 京三
凡 京二
彩後古 京三
彩子 京三
彩後古 京三
彩子 秋上
彩於 交
彩子 春上
月 夏
彩於 秋下
月 秋上
凡 冬

はるかに見かすみたる所
はるばるとなれるいそべ人をたに
ゆくへに物やあはれまつ人の
さかえ文物はなはだ盛なる
ものすさびしきをくやまま
まつらの山へまつらのもん
まつらの中の月
まつらん里に住まつ
まつらん人を物をとへよ
まつらん人の世の別
まつの葉の色の月
まつの葉にあつき春の夕
まつの葉にあつき春の初雪
まつの葉にあつさに物の初雪

雄高僧
往天竺 公京
菅原道真
乃至物
往一位宣子
後白河院 御製
中大臣 公京母
清涼殿
恒寺
往天竺 乃至
往宗祖 御改 大長
乃至僧

彩子 秋下
月 冬
凡 春上
月 秋上
彩後古 京二
彩於 秋上
彩於 京三
彩於 交
月 賀
彩於 春上
月 冬
凡 秋上
彩後古 春上

いくあらいみてあ変れ変あるん
物見乃光くこれ行人て光乃
うゆるをとりあ沈もすこうれ
あきあるん頼とは次住者の
せうの部屋乃うこう男女
かるまうあたのときて住乃に
立代まて考まて人て家もき
水をれ物の赤心にてくれく
あるるそうれ頼と思ん
さもたかくれるるる星乃
るまきて書ねといく心りの
一しもまうてあ人ぬうあ人

帝門院 御製
お天皇 乃至
中国入宋 大長
保元貞
お天皇 乃至
菅原氏
お天皇 乃兼
禁色利元院 お南白川大長

彩子 秋下
月 冬
彩於 京三
彩後古 秋上
彩於 春
月 秋中
彩於 秋上
凡 春
彩後古 春上

まつれ六てく嵐乃わりに
まつれ花れ行まの光
まつれまちしとまつちや
まつあるこ田れちさのかくれ
まつれそれ紅乃多れ
まつれ乃ちと物ろうあ
まつれちくろいあるしきあ
まつ春葉雪まふあ
まつ乃うくやすこかほ
まつ乃うしまきほ
まつ乃多の多ろ花
まつ乃みまうう雪なる

お天皇 乃至
菅原乃道 物長
廣義
中国入宋 大長
保元貞
お天皇 乃泉
菅原氏
お天皇 乃兼
禁色利元院 お南白川大長

月 春上
形松 賀
形後古 雜中
月 冬
形子 冬
形後古 秋上
風 春上
月 夏
月 夏
形後古 賀
形松 秋下
形子 雜上

ちる花をけふはまことにものうなれ
天つ風なほ世のうきなれば
雜後こゝ入江のあしを極てて
あ葉せしあさいなるこゝろ風よ
吹風やそれあすをたのまん
鳥羽院こゝ始まりて住らへ
賀人にてこゝ月つきいはぬ
里なれこゝ心新しいなれを
春ちの春にをあはれこゝに
天つ代りてこゝ住らへ
是世は心なりこゝ月は
住こゝ南ちわりをそゝ春

まつのみちわう冬うちわ
まつのみちわれ冬はこゝ
まつのこゝ月をく海風こゝ吹
まつのこのるみていきすわ
まつのしこゝてゝ在のお葉
まつのこゝに月をこゝん
まつのすをもこゝ春きこゝ
まつ宮けもをこゝ世けん
まつのちこゝ心新しこゝ
まつ吹風こゝすをこゝ
まつ吹世をこゝ春ゆく
まつこゝうこゝ月こゝ

二条院讃岐
お参俊成 寂光
お九条兼実 基親
源家長 郁長
俊成卿女
源義経
鳥羽院
お天後白 基綱
崇徳院
お中御門 有光

形後古 賀
形松 秋上
風 春上
形後古 雜中
月 冬
形子 冬
形後古 秋上
風 春上
月 夏
月 夏
形後古 賀
形松 秋下
形子 雜上

ちるみくいをけをこゝ風をけ
たのまこゝをこゝぬいけをやとく
こゝ新をこゝみこゝくきこゝぬ
春風こゝ吹新しこゝ桜こゝを
こゝもこゝこゝ風こゝこゝを吹こゝ
こゝこゝ春こゝ月こゝ春こゝ
神心こゝこゝ下こゝこゝこゝ
こゝこゝをこゝきこゝぬ天つ
つこゝこゝこゝこゝ老ぬこゝ
こゝこゝ中こゝこゝこゝ
こゝこゝこゝこゝこゝ人こゝ
こゝこゝこゝこゝ花こゝ

形松 雜上
風 春二
形後古 雜春
形松 雜上
形後古 霧振
形子 春三
月 夏
形松 賀
形後古 雜中
月 春三
形子 雜上
形後古 秋上

まつこゝうこゝ月こゝ如花
まつこゝをこゝ月こゝ吹こゝ
まつ里人こゝこゝこゝこゝ
まつこゝかこゝこゝ花こゝ吹こゝ
まつこゝこゝこゝ武蔵こゝ原
まつこゝこゝこゝこゝこゝ
まつこゝかこゝこゝこゝ
まつこゝ花こゝ春こゝ
まつこゝ月こゝ人こゝ
まつこゝこゝこゝこゝ
まつこゝこゝこゝこゝ人こゝ
まつこゝこゝこゝ花こゝ

源義経
永福門院
源家行
二条院讃岐 宮内卿
源頼豊
武蔵こゝ原
後鳥羽院 家長
延光院前 右大臣
明魏法師
永福門院
お中御門 実任
松殿内大臣 基房

凡 秋上
あをかち浜なりいと一花薄
もとゝ孔子一人やいとる浦茅ゝ
彩侯古新制
月 立一
なよそかうまはてゝみてゝ
彩子 新上
をゝとゝやたゝ春かにゝて
彩侯古 秋上
ワろうみかさとゝ乃畠の花すき
月 秋
あゆこをたゝこゝたゝしきたを
月 冬籠
あゝ人の冬籠のとゝしうる浦の
彩子 新中
冬ものうゝやゝをゝてゝまる露乃
凡 春
ゝやうゝやゝまゝゝゝゝゝゝゝゝ
彩侯古 立一
ワゝ恋ゝまゝゝゝゝゝゝゝゝ
月 秋上
爰乃ゝ凡乃爰ゝわゝたゝたゝゝわ
凡 冬
をゝ春をゝゝてゝゝゝゝゝ乃

まゝたゝわゝゝゝゝゝゝゝゝ
まゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
まゝゝ尾ゝゝゝ乃神ゝゝゝゝ
まゝけゝゝまゝゝゝゝゝゝゝ
まゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
まゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
まゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
まゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
まゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
まゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
まゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
まゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

二月に新上 道
あ天西て 陸彦方
源氏益
芳原基夏
源信乃新長
菅物院 鶴乃大長
猿人西
芳原乃新
萩
芳原秀
俊季枝 おゝ乃大
長ゝ乃
芳原秀季 乃長

彩侯古 新秋
彩子 立二
彩侯古 立一
月 冬籠
彩子 立二
彩侯古 春上
彩子 新中
彩侯古 冬
凡 立三
彩侯古 冬
月 立立
彩子 立二

ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
たゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

光廣院 御製
源氏陰
芳原基秀
六条入乃 長
芳原基任
敦子内親王
修人西て 変後
芳原秀季
微安門院
東西て 乃長
あ天内て 乃長
源信陰博

月 立二
新拾 立一
新後古 立三
月 立三
新拾 立五
新後古 立二
新拾 立三
新千 秋下
新拾 雜上
月 秋上
新後古 秋上
凡 立二

なかれ 庶乃こかなかるなかみ川
ゆくすえ 春のいかりは世もなん
歌乃音せしうつるまゝに夕暮に
なちかせしかしと みんとわ
まれ ゆくすえ まつ藤
こそ ねしつき 歌乃こつをなく
まつ人乃ふねよの歌よくつかた
をしつゝ 鶴のねえをしれ音と
心里と乃り 多ゆ 新乃 れ
ようにさそこ たるをさくに
まわくた 老乃 ゆえとあれや
あつさ うまあとたちあき

まつ 新たくて乃 藤
まつ 新てゆれ ちるとき
まつ ちわと とふ 晴
まつ ちわ よとたもん
まつ ちわ乃つるけるを
まつ ちわの方をみきの
まつ ちわしつるけ知わ
まつ 考も 風乃ちとわ
まつ ちるに もうつる、
まつ れて乃 ふうもん
まつ れて乃 ちるん
まつ ちるに 春乃

お天四て 乃泉
源義久 二女
蓮生法師
藤原隆祐 勅撰
藤原定家
左近中将 定親
藤原俊成 勅撰
大江宗秀
光慶院 沖製
大政大臣
お天四て 伊平
法皇 答ま

新拾 立四
月 雜上
新拾 立二
新拾 立三
月 雜中
新拾 雜上
新後古 尺為
凡 雜
月 立二
新千 尺
新後古 尺為
凡 雜下

ゆ乃 ちるの人乃 ゆ
まつ せて 人乃 れ
まつ ちて 春乃 ま
まいと ちる 人乃 ま
まと ふ ふ ゆ
まと ゆ 人 ま
まと ゆ 人 ま
まと ゆ 人 ま
まと ゆ 人 ま
まと ゆ 人 ま
まと ゆ 人 ま
まと ゆ 人 ま
まと ゆ 人 ま
まと ゆ 人 ま
まと ゆ 人 ま
まと ゆ 人 ま
まと ゆ 人 ま
まと ゆ 人 ま
まと ゆ 人 ま
まと ゆ 人 ま

まと ゆ 人 ま
まと ゆ 人 ま
まと ゆ 人 ま

新古今 春

なにしおはば花の行末やちりてもとまれとまれとしのぶらん

新拾遺 雜上

ましてかの時の名ぞ川の面にをしなべてなにてんかりきまるみ隠いまもなほ

新拾遺 雜秋

新古今 恋二

新古今 恋二

新古今 恋一

新古今 秋中

新古今 雜中

新古今

新古今 夏

新古今 恋二

新古今 恋一

新古今 秋中

新古今 雜中

新古今

新古今 夏

新古今 恋二

新古今 恋一

新古今 雜上

新古今

新古今 雜上

新古今

新古今 雜上

新古今 雜上

新古今 雜上

新古今　春下　新後古今　春上　新古今　冬　月　冬

くれなゐの色の人目をかりのよ
ふりて我春の花も春にあはね
春ふかしとはつるる雪にまつ
今を盛りのこれ春の色の深く
ひとやこの三熙神の天花を

まつとはなくとも神の花
まつてゐる木の葉の今日
まつてこそ心のかぎりとなる
まちとうすむ門の
まちとりてもちまかく

拾遺後賢門院御製
貞応院の寺
二条院親王
後宇多院御製
後三条院御製

三百八十八首

け

新後古今　雜下　新後拾遺　雜上　月　雜下　新拾遺　雜中　風　秋下　新後拾遺　恋三　風　恋二　新古今　雜　月　恋四　月　雜　風

流れをも川風の底も人なれて
心ぞ音の下なるうたもけく
いとはるきまもかりて在中の
もしてもかりてやるるるる
九重にかぎりをかねてかぎりの
そのまにやてとかてたくめ
ちかくてみるかるよ一夜
いとはれかりをうえにある雪の
かりて形をりとみるまのて
月のとむまるのをくれく
世にてすえるをうてくを

惟賢上人
後人ぶ家
脇光師
原光正
冷泉為久卿
天四師賢
後二条院御製
後二条院御製
安嘉門院四条
立弁上人
院御製

けくさ世にまたけ
けんとしろ人うまれ
けようたきおるくあるる
けようとや思ひたる
けよりわえるとうこれむ
けよまたるかるせるわ
けのもさうわれるるる
けぬるとてたくかしく
けるあはのあるくく
解脱のうたまの風
けれどもあるはるう

彰侯古春下
彰於雅上
風玄三
彰侯於秋下
彰侯古尺安
彰侯於春下
風玄四
新侯於雅秋
月名
月玄一
彰子玄一
彰侯於夏

ことあらまして更新なるべしとて更に
方につき年に春にもまたかなわ
世のうきをしのぶのうきいとれも
日のうきをしのぶのうきいとれも
ものうきいとれも
ものうきいとれも
もの

新後古 雅下
見てもなほ方をこそ世のまの
心もの面くれ乃りふるをて行な
風 雅中
いたをん口方こうれて下をし乃
新千 立一
かさくす花ていてきたにみう海の
新後古 冬
五月風ていたにもせくりかや
月 雅中
乃うもれや当りふ春をとを乃
月 雅中
きをひてあまのすてを大下をて
新拾遺 立一
すりのの雪うい春もきてもあを
新拾遺 雅上
ひとう海さうれかむきたあくな
新拾遺 雅秋
ふる雪にをの〻山里ふりなし
新子 冬
雪ふりうとをてあををかまの
新拾遺 雅上
風 冬
えり乃せい心りをてをしきを雪中よ

新後古 雅中
すりをを四方れうりをとりて世い
風 雅下
をくををををしをくくや
月 冬
心りをの作をひりくりりを作
新拾遺 冬
をを乃りすれを心風を作をく
風 冬
雪新し見ふりをりをすををの
新子 雅上
入をれをりをり心風を吾をて
月 立三
ふををまて安ふをくたあをを
月 春上
九をを乃ふすみれ中にしくをふい
新拾遺 春下
見をくを花をんをうをくはる
月 夏
今ふをてをんけるはるるきい
新後古 賀
方にをりをうにを世をををて
月 雅上
立宮やあをんをすんみうきする

けりをれをにきをりかを新
けりをのこをかりをの一村
けりをれすを行方りり
けりをれすををもをれを
けりをれすをうはをしも
けりをや民乃ゆをしりをん
けりををを人ををうを
けりをやをにをすをををん
けりをやれをはをををん
けりををを乃をを人ををん
けりをををくををん
けりををををををを里れ一村

経信行能
為家乃基
雅乃為長
後常盤三位
為天四天長
為定乃
後小松院
御製
為定乃
為世乃
為家
為定乃
為世乃
義詮
為好師
隠川院
中大上信
為定乃
為世乃
忠孝
乃為家乃
為義

けりをををにをりををを
けりををををををを
けりををををををを
けりをををを

形後於夏
形子賀
形後古春上
形子夏
形於秋下
形後於雜春
形子就
形後古就
凡尺
月春下
形於賀
月雜中

かりそめにくちなしのはなをうえけるとてかりそめにくちなしのはなをうえけるとてしるしるのつゆのはなをうえけるとてしるしるのつゆのはなをうえけるとてしるしるのつゆ

彩松 亥三
新後拾 冬
彩松 冬
新千 春
彩松 夏
彩子 羇旅
月 春上
彩後古 賀
月 春
彩子 賀
月 春
彩松 春上

あかつきのねぶりうとてかくすら
さくらきのこゝろのうちをしるらん
あまの羽をうちかはしてかりあすせて
とぶとてなきて秋のあるあまの
ゝろかるたゝかいあり
あらしふきあすはいかゝもしこの
夕をくるよ雪ふるまくなよかわ
秋夏の代乃かさしとゝろこに
くゝう原ちわ一刀と思ひ
くゝう原ちわ一ワはとかや
ろろくねくこゝの心乃花の冬よ
いしかとせ心乃底ゆちうわ

けつやけつされりめ月
けつや里人乃ふるらん
けまてとてやあべとん
けまてるたねをうきん
けつ二葉ゆるゆとれ
けつうちめうしさて雪
けつゝ乃へ上ワゝとてゆ
けつうゝ乃ちきれ
けつ春ちたいゝ
けつみすの神のしれい
けつて乃へ乃春ゝ
けつ行たまゝ春ゝ乃

保元行
等物院 源九大長
定則
う能二人
兵衛
佐中納言 雅孝
後ゝ多院 実れ典侍
お茶ゝ 乃寅
佐中納言 定家

彩松 亥三
彩子 羇旅
彩後古 春
彩松 秋下
彩子 秋下
新後古 秋下
月 秋下
新後拾 秋長
月 冬
風 春中
彩後拾 秋上
彩後古 雜

春ちて中かつ れたゝくらしとの
さくら花よ春ちうの旅ゝ
きてせゝ人ゝ彩くゝ世中ゝ
彩すさゝ乃ちれ乃ちゝ
ゝてしゝ彩乃刀をしたに
あゝと入あしの旅ゝ春と
あゝたに彩かさゝてつゝ
あとゝしきゝ乃中人乃宮ゝ
ごゝてゝゝ乃ゝゝゝ
ゝてみゝ柳乃ゝとのゝゝく
夜乃かゝの乃乃下歌ゝ
かゝわゝは夜ゝすゝゝゝ

けゝゝしき彩ゝきゝゝ
けゝゝやまの歌の花すゝ
けゝゝ乃ゝたんゝゝ
けゝゝるゝ心ゝゝ
けゝゝたねゝたゝゝ
けゝゝたねゝ春ゝ乃
けゝゝゝ心乃ゝみゝ
けゝゝ雅ゝ有ゝ
けゝゝ雅ゝ有ゝ
けゝゝ行ゝ
けゝゝ雅ゝ
けゝゝ乃ゝ
けゝゝ人ゝゝ

選子内親王
入道前太政大臣
参議雅経
お内侍ゝ乃道
人麿ゝ有家
お内侍ゝ乃
家乃家
江帥光国卿
改ゝ改入長
権僧正西雅
は服行家
右京乃ゝ乃
知長
九人長
九条大史
倫範

風 立二
月 冬
彩子
冬
彩後古 立四
彩子 立三
彩後古 立四
彩杯 立三
彩後古 秋上
月 冬
彩杯 雜別
風 立二

いりとゆりの数にさりてうこゑを
ふるまたこゝろなくなれうるん
者にて物とうるふ心の分を
夕暮をまつの心はのうれた
てこひをゆつきうれ初りて
あくてたうへのふるまれいつのまよ
あしいても久おをまものはちへい
姉さねとゆつきうれたくうえり
さゆる秋をおもひまきれる
うちはいあく彩るえをうよて
物ふと見うしもきん今乃吉れ
まはよみ宗の変れ又新はちかゝ

けさはつまとめうふうらしま
けさこゝろ露乃ふる里れ庭
けさよわんきてみるまねん
けさうふわれてをゆまま
けされはつまに涉なに
けさのれをこゝしもまん
けさみのようゆめるはけ
けるるてれ心乃こゝれ
けさ心川乃ものこゝぬん
けさうへの花うのゆ神
けさしをかとうかりうれ
けさこゝもはるゆけうは

後三條院歌合
後一条入乃ふ
関白左大臣
おんの宮乃西
入江義重
ふゝ人ふ云
変原資隆卿
関白入乃ふ
ふゝ入長
入乃ふ殿一ふ
彩ふゝ乃国
変原仲長卿
後小松院
御製
変原経尹
永福門院
内侍

彩子
物乃
彩後杯
雜妹
彩後古
秋上
風
立一
月
春中

いるれをゆるされ春乃心の
紅のえいたふ乃ふるうるて
けるゆふ方をとこけ姉のふ
うれをてふ乃ふたを立をて
見うすし宮のあとゆれ花けわ

けうしもふとにうさうらん
けさもしれけ神めるれ
けしきうわれ秋乃ふれ
けしきをふまんきと見ふ
けしきこゝ秋ふをうふ

入乃ふ殿一ふ
宗性
中務卿
親王
異屋入乃ふ
春殿宗尊
中務卿
親王
後宇多院
大臣 後成

百首

百首

新和歌類句集

や

新後古 恋二
ものとうれはるよりのとりのこゑよりはしめ
や　乃　ら　に　　梅遠房

新千 雜下
おくふねのはるかにてらすあさひ
や　ま　ち　を　　建知門院

新後古 羇
なにはのうらよりなほよへうつるあま
や　ま　ち　を　　法下定房

新後古 羇
波かくるをしまのとまやのうらの松
や　乃　ち　を　　大納言[illegible]

風 春中
ゆりみの山のうらにかさなりて
や　ま　ち　を　　[illegible]

風 雜下
心とはすこそうれはれおくやまの
や　ま　ち　を　　[illegible]

新拾 羇
なにはのうらにてまつしらなみの
や　乃　ち　を　　右大臣

新後古 雜上
行末はいかにかなるとはしらねの
や　乃　ち　を　　[illegible]

新拾 加入
ちりぬるをいとはしらねとみるの
や　ま　ち　を　　法橋弘昭

新拾 夏
郭公なくやうの月はなにはのうら
や　と　ま　の　う　ら　　[illegible]

前千 新下
新後拾 新秋
新拾 秋下
新後古 霧
新千 春下
新拾 夏
新千 恋一
新千 恋一
風 旅
新千 秋上
新後拾 神
新後古 新上

よとてこころのかぎりとへとうらみ行ちる紅葉
はなをこそこれぬ色をは雪をしきてかりてへ見
あれはうき物ぞ月にあくがれて
すみうかれ心こまりもてゆくかたにはこれ
うかれやうかりつる花ぞ物をやてわかれ
新しまもりをきけはあきかぜ
をうしまのは庵のうすぬれ袖ぞ
月にとをこの人の(ゝ下)我袖よりかぎりの
ひこまつ草ぞ枕の庵のとなり
あるらつるを見る花ぞ庵のに心ぞ
中わかぬ非代ぞとをとを狂新
秋をすゝこられぬ庵をを

やとをこ人むし 賀茂春久
やとをこうん 賀茂定宣 紀氏
やとをめ乳 仁和寺二品法親王寛尤
やとをぬ行 賀茂行久
やとをかり乳 高辻紀氏
やとをかり 源信明朝臣
やとをわとへ 法下浄弁
やとをわとへ 女御徽後宮 女
やとをを月乳 平維貞
やとをを月を 紀貫之 紀氏
やとを月乳 賀茂倫久
やとを月乳 紀実経 紀氏

風 新上
風 新中
新千 夏
新拾 冬
新拾 新秋
新拾 夏
新千 新上
新後拾 秋上
新拾 秋上
新拾 夏
新後古 霧
風 新上

ちとしへ昔しにをかりしうを老ぬ
をすゝ昔をしをすゝ紅葉
をとをこ庵のとをとをこ
冬の秋にうををみよ
夜井をうをうの月をや宮かをぬを被
聖人ををの庵をみ
梅のうを老ぬ柳ををを
をを秋月にをををを
姫月昔ををにうををを
ちを宮をを出をを限
を清風みを中井にを月
をををさ昔をを秋

やとを月を 源高岡
やとを月を 如覚法師
やとを月を 蓮生法師
やとを月を 俊成女 信実
やとを月を 藤原為家
やとをを月を 皇太后宮 大夫俊成
やとををを 前中納言 藤原為家
やとをを 和泉式部
やとを池水 山階入道 左大臣
やとを宮水 前大僧正 慈円
やとを池水 前中納言 藤原為家
やとを池水 源貞秀

風 文

山ちかく雷さわぎてかなたこなたにみちたりぬ

やとれる梅の枝　前大僧正能因

風 親上

世にあるものは色香にたりぬるものをやしたれ

やとれる梅の枝　式子内親王

彰後古 長上

なつかしみなれにしかの面影かはりぬ

新後古 長上

さそひゆく風のつてにこれはいかにかをるらん

やどれる梅の枝　瓊子内親王

新後古 親上

山ちかく人ぞとこなつかしかりけるかをるらん

やどれる梅の枝　任長院内侍

新千 親中

色にそめ香にしかをる山ぶきはいつしかとのみ

やどれる梅の枝　入道前太政大臣

新後古 秋上

秋風は萩の葉すゑにかはりぬ

やどれる梅の枝　任前内大臣

彰千 親下

あらはれぬ色にぞ見えぬ

やどれる梅の枝　中宮大夫公実母

風 長下

桜をば衣にとぬぎかへてきぬ

やどれる梅の枝　式子内親王

風 賀

月出でぬ松の緑は変らねど

やどれる梅の枝　八条院高倉

新後古 長下

人はなほこのたびこそはかはりぬ

やどれる梅の枝　前中納言為秀

彰後古 冬

雪ふりつもる人の心にはかはりぬ

やどれる梅の枝　為兼卿

風 長中

行くとこそ庭にとりあつめ

やどれる梅の枝　後二条院御歌

風 長中

吹とはの風の下ぬ長風よ

やどれる梅の枝　伏見院御歌

風 秋中

彰うすき月みえそめて庭の面の

やどれる梅の枝　後二条為子

風 親上

さらさら桐の葉に風ふきて人は

やどれる梅の枝　任長院内侍

新千 長上

長風は庭のもみぢにふきて梅の香

やどれる梅の枝　前大僧正能因

新後古 親秋

我とはる庭の川の流にいとはるる

やどれる梅の枝　式子内親王

風 冬

夕暮にとまるとなく人なきあれば

やどれる梅の枝　瓊子内親王

風 親下

心こめかくとはなれぬ人ぞ

やどれる梅の枝　任長院内侍

新後古 親下 彰

人とはぬ人はなほ人の世にあるけり

やどれる梅の枝　入道前太政大臣

彰後古 親

長月の山々舞ふ雲よりに

やどれる梅の枝　前中納言為秀

新後古 親中

清田川のりの花やあるらん

やどれる梅の枝　為兼卿

風雅上
新拾吉下
彰後古忘五
風忘一
彰拾雅秋
彰千忘二
彰拾忘一
風忘二
風雅中
彰拾拾補
風雅下
彰千忘一

庵に月雪はさらにいとはねども
やとてい河
春雨の比之歌

少よとてやすらひ花をさそふ山
やとてもとめん
必歌法師

初霜のとうれけまかりにのこかたらひあてい
やとてふれき
春大納言為家

契おきてかたみにしのぶ袖の上に今
やとてふれて
松浦の宮の歌

昔の袖のうへ
やとりさてれ月をなつかしみ
やつれわすれ
西園寺入道前太政大臣

おく海よりいんぬ波はなをたちてくく
やしなれの
よしの入道

忘てをしかれ松人あさゆよりしかれ
やしなれの
住西園寺入道前太政大臣

旅の庵を風のすさまにわらさ
やしなれの
永徳院

君はやすめのうらにくらへてあ
やとりかの
前中納言為相

世の人ふかてしの外に交はうさ
やさはうにこ
住参議四位

住てうれをつねよりそうれ月にうれ
やとにうれん
西園寺前内大臣
住参議従三位

思ふ心にいりてみをいやはれ
やとにまよへて
住参議従三位

風雅中
風交
彰拾交
彰千雅上
新後古忘三
彰拾吉下
彰拾恋一
彰拾忘一
彰後古忘三
彰拾交
彰後古雅上
風雅下

たゝ雨の風えにいとはるゝ雅の
やまひわすれや
住中納言為家

花の色にをとらぬものさかりなれ
やまひうとれ
院の御

うれ中の月はさらにうれ村雨の
やまひうとれ
参議従三位為家

日の光はそこ中にうれ国風の
やまへうれん
朱雀院の御製

爰にうれ
やまひにうれ
春宮権大夫為氏

みてうれ花は昔の色のうれ
やまひにうれ
東宮御百首為氏

世はうれ雅の道のうれ
やまひにうれ
後の御百首
定嗣

神代よりうれ人の歌士の称はうれ
やまひにうれん
参議従三位

なをうれ
やまひにうれ
従二位為定

ふるの中にはいりせの
やまひにうれ
武士四位

紙のこゝはうれ
やまひにうれ
後の御歌

れの井はこそ
やまひにうれ
参議従三位

変為の月雪はこそ
やまひにうれ
従二位為定

彩子 雅
新拾 雅中
彩拾拾 賀
風 交
風 冬
彩後古 鶯
彩拾拾 雅秋
彩後古 春上
新後古 雅下
彩拾拾 冬
彩千 秋下
風 雅下

やまとたけ 清原国冬
やまとたけ 前大納言為氏
やまとたけの 従三位為家卿
やまとたけの 従三位為家卿
やまとたけの 賀茂
やまとたけの 参議清輔
やまとたけの 紀貫之
やまとたけの 摂政太政大臣
やまと山人 源俊頼朝臣
やまと山人 紀貫之
やまと川の水 西行法師

彩拾 春下
新拾 冬
彩拾拾 交
月 冬
彩拾拾 冬
彩拾拾 冬
風 冬
彩後古 交
月 雅中
風 雅上
彩子 雅中
彩後古 春下

なりたてい河くに流れまさんなら
とれつゝこゝろぬぬきゝりたれ月新しき
そこなくゆをゝゝ月毎に流れ
とゝゝゝ砂よりたくゆ流れ来ぬ者と
ゝゝ流れて流れ沢ハ岩にて行瀬よこまれ
ゝゝえくよ程みなれ上ハ分れて砂
分て程ゝやゝん大井河さゝ乱れ
桜のゝ代衣ひてゝ交ゝ川ハゝ
夜代松ゝ乱れ分けとゝゝきゝて風
如月ゝ川し雪に日数ハゝゝ
ハゝゝゝとゝゝゝゝゝゝ
ゝゝれぬゝ分ゝ川ゝの河ゝ

やまと川乃水 院九製
やまと川の水 遠村の院
やまと川乃水 為方卿
やまと川の水 二条院讃岐 兼光
やまと川の水 為親卿 実定
やまと川の水 四条隆房卿
やまと川の水 前関白兼良公 巻
やまと川て 法印定慶
やまとをの名 前大納言実教
やまと代形 太上天皇
やまと河 為家卿 実教
やまと川の河 前大納言実定

風交
風秋下
彩反接新秋
彩反接後
彩後古秋下
風新中
風去上
風去上
風新中
風秋下
彩千秋下
彩反接秋下

早苗とる田面の水鏡かさみ
ゆくとも秋の初風ぞ吹
新蕎麦一首を酒さかなに
秋思一首の花の美をふたのむしろ
風さむしまろかれよとあるそよ
名残の桜の色なるあはれ
出る日の月の雲はそれかく
わうぶくるにしの方の雲
夕日新田面をふく光澄
入あひ橋原のよはさそ
入月よりかくの人さ新蕎麦
姿の月をかたぶけ

やまと風そよ　前参議忠定
やまと風そよ　侍従隆教
やまと風そよ　栄室法師
やまと風そよ　東野法師
やまと四方の山　山陵入道前太政大臣
やまとこそ　任官の人の
やまとのみ　前中納言為相
やまとのみ　院の御
やまとの雲の月　太上天皇
やまとの雲の月　前大納言為氏
やまとの月　惟高親王
やまとの月　為氏卿女

風新中
風秋中
風新上
風新中
風去中
風交
風秋中
風冬
風新上
風尺
彩冬
彩冬

みるせはそれ日新の月
今しもうつる月をかな
雲を移す庭の人の秋
さとくれぬ山のをとはそ
なかれ移す庭のこすえ
夕立の風よおてい
姿をそ新のくもの風
神無月そらもまれに
ふるの里とそ世
心をはなして西
なりとそ行秋の雲
う紅葉の秋を花は出

やまとそれ　中務卿宮尊良親王
やまとのみ　冷泉為秋
やまとのみ　九条兼実女
やまとのみ　院の御
やまとの月　永福門院
やまとの月　後宮の御
やまとの月　任官の人の
やまとの月　後宮の御
やまとの月　四条隆大
やまとの月　浄土寺前
やまとの月　忠房親王
やまとの月　後新院

新千載

言かはすあふぎの風をたのみてのられぬるかな　やまぶきの月　二条院讃岐　受助

新拾遺　秋上

野風はなびくとなく萩のうへの露ぬれぬれぬ　やまぶきの月　源重之　拾遺

新拾遺　冬

秋ゆくとさしのぼるかの雲はつかの雪はつかの雪　やまぶきの月　藤原為家

新拾遺　冬

冬の風ふきぬるかぎりなれば　やまぶきの月　左近将監

新拾遺

小うちはらふ水の音にのみ聞かれて　やまぶきの月　参議雅経

新拾遺　恋三

恋もなほ人のうへにぞ偽りて　やまぶきの月　藤原為家

新拾遺　雑上

野辺の草の村雨にしをれてもなほ　やまぶきの月　藤原為氏

新拾遺　秋上

吹ちらす山の風ぞ白玉の　やまぶきの月　大江維範

新拾遺　秋上

野辺の草の村雨にしをれてもなほ　やまぶきの月　清原国人

新拾遺　秋上

なほ秋ぞ人よりまさる心なる　やまぶきの月　常盤光俊

日　秋上

ちるもの秋ぞ人の心なる　やまぶきの月　後嵯峨院

日　秋下

ちるもの秋ぞ人の心なる　やまぶきの月　大宮院

日　雑秋

ちるもの秋ぞ人の心なる　やまぶきの月　後鳥羽院

新拾遺　恋五

恋ぞ人の心なる　やまぶきの月　藤原為家

日　恋五

恋ぞ人の心なる　やまぶきの月　藤原為氏

日　雑上

恋ぞ人の心なる　やまぶきの月　後嵯峨院

日　雑上

恋ぞ人の心なる　やまぶきの月　後宇多院

新拾遺　恋五

恋ぞ人の心なる　やまぶきの月　藤原為家

新拾遺　恋五

恋ぞ人の心なる　やまぶきの月　藤原為氏

日　恋五

恋ぞ人の心なる　やまぶきの月　藤原定家

日　恋五

恋ぞ人の心なる　やまぶきの月　藤原光俊

日　恋五

恋ぞ人の心なる　やまぶきの月　後嵯峨院

新拾遺　恋五

恋ぞ人の心なる　やまぶきの月　後宇多院

日　恋五

恋ぞ人の心なる　やまぶきの月　後鳥羽院

日　恋五

恋ぞ人の心なる　やまぶきの月　後人不知

月入かたの
やまぶきの花　院御歌
やまぶきの花　前中納言定家
やまぶきの花　前大納言為家
やまぶきの花　前大納言為家
やまぶきの花　権大納言忠季
やまぶきの花　典侍藤子朝臣
やまぶきの花　源義忠朝臣
やまぶきの花　右兵衛督
やまぶきの花　右内大臣
やまぶきの花　東宮内侍
やまぶきの花　右衛門督為家

風
天
風
新拾
秋下
彩千
彩千
新後古
新拾
交
風
秋下
彩千
彩千
彩拾
交

花の色は霞の中にかくれつゝ
春の日暮れぬと思へば
うぐひすの谷の戸出の
花の色を
月と見るまでかくれ
出でぬる月を
みるとせしかな
梅の香をさそふ
霞の中にかくれ
春の日の
すぎぬるかとも
うぐひすの
春の日の
花の色は
春の日の
花の色は
春の日の
花の色は

やまぶきの花　平親宗
やまぶきの花　蓮生法師
やまぶきの花　後鳥羽院御歌
やまぶきの花　大僧正慈円
やまぶきの花　源頼仲
やまぶきの花　後人麿
やまぶきの花　清服部忠
やまぶきの花　清中将通
やまぶきの花　藤原信師
やまぶきの花　藤原重尹
やまぶきの花　二条院讃岐
やまぶきの花　宣光門院
やまぶきの花　新後拾遺

新後古
玄二
新後拾
雜上
風
新中
彩千
新拾
新中
彩千
新拾
新中
彩拾
新上
日
新上
日
新上
日
新上
新後古
新中
日
新中
日
新中

みるに人の心をまどはすかな
うぐひすの谷の戸出の
春の日の
花の色は
春の日の
花の色は
春の日の
花の色は
春の日の
花の色は
春の日の
花の色は
春の日の
花の色は
春の日の
花の色は
春の日の
花の色は
春の日の
花の色は
春の日の
花の色は
春の日の
花の色は
春の日の
花の色は
春の日の
花の色は
春の日の
花の色は
春の日の
花の色は
春の日の
花の色は
春の日の
花の色は
春の日の
花の色は
春の日の
花の色は
春の日の
花の色は
春の日の
花の色は
春の日の
花の色は
春の日の
花の色は
春の日の
花の色は
春の日の
花の色は
春の日の
花の色は
春の日の
花の色は
春の日の
花の色は
春の日の
花の色は
春の日の
花の色は
春の日の
花の色は
春の日の
花の色は
春の日の
花の色は
春の日の
花の色は
春の日の
花の色は
春の日の
花の色は
春の日の
花の色は
春の日の
花の色は
春の日の
花の色は
春の日の
花の色は
春の日の
花の色は
春の日の
花の色は
春の日の
花の色は
春の日の
花の色は
春の日の
花の色は
春の日の
花の色は
春の日の
花の色は
春の日の
花の色は
春の日の
花の色は
春の日の
花の色は
春の日の
花の色は
春の日の
花の色は
春の日の
花の色は
春の日の
花の色は
春の日の
花の色は
春の日の
花の色は
春の日の
花の色は
春の日の
花の色は
春の日の
花の色は
春の日の
花の色は
春の日の
花の色は
春の日の
花の色は
春の日の
花の色は
春の日の
花の色は
春の日の
花の色は
春の日の
花の色は
春の日の
花の色は
春の日の
花の色は
春の日の
花の色は
春の日の
花の色は
春の日の
花の色は
春の日の
花の色は
春の日の
花の色は
春の日の
花の色は
春の日の
花の色は
春の日の
花の色は
春の日の
花の色は
春の日の
花の色は
春の日の
花の色は
春の日の
花の色は
春の日の
花の色は
春の日の
花の色は
春の日の
花の色は
春の日の
花の色は
春の日の
花の色は
春の日の
花の色は

新千 秋下　大井河たのかりてはなれてもなほ
新後拾 哀　さゝなみやこしの月のさわりなき
風 雜上　あるくれの風ふきしをれて
新後拾 秋下　さらぬ木の下ゝ
新拾遺 秋下　枝をてらす月の影
新後拾 秋上　やはらぐるかゝるこゝろ
風 春下　ゆきをもてあそぶ
風 秋下　深やまぬ木の日影
新拾遺 冬　苔の根さらぬ
風 雜中　苔の根さらぬ
新後拾 恋一　ゆきかゝる
風 交　限あれば春の

やまぶきの花
やまぶきの花
やまぶきの花
やまぶきの花
やまぶきの花
やまぶきの花
やまぶきの花
やまぶきの花
やまぶきの花
やまぶきの花
やまぶきの花
やまぶきの花

大井河の水
後鳥羽院御製
本歌雜有
泰清朝臣
遍昭僧正
今宵は一日
院御製
永徳院殿御歌
信実朝臣
法皇御歌
藤原俊成
順徳院御製

風 冬　うゝ人の心をあらはす風の音さへ
風 秋下　吳竹のうゝ人の音をたゝ
風 雜上　一ゝにおもひてなびくなびく

やまぶきの雪
やまぶきの雪
やまぶきの雪
やまぶきの雪
やまぶきの雪
やまぶきの雪
やまぶきの雪
やまぶきの雪
やまぶきの雪
やまぶきの雪
やまぶきの雪
やまぶきの雪

桂宮家
院御製
後鳥羽院
永徳院
為世卿
津守國夏
伏見院御歌
伏見院御歌
伏見院御歌
為兼卿
為兼卿
西園寺公衡

新千 秋下　咲ぬれば
彩拾 雜上　ゆきの
新拾遺 秋下　ゆきの
新後拾 秋下　あるゝに
風 秋上　みるゝ
風 秋下　こゝろ
風 冬　吹ゝ
風 雜中　思ひやるこゝろ
新千 恋上　ゆゝ人の

やまぶきの風
やまぶきの風
やまぶきの風
やまぶきの風
やまぶきの風
やまぶきの風
やまぶきの風
やまぶきの風
やまぶきの風
やまぶきの風
やまぶきの風
やまぶきの風

伏見院御歌
為兼卿
為兼卿
伏見院御歌
伏見院御歌
為兼卿
為兼卿
為兼卿
為兼卿
為兼卿
為兼卿
為兼卿

新拾 去下
吉野河岩越波のうち吹よこまつかな
日 雅上
冬はなの月新しき春はなを
風 去下
吉野河さらぬ世とうの色かな
風 春下
川の風よ姿やなれ面影すき色哉
新千 尺
星人の心とちるとかとふていわしり
新拾 去下
花さそふ井の川波よ新みて今さらかな
新拾 去下
なつの月河を水よ新みてらぬすうふ
新拾 去下
新月をなれ玉川をこうよ八重山吹かな
新拾 去下
色とまなれいさる蛙の井てはなうの
日 去下
たまり淵のもらるやかてん底はなき
日 雅去
袖わけ春ゆてて梅はなの
新拾 雅去
山ちろはなれて春人はなるてこそ
やまぶきの花　なかの家歌合
やまぶきの花　赤人卿の往還
やまぶきの色　女房歌合
やまぶきの花　源俊頼朝臣
やまぶきの色　女房歌合
やまぶきの花　左兵衛督
やまぶきの色　右兵衛督
やまぶきの花　白川左大臣
やまぶきの花　小町
やまぶきの花　白川左大臣
やまぶきの色　摂政太政大臣
やまぶきの花　平重衡

新後拾 去下
八重山吹の色ふかい世山中ちる川の
日 雅上
春雨川なくて去所川水よ新みて人の
新千 冬
なくに新ちなくて思ひ花をみ
新拾 神
はなれよ山吹の花ちるかさえ
新千 雅下
さらて世ちりてのくさ
新千 新下
すめる海世ちりちるみのうち男まれ
風 去中
なれなるもちるこうをやん独みまよ
風 去下
君ちる人ちてこそ称よちりゆく
新千 去上
さあ月花世なれ月ハ花をみてさらりの
新千 春下
雷こそ花入来よさそうれて空ばかる
日 去下
わちはなるまちうすまてわかる月の
日 去下
黄ちる人よ入さそうれて去風はなる
やまぶきの花　藤原氏朝臣
やまぶきの色　女房歌合
やまぶきの花　源俊頼朝臣
やまぶきの色　二条院讃岐
やまぶきの花　乃明法師
やまぶきの色　東宮侍
やまぶきの色　清輝朝臣
やまぶきの色　皇太后宮大夫俊成
やまぶきの色　平兼盛
やまぶきの色　女房歌合
やまぶきの色　冷泉為尹卿
やまぶきの色　松殿二宮院
やまぶきの色　大夫為四位

新千 去下
彩千 雜上
同 雜上
彩拾 去上
同 去下
彩拾 賀
彩拾 春下
彩拾 雜去
同 雜春
彩後古 去下
同 去下
彩後古 去下

やまさとは　藤原俊成
やまさとは　藤原清輔
やまさとは　丹後左近将監
やまさとは　藤大納言為氏
やまさとは　慶運朝
やまさとは　中院内大臣
やまさとは　左大臣
やまさとは　藤原清輔
やまさとは　法印定雅
やまさとは　俊成卿女
やまさとは　藤原家隆
やまさとは　源頼政

やもすれば　宗久法師
やまぶきの　慶運
やけてあの　為家
やつはしの　藤原為家
やあらしの　俊子内親王
やまとなる　俊子内親王
やまがはの　藤原為家
やみよはよし　藤原為世
やみよはよし　法性寺入道前関白太政大臣
やらはれの　藤原為家
やらはれて　藤原為家
やらはれて　藤原為家
やらはれて　藤原為家

彩拾 旅
彩千 羇
彩拾 恋四
新千 雜上
彩拾 雜上
彩後古 恋
彩後古 輝
同 恋二
彩千 春
彩千 雜上
彩拾 恋四
彩後古 恋四

しらつゆの　藤原為家
ながめつる　藤原為家
ながめつる　藤原為家
ながめつる　藤原為家
ながめつる　藤原為家
ながめつる　藤原為家
ながめつる　藤原為家
ながめつる　藤原為家
ながめつる　藤原為家
ながめつる　藤原為家
ながめつる　藤原為家
ながめつる　藤原為家

新千表
風雅中
風雅下
彩後古々
彩後
雅中
新千
雅中

男山に岩さくふみてはうつるの
みるせゝ書まくれなゐの松陰よ
てをとりさしさあつまりて民心の
なること男山の松老乃浪にて
男山よりてきかれぬうさを打て
ここに世乃人とれをれて
ちく浪乃うちぬ

やとれのうつて　法印忠久
やとしゝ人　中務宗尊親王
やとしまもの　太上天皇
やとく越られ　俊子門院
やとけの松や　入道宗教法師
やとをなるの　左近中将義忠

二百五十六首

ま

新千秋上
新後拾雅表
彩後拾別
彩後拾雅上
彩後拾恋下
彩後拾秋下
彩後拾雅上
彩後拾雅下
風雅中
風表上
風雅中

七夕乃あまくもとをゝ妹風吹て
男山とをゝ乃ゝ郭公きゝて
月人よりゝ心乃あるかの
しゝ乃宮乃をなてゝ老乃月
ゝ乃ゝ中乃
さゝ人ゝさゝ乃夜とうわひて
秋とゝ乃ゝ乃枕ゝ乃
ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ乃
ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ乃
梅ゝ香ハ枕よりて
男入ゝ乃ゝ乃ゝ乃

まくらのあるかの　左京大夫顕輔
まくらのあるかの　小弁
まくらのあるかの　中務
まくしのうへの　長宗入道
まくとのあるかん　左京大夫
まくとのあるかん　源頼之朝臣
まくとすゝ大　源頼実朝臣
まくしのうへの　権中納言為重
まくとのあるかの　後伏見院御製
まくとのあるかの　後伏見院御製
まくとのあるかの　前中納言

新千 雜中
新後古 雜下
新千 哀二
新拾 哀三
風 恋二
新拾 名三
風 恋二
新千 恋四
新後古 雜
風 秋中
新拾 秋下
新後古 秋下

うきてはかなき世をうらみ
まこと成仏
金葉三 藤原
なきて思ひのきわるなみに
ぬれぬ袖かな
紅葉分 四条
うきてはかなき勇なかるひと
人をもうらみ
読人不知
義よりさきにて成仏のきはつよ
たのめてはいとゆ思ひ
まちよりのち
前大納言忠孝
たのめてはいとゆ思ひ
花ぞあはれ
法住寺
人はさわぐ
まちよりのち
前右兵衛督
ゆめ
なまて
まちたのめ
永福門院
秋を人はあはれ
まちもよりす
前大僧正
三条殿
まちとせ
元亨
山ぶきの
まちとせ
田分内分
ちりて
花ぞ
まちとせ
皇太后宮
金葉後
をとこ山ぶきの
まちかりの
まちとせ
ちりて
入道
をとこ山ぶきの
まちとせ
前中
ちりて
入道
をとこ山ぶきの
まちとせ
前中
ちりて
入道
をとこ山ぶきの
まちとせ
前中

新千 忘一
新古 尺
風 春上
新拾遺 忘一
風 冬
新拾遺 忘一
新千 雜下
新後拾遺 尺
新千 尺
新拾遺 尺
新古 輝
新千 尺

うかりける三の山里にかよふ人かなみ中に
子とおもふ心を松にかよはすとはいかなる教やとは
雪にしき山乃雪出てゆきて消ぬ
山末に松にかゝる月入つゝにやてて
さとへ人のゝ記にはあまるみて海松ゝ
つゝきん寺に鹿の引かなとこれぬ忘れよ
愛とはあるかの地と思へてうつゝとなし
さ言とえぬ公ぬ乃つゝそ愛にかゝれ
四ゝとかにさゝとゝ山ゝ海世をそてぬ
袖と紅色ぬ八潮ぬ乃ゝなみゝや
引ぬれにそゝるゝみてそゝ木ぬてゝ
くゝ風ゝとゝ紅ぬ乃ゝ公乃なふ

ゝゝ契し 住飛鳥院僧
ゝゝ人 武蔵ゝ久明 釈ゝ
ゝゝ比か 奈良院僧
ゝゝ石ハ 石ゝ
ゝゝ雪ゝ 岩原為寺
ゝゝてゝハ 為道朝臣
ゝゝ人れ 前大僧正定実
ゝゝ人れ 前大僧正果寺
ゝゝ人 後二位為理
ゝゝ人 法下寺通
ゝゝ人 前大僧正定実
ゝゝ人 忠後上人

新千 尺
新拾遺 尺
新千 輝
風 忘二
新拾遺 賀
新拾遺 々
円 親王
新拾遺 秋上
新千 尺
新後拾遺 文
風 秋十

ゝゝ人 法下澄後
ゝゝ人 性厳法師
ゝゝ人 法下家尋
ゝゝ人 前大納言為兼
ゝゝ 院冷泉
ゝゝ人 伝西園寺公衡
ゝゝ人 性円法師
ゝゝ人 宮内卿
ゝゝ人 四条
ゝゝ人 浄土法師
ゝゝ人 前大納言為兼
ゝゝ 前大納言為兼

女

風 忘二
風 忘五
新千 尺
風 冬
新千 交
風 恋下
新拾 忘二
新後拾 恋上
風 雜上
新千 恋三
新拾 交

むかしてはつよはなをうめとうたはれしかとこのころはさくらのはなのみをもてはやすなりけりいふかひなくこのころよりのちのかぜはいとはやくさくらのはなをちらすなりけりあさかほのはなのいとはかなくしぼむをもあはれとおもふかりにたとへてよめるなりけりあはつゆはやがてきえぬるものなれとあるかなきかのものなれはなりけりあきのはつかりのこゑはいとかすかなるものなれとあるかなきかのものなれはなりけりあきのよのつきはいとあかくてあるかなきかのものなれはなりけりあきのよのつきはいとあかくてあるかなきかのものなれはなりけりあきのよのつきはいとあかくて

彩続古 新中
風 新下
彩指 新中
彩反指 新秋
風 尺
風 京二
彩千 京之
風 京二
彩続古 冬
彩千 京之
新分 京二
新続古 京之

さるみなかの紅葉やみえん山里とさしてとゆくく
泥ちるこゑんは紅葉をれかもちかの変に
数しる河代とも先住山こえ行一波よ
大井河のかをれ流よりの野辺にてをよ
ちるつゝに先てもりまてぬ(こと)をかて
秋れ乱の称も北月にてさるを世かの辛も
たぬをとゐよのあをこりかてに波のりに
て桂の人しるかさ京にをるれかをの句にて
今氏川みなとをつるを第をてを波と
あるまてをしるて家ぬかをこをうつさと
れかをを旦さてあしるをて世れ燈よ
美ををしあいをあ中をなの世屋をうつよ

まをうれかは 二条は歌を愛助
まをうてかは 前中納言為相
まをれかを 前中納言雅孝
まをうつて 氏尺実遠
まをてを 慶政上人
まをへをん 前大納言為兼
まをやかをん 前参議為相
まをなをん 従定院内大
まをやをん 正三位義宣
まをやをかん 前大僧正良信
まをやをれん 前大納言為兼
まをやををん 法下慶運

彩千 義
彩千 新中
彩指 京之
彩千 新中
彩指 京之
彩指 京
彩指 京上
彩続古 京上
風 京
風 京
彩千 京之
風 尺
彩指 京又
新拾 新中

かをつをれしをつさを寄をけをれ
おをつを新波の葉代をの紅をは八代
あれ秋野をせて美命白をふ
男山をとを世代をかをてをを
立海りかを去さし石清水うち出波の
を月鹿にをを月をを高を高
うをみをんををを男をを心をてを
夕をを代宗吹をを遠風をこをを
神にを波乃ををはかをを波をを
妙法乃をを日月のをを代をを
をを代のををををれ指ををを
紙分をを四やかををををを者を

まをやをれまん 為通卿女
まをやをれまん 友房法橋娘
まをまをれかを 花園院内裏
まををれをれ 校納言具通
まをこををまて 芳池利寺院 分別日吉社
まをこををまん 法華深養文
まをあをれかを 仏法見院 中納言典侍
まをあををを 宝光門院 彩女集
まををををまん 中宮定公宗 一女
まををを分 前摂政為家 源信
まをををれ 寺持院内 左大臣
まをををを 源義春

新拾遺 雜下
山ぢのうれにてうくひすの
なくこゑのはるかぜにとけ
ぬらん　校侍従殿深

新拾遺 雜
かすみこめるはるのゝ
ぬのをはるかぜにとけ
ぬらん　前大納言為家

新千 冬
ちりすぎぬ外山のかすみ
ゆくはるをとめてとまる
ものとしらなん　侍従為親

新拾遺 冬
あら山ちるさくらの
ゆくはるをとめてとまる
ものとしらなん　安嘉門院内侍

新千 夏
ちりすぎぬ
ゆくはるをとめてとまる
ものとしらなん　花園院御製

日 夏
うたがはぬ
ゆくはるをとめてとまる
ものとしらなん　六条右大臣

日 秋下
玄秋ぬれぬれやあら山
あらしとはいかにとまれる
ものとしらなん　後鳥羽院御製

新後拾遺 雜
あらしとはいかにとまれる
ものとしらなん　成尋法師母

風 恋二
こゑのかぎりをつくしてなく
ものとしらなん　永福門院

風 秋上
村雨ぬれかぬ時しも
ものとしらなん　院内大臣

風 雜中
出てゆく
ものとしらなん　藤原為忠朝臣

新拾遺 恋三
秋の雨に
ものとしらなん　伊勢大輔

新拾遺 恋三
たぬきの
ものとしらなん　後鳥羽院御製

新拾遺 恋下
さかりの
ものとしらなん　俊成卿女

日 恋三
うつりゆく
ものとしらなん　津守国貴

新拾遺 雜中
限あれば
ものとしらなん　頓阿法師

新後拾遺 雜
山ぶきの
ものとしらなん　校中納言藤原為忠朝臣

風 恋二
さかりの
ものとしらなん　道の内記藤原家春日

風 恋二
わすれぬ
ものとしらなん　源和氏

新後拾遺 恋二
つれなくて
ものとしらなん　順徳院御製

日 恋四
たちぬ
ものとしらなん　左兵衛督実雅

新千 恋
あるかぎり
ものとしらなん　実教卿母 左近衛中将

新後拾遺 春上
二葉より
ものとしらなん　柿本人麿

新千 春
三瀬川
ものとしらなん　右近大将実経母

風
交

彩抵指
志二
日
交

新抵指
新上

新後古
玄下

日
玄之

彩千
玄之

彩子
尺

彩子
新下

彩抵指
新秋

日
新上

日
新上

あらしにまかせて卯月の時雨の人乃今日
はつとせの白雲ふかりて石のれやうれい海の
たつのたもとかりて新玉さしてい人よ
山さとにはりそそてよこや世のうさをうらん人
心あるあやうへうん玄一とに芳さかるる
さとなりてきしへさまさまの秋のよ文貞を
字別一公にてて今いの九代のつへとれい
心月ぬしは世の中の時て解脱のつよ
神さえてあるよ家さしうと義をいるる
まち出る月ぬるうるこ中にたるふ
あるし沼ちちひさをおてて海にうるの
乃とふとまて山ぬ粤文あるれ人く

まれうけく　東大納言為家
まれうる人　右大臣
まれうる乳　昭素門院一条
まれうる心　元亨法師
まれうう鴻　白河院御製
まれううさ　後恵法師
まれ風て吹　前中納言為経
まれ世て吹　弓弁上人
まれ世て吹　源家長卿
まれ風て吹　後鳥羽院御製
まれ世て吹　権中納言為重
まれ世て吹　三条院御製女

彩抵指
新上

日
神

彩後古
神

日
雑中

日
新中

日
玄之

彩子
玄上

彩抵指
玄下

彩後古
交

風
玄二

風
新下

彩千
尺

海ぬるとうちちえてれいたて山岸まて
あるう海やさ波なうるうる船と神世にうとて
八幡山沼ぬれるあ一ちぬれうちに牧美代く
川方に世とうれも一山星まつるさ有と
とる山沼ぬしてこまてれい慈しう彩に
人ぬうるうる秋あるぬるよ更てもうとぬ
きしあ一ぬ川の雪乃玄ぬてうう世ぬの
きてうにけみうる新久月よ川ぬうる
古稜川ぬ年ぬ月ぬるぬ秋ぬ
とうつうおりひとてていこうけ新ぬに
ぬぬうさを心とれよあるさてわるあ
うる新ぬうとうる新ぬ心うさるれ月を

まれ風て吹　法眼玄入子
まれ風て吹　抵中納言御製
まれ世て吹　八条院一条
まれ世て吹　右大臣家教定
まれ風乃玄　嘉禄祝経
まれ世ぬ　夜美乃四条
まれ世て　右大臣
まれうあ　光義光前衣
まれ世ぬ　西園寺右大臣女
まれ世ぬ　陸奥守邦有朝臣
まれ世ぬ　左兵衛督忠義

新拾 雅
新拾 別
新拾 雅中
風 雅中
新後古 賀
同 恋上
風 秋中
新千 秋下
新千 秋下
新拾 秋下
同 雅上
同 雅上

雲のうへまでもとどめぬ世とたのみつる
ながめにわが心ぞ衣かたしきてのこりなく
ゆきぞ消ぬる冬の夜の
ゆふつけ鳥のなくこえぞ
大井河ゆきかよひてこそ飛ぬめれ
きさらぎ
なきてはまをつれなき雪ぞ降
世の人のこゝろあらばとはまし
くらしとあらばとはまし
ゆきとのみ
なほ
なほ
なほ

彩指 新中
彩後吉 尺
風 秋下
彩指 赤
風 新中
彩指 意三
風 冬
彩千 交
彩指 尺
彩指 冬
彩後吉 意一
彩指 新中

月のかたちにこそ思ひよそへられけれ　清原御製
月の風は　元可法師
月の姿は　東大納言公任卿
月の姿は　保輔左衛
月の風は　東大納言公任
月の姿は　敦忠中納言一集
月の下は　東大納言公任
月の光は　開白左衛
月の下は　源宗忠
月の光は　後三条院御歌
月の下は　従義孝公
月の下は　東大納言公任

風 新中
新後吉 交
風 冬
風 冬
彩千 冬
彩指 新秋
新後吉 新上
月 新中
彩下指 意上
風 秋中
風 新中
風 新中

月のかたちにこそ思ひよそへられけれ　菅原為輔
月の下は　賀茂女
月の白雪　後冷泉院御歌
月の白雪　東大納言公実
月の白雪　東大納言公任
月の白雪　源宗忠
月の白雪　後三条院
月の下は　平常親
月の一は　東大納言公実
月の一は　院御歌
月の一は　東大納言公任
月の一は　後三条院御歌

風 親中
彰後古 親中
風 秋紙
彰後古 秋下
彰後古 秋上
風 親下
彰後古 尺
彰千 秋上
風 親下
彰後古 之一
彰後古 忘中
日 秋下

ながれてこぬるうら舟よりうらをこぎ
てみやびて紅葉するあり石をたゝ
ちかるるみとをりの人未見れ
山姫の心のまゝにそめなさへ
ちりの川の色すゝて表皇つまし人丹
七十代を流して今ハ昔
うゝなつかし昔の新風
わくらはにてやはなの月を
あらそはてよりさう座の絵すゝ
思ひ心の文は一ゝにて神乃
なとなのかるにつまとゝ人の色
ちりぬるを紅葉をみる時ハ

まれて　百一上人
まれの　前大僧正
まれて　皇太后宮
まれや　前社頭
まれ　高倉院御
まれ　小弟
まれて　法下
まれ　桜井中納
まれ　西園寺
まれ　竹林院
まれて　前参議
まれ　中納言

彰後古 親秋
日 親秋
日 高二
風 之二
彰後古 忘一
風 秋上
彰後古 秋上
彰後古 文
日 霧
日 秋上
彰後古 秋下
彰後古 表

秋乃親ながら紅葉ハ花ゆゑ
宮さまをまもるとて紅葉月ハ
ゆるさぬ
ゆるすとて
ゆるす
ゆるす
ゆるす

風 能中
彩 霧
日 能中
日 京中
彩 霧
彩 該
日 能下
風 交
彩 京二
彩 京之
日 京之
彩 能下

こゝ大はあまよ氏宮よりかすみわたりて
舟こゝてかすみく神代ゝ風とたゆふ波乃
京はわすつ四氏西乃山の序吹ちて世と
ちゝうり紅葉の月とかゝうるをれ
ちりまゝ飛ゝ廣分衣ちりしをゝ(いとゝ)てやまに
あちらこゝ西(こゝ)乃ゝゆさ雪あやふ
ちゝ乃ゝやいゝ乃ゝ地(乃)巻せに沈井に流て
五月雨にてゆく波ゝ乃ゝやかゝとかゝ
たのしゝやいのれ神と思ん行れ
あすゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ
ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ
ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ
ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ

まてしなさく 徽安門院
よてしなさく 清上添憲
まてしなさく 二条院讃岐
まてしなさく 御製
まてしなさく 菅原宗秀
まてしなさく 橘為仲
まてしなさく 二条院讃岐
まてしなさん 寂蓮法師
まてしなさん 藤原為家
まてしなさん 藤原為氏
まてしなさん 前参議為相
まてしなさん 中務卿宮尊
まてしなさん 藤原長秀
まてしなさん 入道二条為氏
まてしなさん 法華寺

彩 子尺
彩 京水
彩 能古尺
彩 京之
彩 千京之
日 能下
彩 京交
風 京冬
彩 千交
風 京一
彩 京冬
風 能中

波をかゝうりの彩をゝ乃ゝ
神垣はゝ代ゝゝゝれゝ彩をゝ
てゝゝゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ
あゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
五月雨ゝ川岸乃ゝ成ゝ
うゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
さゝゝ河神ゝゝゝゝゝ
枝ゝ乃ゝ梢ゝ雨ゝゝゝ

まてしなれ 後鳥羽院御製
まてしなれ 後鳥羽院
まてしなれ 賀茂重保
まてしなりせは 後鳥羽院
まてしなん 平行氏
まてしなれは 大江廣元
まてしなん 前宮内大輔
まてしなん 俊成卿女
まてしなん 七条院
まてしなん 中納言家持
まてしなつゝ 藤原長秀
まてしなん 入道二条為氏
法華寺

彩千秋下
風
玄上
新千
文
風
報上
彩後百
霧
新拾八
水
風
玄上

川風の秋さむしなる月もすめる人
なるらしあらしの雲にしぐるなり　為道卿
ちるはいろもみぢの水のきわ〳〵の波か　仮名院内大臣
ちるはなにしぐるなり　為定卿
ながめてもたれ月に秋の水よりは　仮名院内大臣
ちるはなにしぐるなり　為定卿
あしの根ゝ山のくらくもの面ゝ　為定卿
ちるはなにしぐるなり　為定卿
ゆくへなき人をもとはぬ山すがらとて
ちるはなにしぐるなり　為定卿
ちるはなにしぐるなり　為定卿

二百五十八首

風
玄五
風
玄一
新千
義
彩拾遺
文三
彩拾
玄一
風
冬
彩後百
玄一
彩千
玄二
彩拾
天
新千
玄上
彩拾遺
文

け

つゆもなきあつかりしを限りて世かくは
なをしばしてれわ　永福門院
三月雨に称にてそてねさ森に入世の庵乃
なをあへき物と　野宮内
色かりの袖に庵にしるしんわりしいつ
なをあへき物と　遊女四郎
夕暮はなのしをりにつくさあり川はあ
なをあへき物と　中院内大臣
海川にうるゝ水にかるゝんなりわ
なをあへ人のあれ　於恒
うゝ玉にてしの雷にいとあ玉しんあ
なをあへ　読人しらず
柳はなをよ彩をなりにて紅葉に
なをあへ　源宗于朝臣
さとうゝ巴よゝ市乃命乃公よりてし
なをあへ物を　源重之
山みちをゝとたのしをりわ
なをあへ　紫式部
花みゝて行へき物と玉柳はなをて
なをあへ　後二条為明
わらはゝ乃花乃をもゝ時る彩わるくよ
なをあへ　山階入道左大臣

新拾 雜
彩千 秋下
彩千 神
彩続古 恋二
同 哀
彩拾 秋下
彩拾 雜中
新続古 羇
同 恋四
同 交
彩拾 雜下
彩続古 哀

めぐみ忘しなをいとれ松とひろやま山を
八十まてわすれなんあ命をてみ長月の
ゆきしかう袖をしるしてはつ乃はなかさ
つ秋をせきあてはつ海のそ世を秋つ
思ひ新しさらをとわすれとはく一を池乃
月新をまてを海乃煙乃はれ塩焼のまに
ひくふねをは西乃秋の浦こをみてに
なみ波やタをしらねを里みてこのさるるに
思ふうへせてをを命をあんを我世ハ乃
田をはるのをとをやあ宵毎にしぬ当乃
はな海りかをしらわるををてハをるをぬを
世ハ松をしるをを人をを冬をハ乃

きをふこゆん 為二条院
ふにおのあ乃 正三位隆教
きをまわるを 女院六条
をををを乳 従二位親政
きをとやを 和泉式部
きをりかを 為家卿女
きをりをり 俊二位殿
きをりをり 国学院大学所蔵
きをりを 或尼眼明 釈
きをりを 藤清輝
きをりを 男
きをりを 源保経

風 雜下
彩千 哀
彩拾 雜長
彩続古 雜上
同 雜上
彩拾 恋一
彩千 恋四
同 恋四
風 恋二
彩拾 雜下
新千 哀上
風 雜下

をれやさハをを神ハ乃をとを移乃四乃
ニをを人山ををしをを哀をを紅をやを
ををを長をを移ををを恋をを乃
ををを天分ををををを
新みを世人の庭やわをを下
ニををを紅乃やをしあを
ををて移世ふををを
おををれをみを長をを
をを月日数ニをををを
大方乃長乃わをれの外を又わを世を
長あを紅雪をを水を神ハをを
海ハを庭乃命ををを世を

きをりをん 法中澄恵
きをりをん 建礼門院右京大夫
きをりをん 拾遺抄作者不明
きをりをん 伊周法
きをりをん 中宮定子 母
きをりをん 拾遺抄作者
きをりをん 安嘉門院四条
きをりをん 法印尊邦 親王
きをりを 俊子 俊成
きをりを 前中納言定家
きをりを 俊成卿女
きをりを 竹林院入道 左大臣

鳳賀
新撰秋下
彩多反
鳳親下
鳳玄下
彩千忘之
新撰忘二
彩線古尺
彩撰撰
鳳忘
彩千忘五
鳳親下

たつの民乃かすみにかくれぬる
あすも行末の春の池水
山さとは雪のかすみへ親ふかし
かきくれて煙乃波の立まさる
ちぬうてなとて橋をうつしたる
人心なりけるとてうみまつ
いふたのいふのけくうとみ

きりのいろ
きりのいろ
きりのいろ
きりのいろ
きりのいろ
きりのいろ
きりのいろ
きりのいろ
きりのいろ
きりのいろ
きりのいろ
きりのいろ

実綱卿
刑部卿兼
野宮大宮
二条中納言
実助
藤原定家
四条隆教
仏性流転
分大僧正慈
源俊直
俊子内親王
仏性流転
御製
四条隆教

鳳冬
彩撰撰
親長
月忘二
鳳親下
彩多
長
彩千
羅
彩撰忘
彩撰古
羅
彩撰
長下
彩撰古
秋上
新撰
親上
彩千
苔

たかの下しもの神乃たつ雷
こまもの恨もたつて苔と
千万振神代たつこ彩多
たかの長八音にたつ月
かりてとりへさ江井の人
つまあるをかりに菅てみたれ
仏御山仏をあんとおりつ
分れ出る波とたつ
苔あれいくつ北地と大井川
色そに神とかりて炉
山陰ハ彩長さし月白雪
たとせ乃中井にまたつる

きりのいろ
きりのいろ
きりのいろ
きりのいろ
きりのいろ
きりのいろ
きりのいろ
きりのいろ
きりのいろ
きりのいろ
きりのいろ
きりのいろ

仏御前作
苔
中納言定親
二条中納言
恵信上人
蓮生法師
中納言定持
乃至法師
苔
苔
苔
源時秀
月詠四侍

彩結古 秋下 日 志ゞ

少よさして秋を思ふ人しなて衣かへる

法一位行家

新千 雜上

おもひつるをしをあ卜幾の雁はなくて候

蓮生法師

日 志ゞ

よいふみ人をたれこそ

文治四年百首

新千 雜上

なゝ月の空あきうの人のやつるゝ毎年秋の

四月

風 冬

たゝて来るたれ思ふの松風ゝ

白川院

風 冬

あつ雨をあ秋よりつ咲ゝ

後鳥羽院御製

新続古 冬

物風よなひくゝ物あさ夕風ゝ

後鳥羽院御製

新千 秋下

七夕いうれて思ふや海ゝ月河音

法印定為

新千 秋上

たつ雨物ゝ〇の夏ゝ雨ゝ

俊成卿女

彩結 志ゞ

風 志ゞ

ふやゝんまゝやみゝんこゝりに初ゝ

俊成卿

彩指 志ゞ

日 志ゞ

あて志つ雨ゝ夕ゝ雲とゝゝ物ゝ

後鳥羽院御製

思ふたれ夕ゝ雲ゝ物ふゝ

源頼政

新千 秋下 彩ゝ 冬

雨ゝ雲ゝ雜ゝ菊ゝ露ゝ

俊成卿

彩結 秋上

雨ゝ久ゝ物

新千 秋下 彩ゝ 冬

雨ゝ久ゝ物

新千 秋上

雨ゝ雲ゝ秋ゝ

土御門内大臣

彩指 雜上

雨ゝ雲ゝ秋ゝ

中宮定子宮母

新千 冬

雨ゝ雲ゝ

源重之

七十八首